

人権に関する市民意識調査  
報告書

令和5年(2023年)3月  
彦根市



## はじめに

彦根市では、「人権尊重のまちづくり」を市政の重要課題として位置付け、昭和 61 年（1986 年）に「彦根市人権尊重都市宣言」を、平成 10 年（1998 年）には「人権が尊重されるまち彦根をつくる条例」を、平成 21 年（2009 年）には「彦根市人権施策基本方針」を策定し、行政すべての分野において市民一人ひとりの人権意識の高揚と人権擁護のためのさまざまな施策を推進してきました。その結果、市民の皆様の人権意識は徐々に高まると同時に、人権問題に対する理解と認識は着実な広まりと深まりを見せています。

一方で、社会情勢の急速な変化を背景に、人々の価値観や生き方も多様化し、部落差別、女性、子ども、高齢者、障害者、外国人などに係るこれまでの主要な人権課題に加え、性の多様性に関する問題やインターネット上での誹謗中傷、新型コロナウイルス感染症に関連した差別といった問題なども大きな人権課題となっています。

こうしたことから、彦根市では、策定後 10 年以上が経過した「彦根市人権施策基本方針」を見直すこととしました。見直すに当たっては、市民の皆様の人権に関する現在の思いや考え方が重要となりますので、「人権に関する市民意識調査」を実施することとし、その結果をここに取りまとめました。今後、方針見直しを始めとする人権に関する施策を推進するための基礎資料として活用してまいりますとともに、各方面においてもご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、この調査にご協力いただきました市民の皆様や関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

令和 5 年(2023 年) 3 月

彦根市長 和田 裕 行



# 目次

I	調査概要	1
1	調査の概要	1
2	回答者の属性について	3
II	調査結果	6
1	人権全般について	6
(1)	「人権」についての思い	6
(2)	彦根市における人権尊重の状況	10
(3)	人権に関する法律について	13
2	差別や人権侵害を受けた経験	20
(1)	差別や人権侵害を受けた経験	20
(2)	差別や人権侵害を受けた場面	23
(3)	受けた差別や人権侵害の内容	26
(4)	差別や人権侵害を受けたときの対応	30
(5)	住宅を選ぶ際に忌避する条件	33
3	性別に関する人権問題について	39
(1)	性別に関する事で、人権上問題があること	39
(2)	性別に関する人権問題を解決するために必要なこと	42
4	子どもの人権について	44
(1)	子どもに関する事で、人権上問題があること	44
(2)	子どもの人権が尊重されるために必要なこと	47
(3)	児童虐待をなくすために必要なこと	49
(4)	いじめの予防・早期発見・早期対応のために必要なこと	51
5	高齢者の人権について	53
(1)	高齢者に関する事で、人権上問題があること	53
(2)	高齢者の人権が尊重されるために必要なこと	56
6	障害者の人権について	58
(1)	障害のある人に関する事で、人権上問題があること	58
(2)	障害のある人の人権が尊重されるために必要なこと	61
7	外国人の人権について	63
(1)	外国人に関する事で、人権上問題があること	63
(2)	外国人の人権が尊重されるために必要なこと	66
(3)	ヘイトスピーチについての考え	68
8	LGBTに関する人権問題について	72
(1)	LGBTの方に関する事で、人権上問題があること	72
(2)	LGBTの方の人権が尊重されるために必要なこと	75
9	感染症に関する人権問題について	77
10	インターネット上の人権侵害について	80

11	部落差別について	83
(1)	部落差別を知ったきっかけ	83
(2)	インターネット上での部落差別について	87
(3)	部落差別の現状について	92
(4)	被差別部落の出身者について	95
(5)	部落差別を解消するために必要なこと	102
12	人権啓発・教育の取組について	105
(1)	有効な啓発活動	105
(2)	人権に関する講演会や研修会について	106
(3)	人権が尊重されるまちをつくるために必要な取り組み	112
(4)	今後特に取り組むべき人権問題	114
13	自由記述	117
III	調査票	119

# I 調査概要

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

市民の人権に関する意識の実態調査を行い、平成 21 年に策定した「彦根市人権施策基本方針」の見直しに向けて、市民の人権に関する意識の現状を把握するための基礎資料とする。

### (2) 調査期間

令和 4 年 11 月 8 日（火）～同月 30 日（水）

### (3) 調査対象

調査地域	彦根市全域
調査対象	市内に住む満 18 歳以上の者（市内在住外国人を含む。）
標本数	3,000 人（うち、市内在住外国人 80 人）
抽出方法	市内の 18 歳以上の住民基本台帳人口に基づき 3,000 人を無作為抽出
抽出台帳	住民基本台帳

### (4) 調査方法

郵送法、オンライン調査法（回答者がどちらかを選択）

※郵送法は、自記式アンケート調査（無記名方式）、調査対象者全員にハガキによる再依頼。

なお、外国人対象者に対しては、4 か国語の翻訳調査票（ポルトガル語・英語・中国語・ベトナム語）と「やさしい日本語」版を送付した。

※オンライン調査法は、調査票とともに配布した I D・パスワードを用い回答。（個人は特定されない。）

### (5) 回収結果

割当標本数	到着標本数	未到達標本数	有効回収調査票数	無効調査票数	有効回収率	割当標本数に対する回収率
3,000	2,992	8	1,200	0	40.1	40.0
有効回収調査票数の内訳		郵送	821			
		オンライン	379			

## (6) 調査結果の表示方法

- 調査結果の項目に付加されている番号は、関連する調査の設問番号とする。
- 図表内に付加されている「N」は、質問に対する回答者数である。ただし、属性別の図表については、属性無回答者を除く。
- 結果数値は少数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならないことがある。
- 複数回答の場合、回答数に対する割合を表示しているため、構成比の合計が100%を超える。
- 図表中の「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものとする。
- 他調査との比較を行う場合、以下の略号で表記する。また、他調査の選択肢は、必ずしも当調査の表記と一致しない場合がある（趣旨は同一か類似）。他調査にはあるが当調査にはない項目については、比較不能のため表示していない。

「平成18年度」：人権に関する市民意識調査（平成18年度彦根市実施）

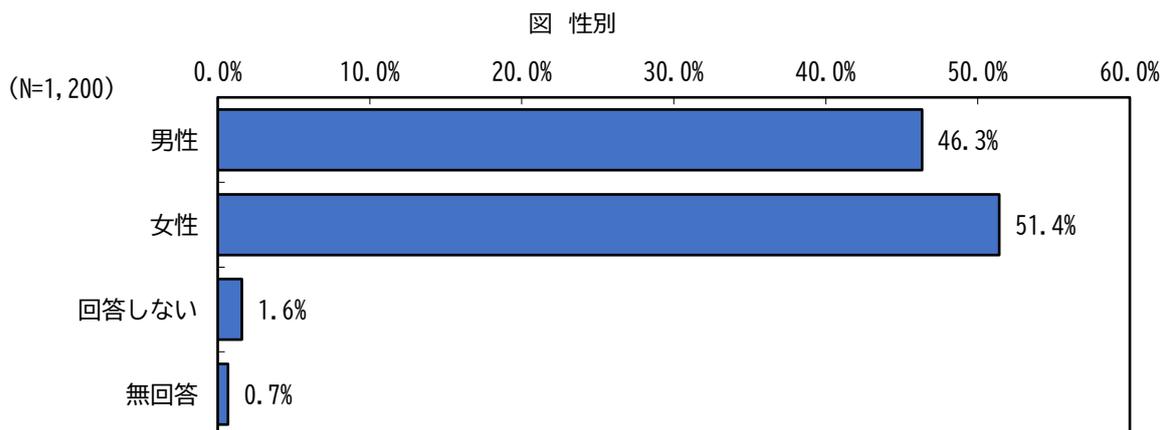
「R1法務省調査」：2019年度人権に関する意識調査（令和元年度法務省実施）

「R3滋賀県調査」：人権に関する県民意識調査（令和3年度滋賀県実施）

「R4内閣府調査」：人権擁護に関する世論調査（令和4年度内閣府実施）

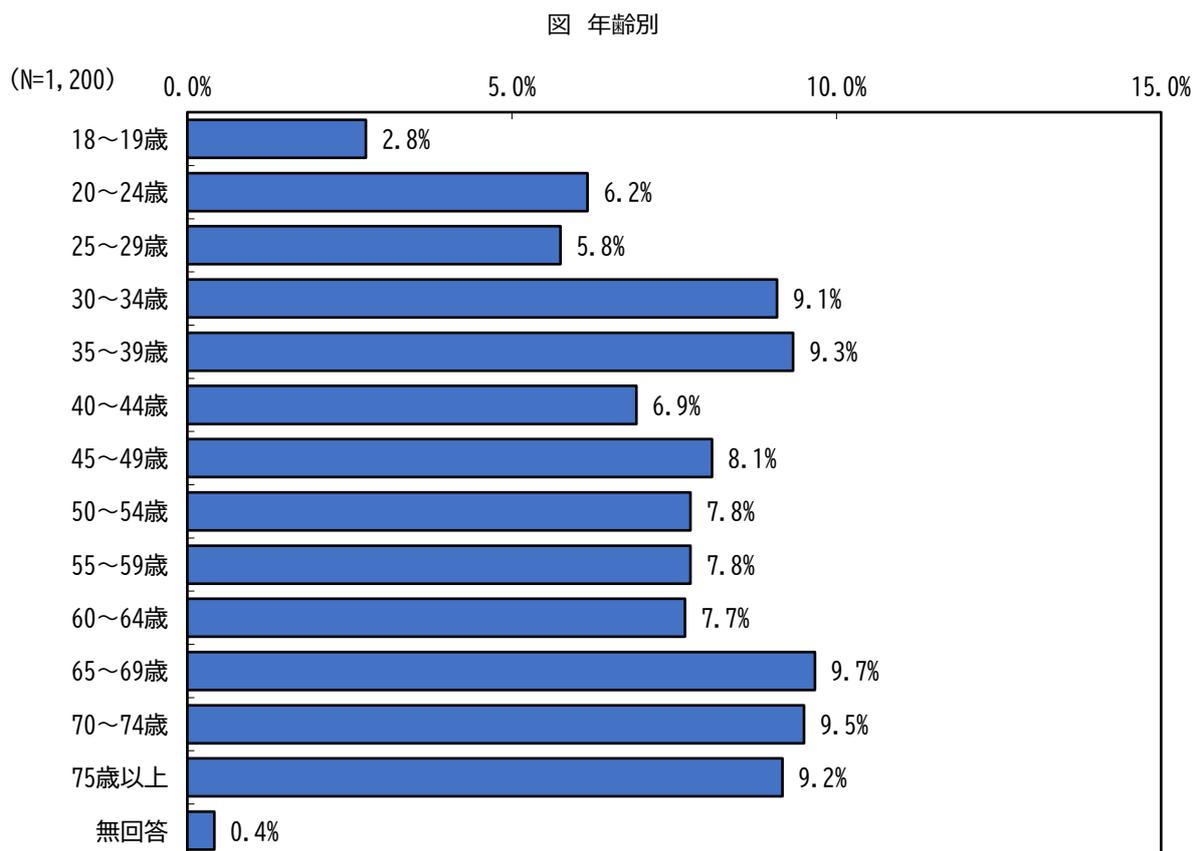
## 2 回答者の属性について

### 問1 あなたの性別は



回答者の性別は、「女性」(51.4%)が多く、次いで「男性」(46.3%)、「回答しない」(1.6%)となっている。

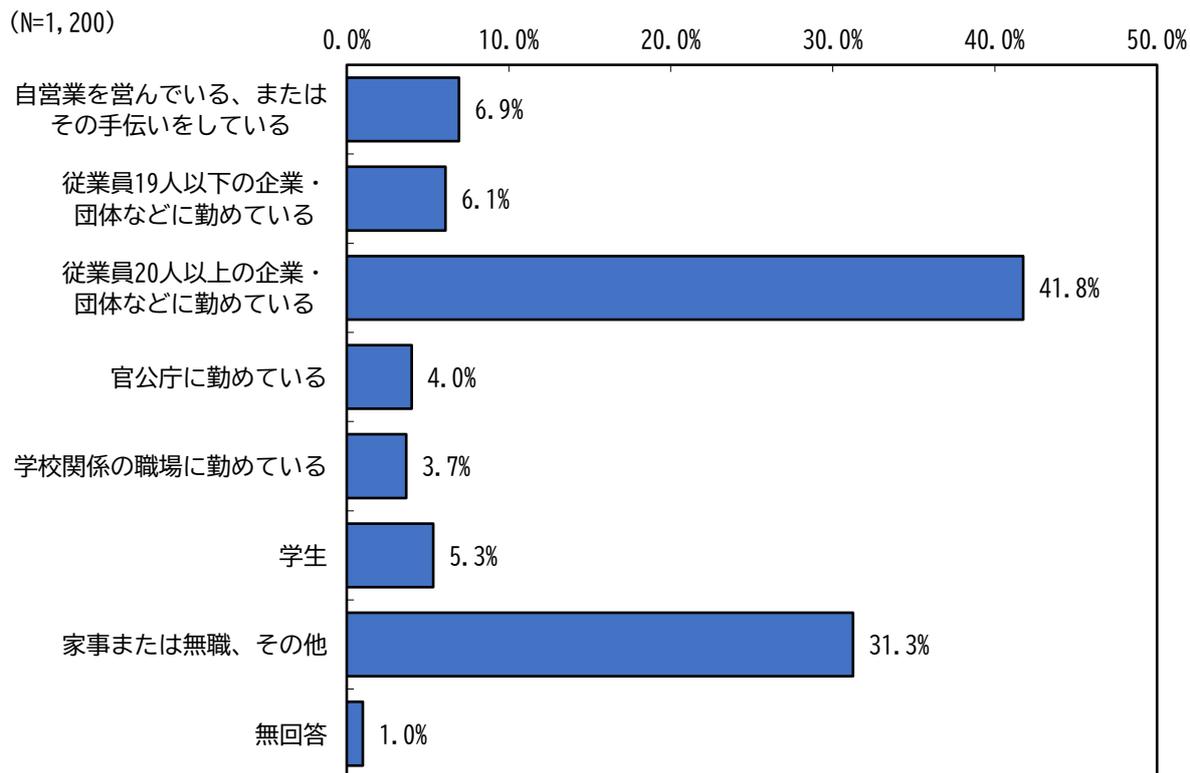
### 問2 あなたの年齢は



回答者の年齢階層は、「65～69歳」(9.7%)が最も多く、次いで「70～74歳」(9.5%)、「35～39歳」(9.3%)となっている。

### 問3 あなたのお仕事は

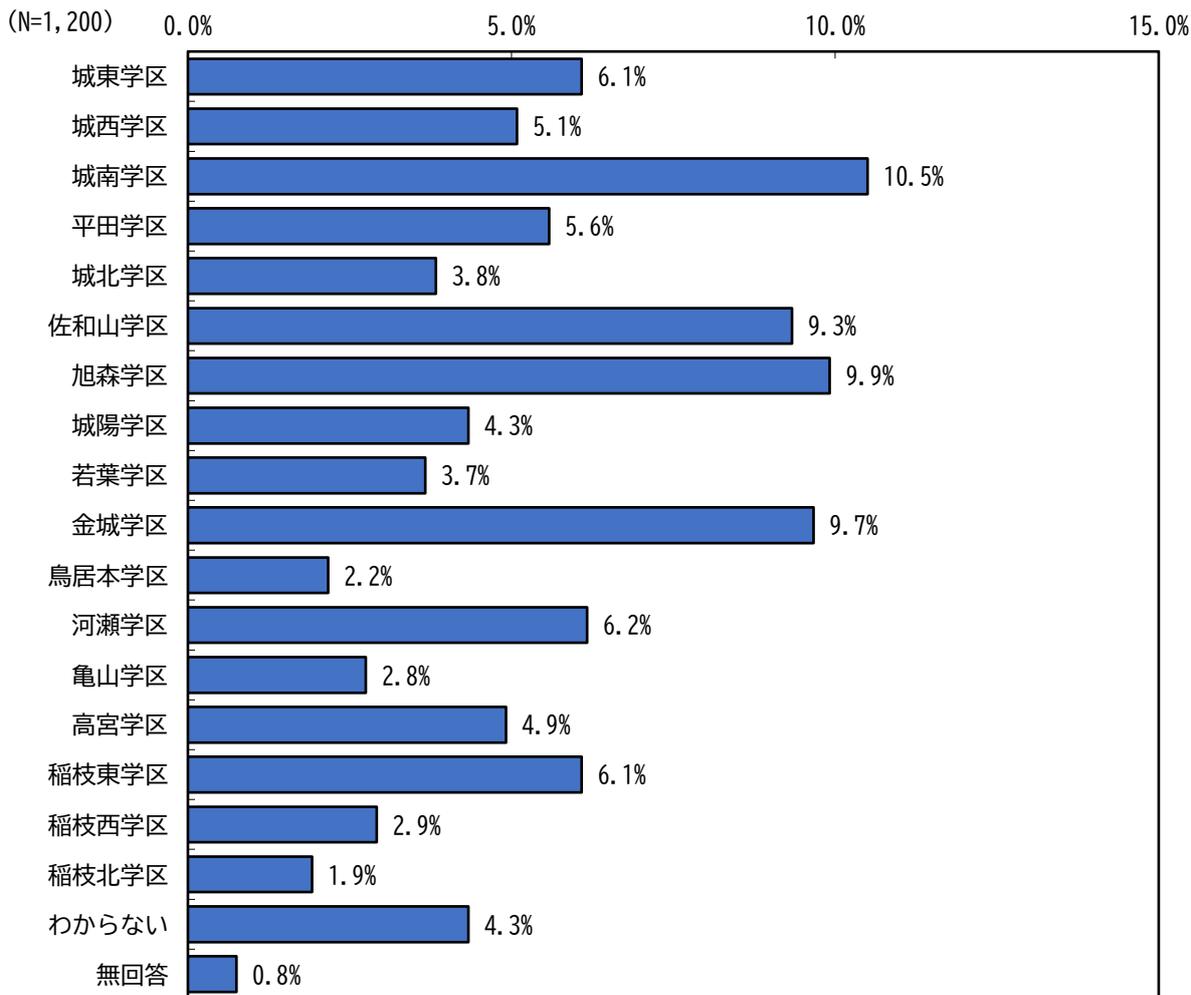
図 職業別



回答者の職業別は、「従業員20人以上の企業・団体などに勤めている」(41.8%)が最も多く、次いで「家事または無職、その他」(31.3%)、「自営業を営んでいる、またはその手伝いをしている」(6.9%)となっている。

問4 あなたのお住まいの学区は

図 学区別



回答者の居住学区は、「城南学区」(10.5%)が最も多く、次いで「旭森学区」(9.9%)、「金城学区」(9.7%)となっている。

## II 調査結果

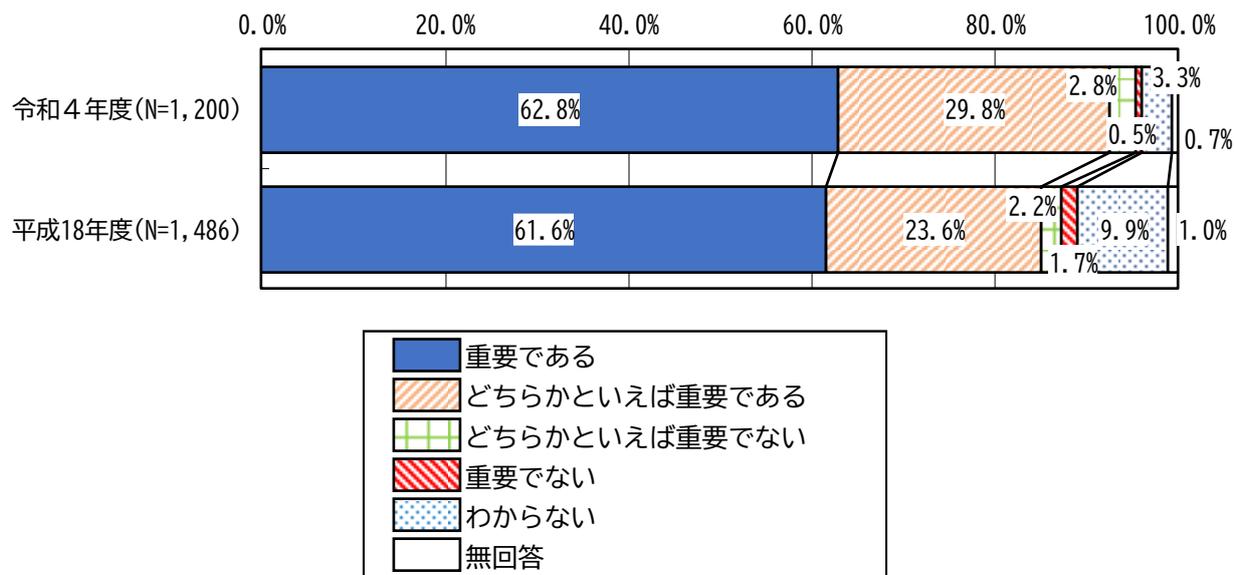
### 1 人権全般について

#### (1) 「人権」についての思い

問5 「人権」は、あなたにとってどのようなものですか。あなたの思いに最も近いものを選んで○をつけてください。

#### (ア) 重要であるか、ないか

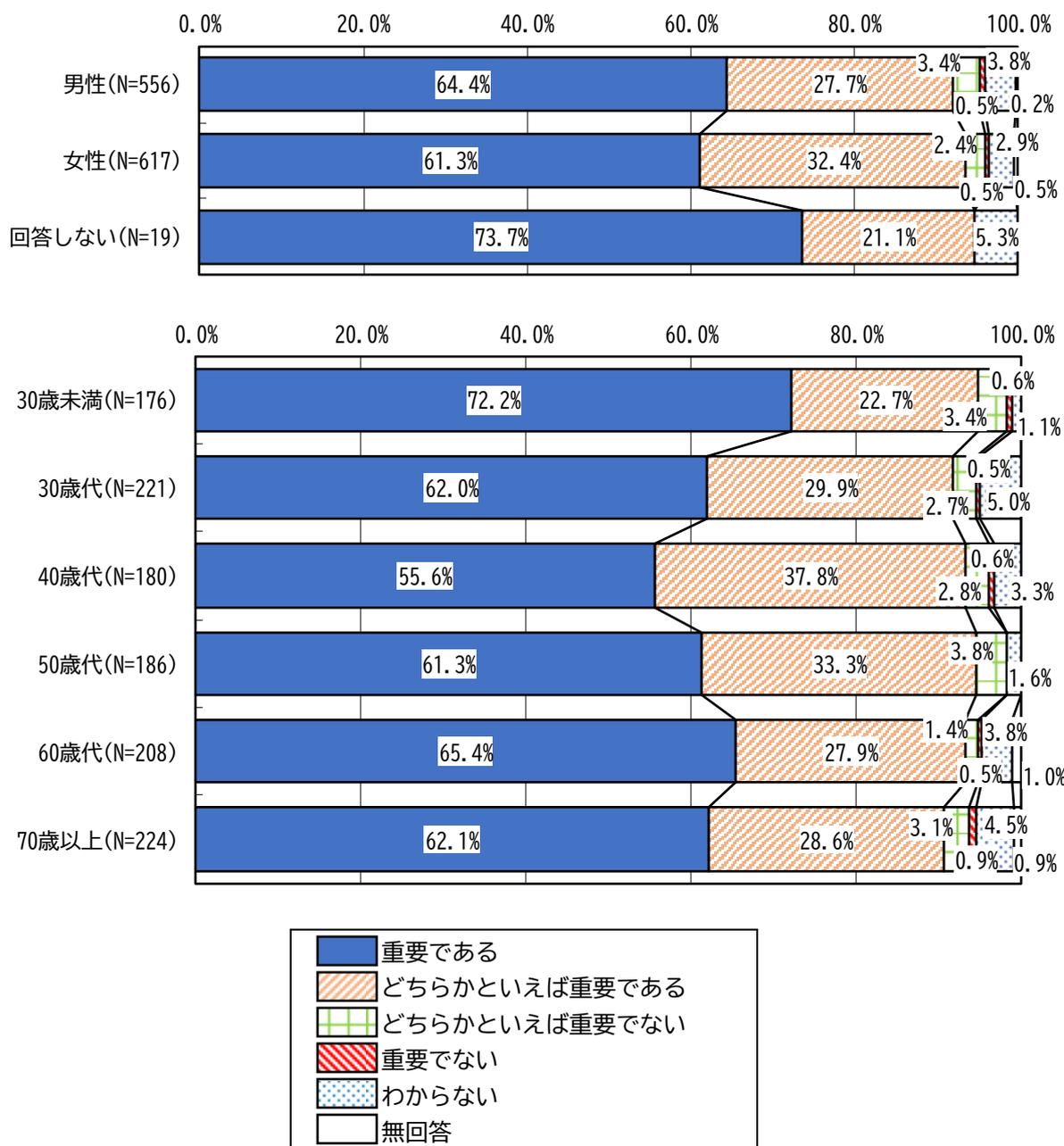
図「人権」は自分にとって重要であるか、ないか



「人権」は自分にとって重要であるか、ないかについてみると、「重要である」「どちらかといえば重要である」を合わせた“重要である”は 92.6%となっている。一方、「どちらかといえば重要でない」「重要でない」を合わせた“重要でない”は 3.3%となっている。

前回の調査結果と比べると、“重要である”が 7.4 ポイント高くなり、“重要でない”が 0.6 ポイント低くなっている。

図「人権」は自分にとって重要であるか、ないか—性別・年齢別

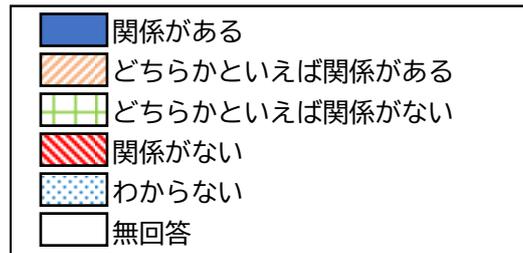
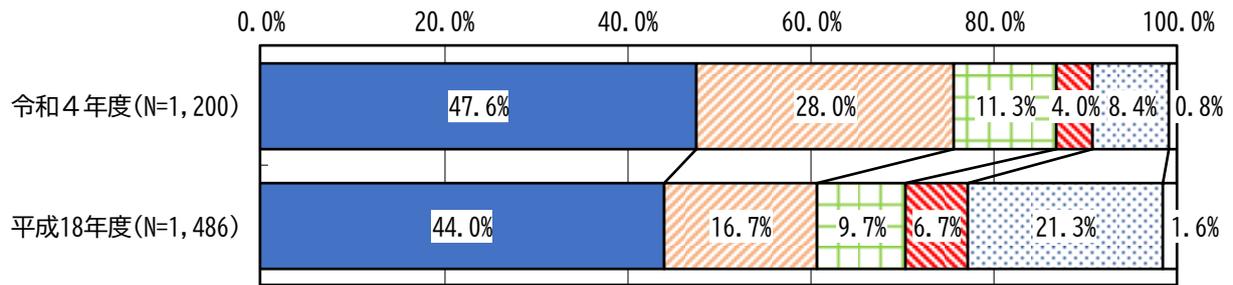


性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別でみると、すべての年代で“重要である”が“重要でない”を上回り、その中でも 30 歳未満が 94.9%と最も高くなっている。

(イ) 自分に関係があるか、ないか

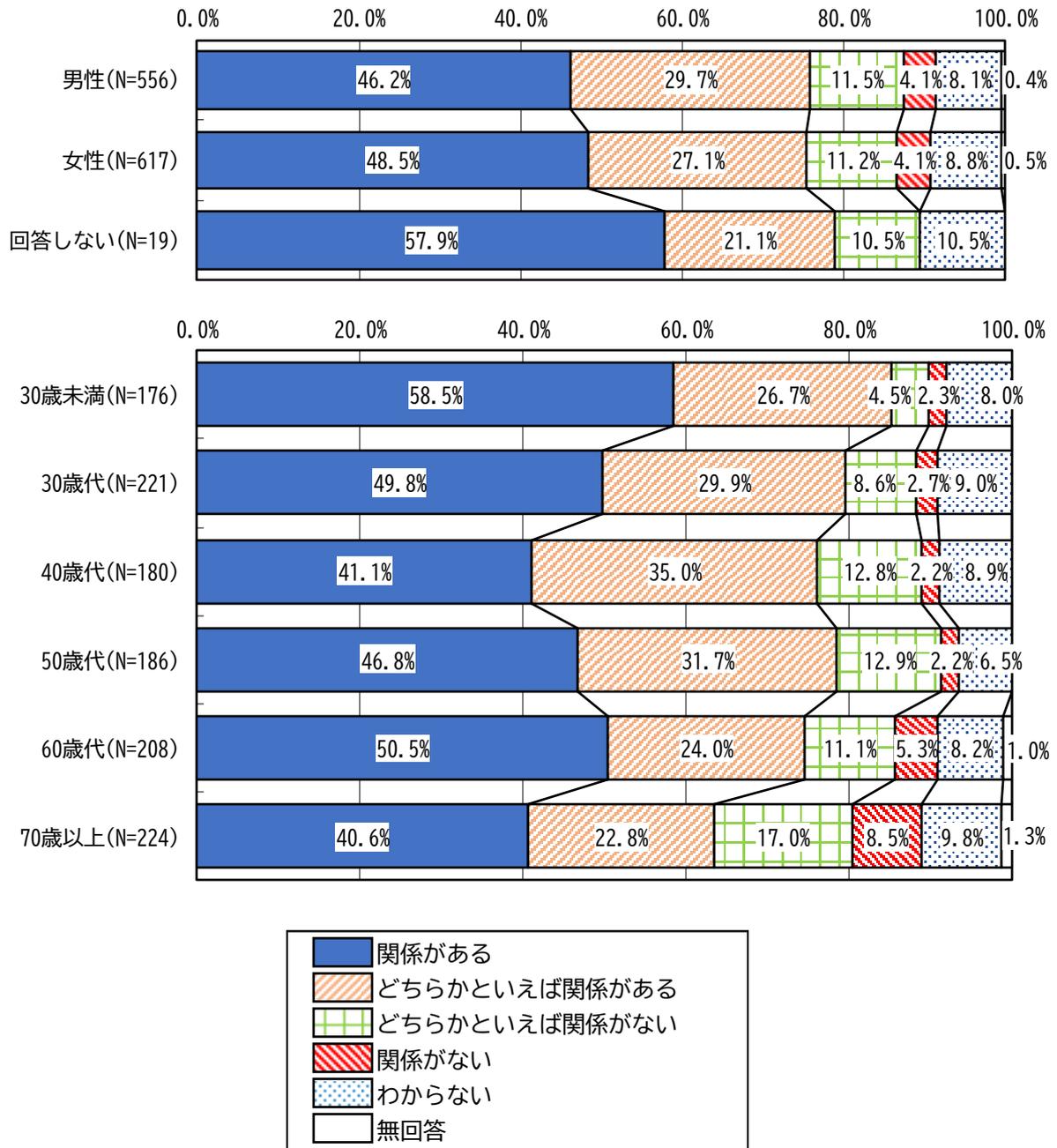
図「人権」は自分に関係があるか、ないか



「人権」は自分に関係があるか、ないかについてみると、「関係がある」「どちらかといえば関係がある」を合わせた“関係がある”は 75.6%となっている。一方、「どちらかといえば関係がない」「関係がない」を合わせた“関係がない”は 15.3%となっている。

前回の調査結果と比べると、“関係がある”が 14.9 ポイント高くなり、“関係がない”が 1.1 ポイント低くなっている。

図「人権」は自分に関係があるか、ないか—性別・年齢別



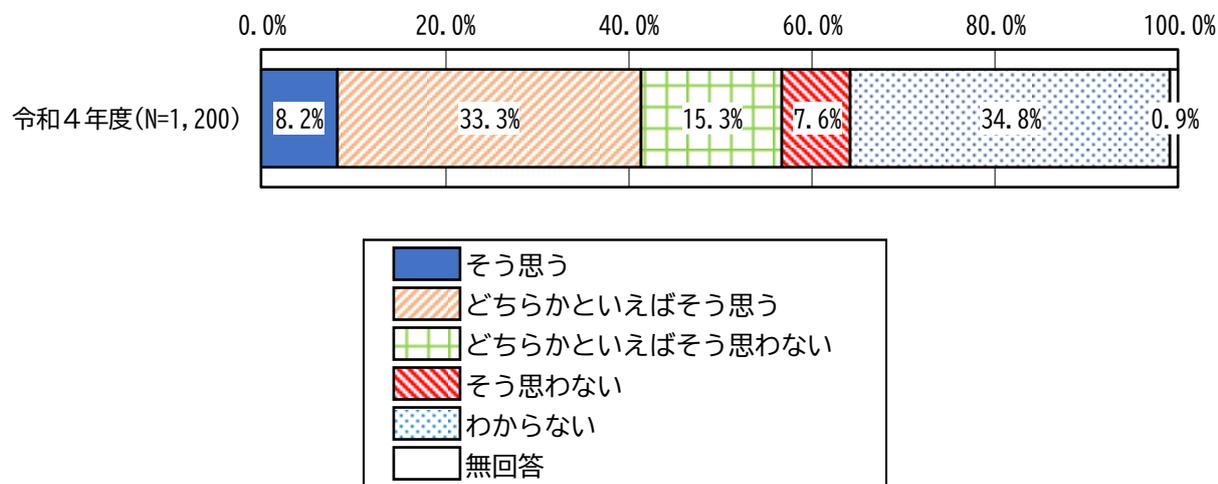
性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別でみると、すべての年代で“関係がある”が、“関係がない”を上回り、その中でも30歳未満が85.2%と最も高く、70歳以上と比べて21.8ポイント高くなっている。

## (2) 彦根市における人権尊重の状況

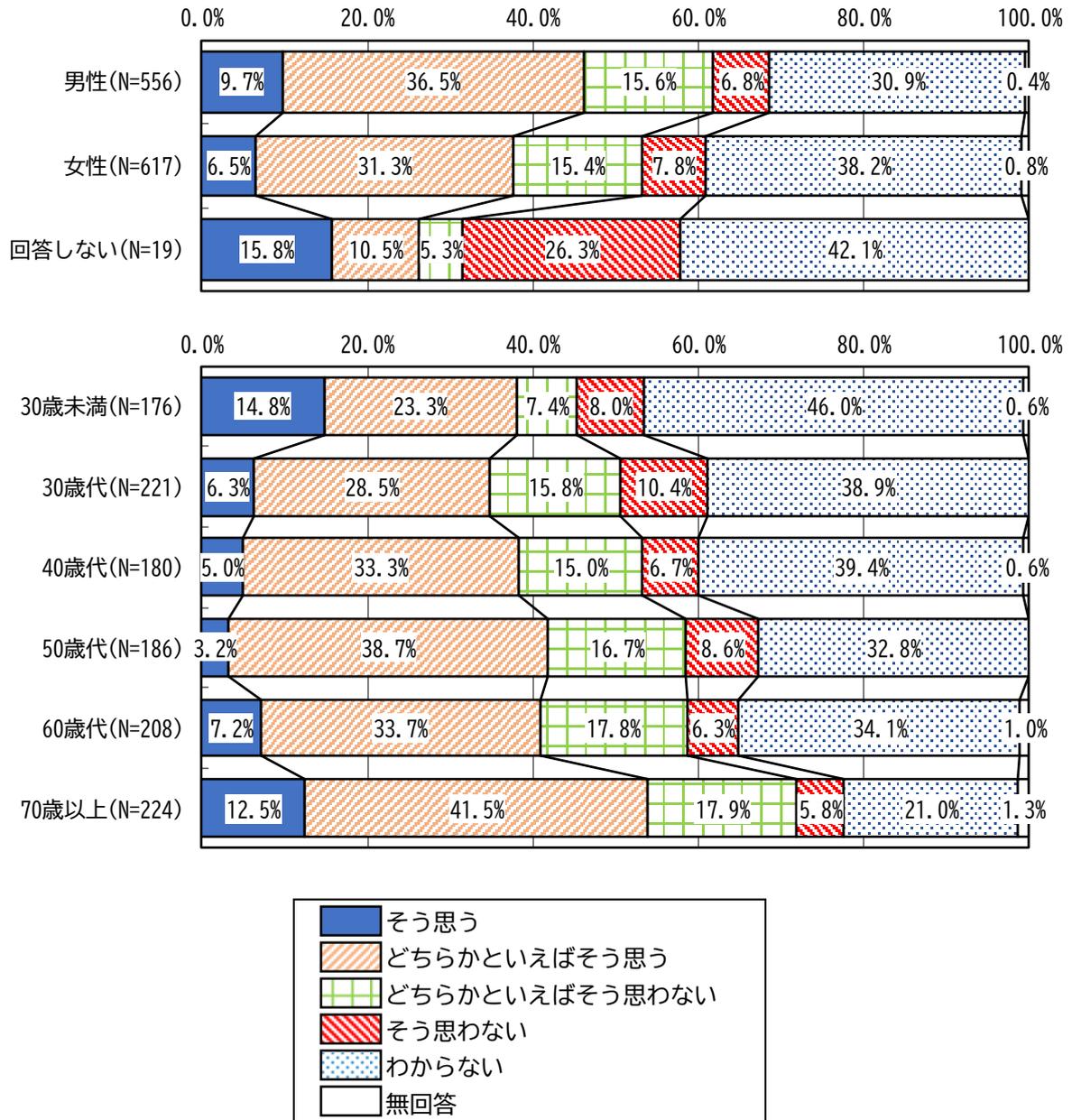
問6 今の彦根市は「人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。あなたの思いに最も近いものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)

図 彦根市における人権尊重の状況



今の彦根市は「人権が尊重されるまち」になっているかについてみると、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた“そう思う”は 41.5%となっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた“そう思わない”は 22.9%となっている。

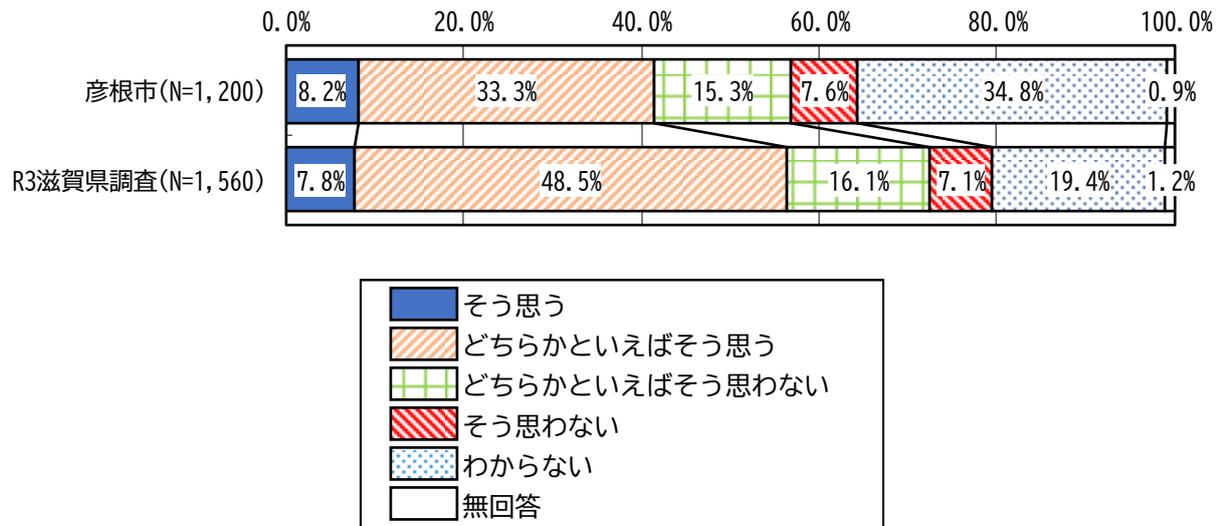
図 彦根市における人権尊重の状況—性別・年齢別



性別で見ると、“そう思う”は男性の方が 8.4 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、“そう思う”は 70 歳代が 54.0%と最も多く、30 歳代と比べて 19.2 ポイント高くなっている。

図 彦根市における人権尊重の状況—滋賀県との比較



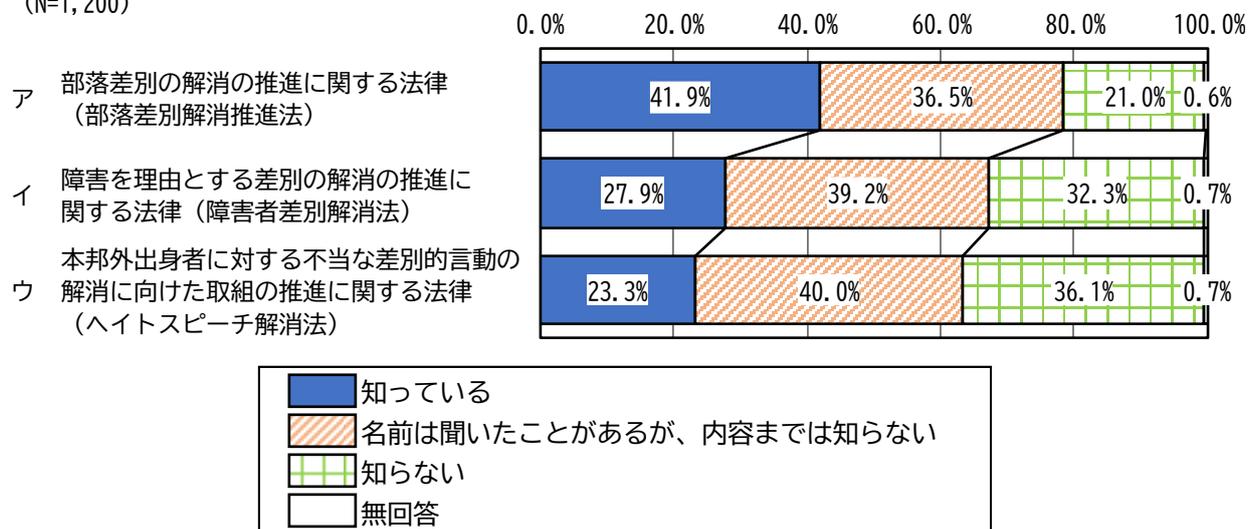
R 3 滋賀県調査結果と比べると、“そう思う”は 14.8 ポイント低くなっている。

### (3) 人権に関する法律について

問7 あなたは、次の人権に関する重要な法律を知っていますか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(それぞれ1つ)

図 人権に関する重要な法律の認知度

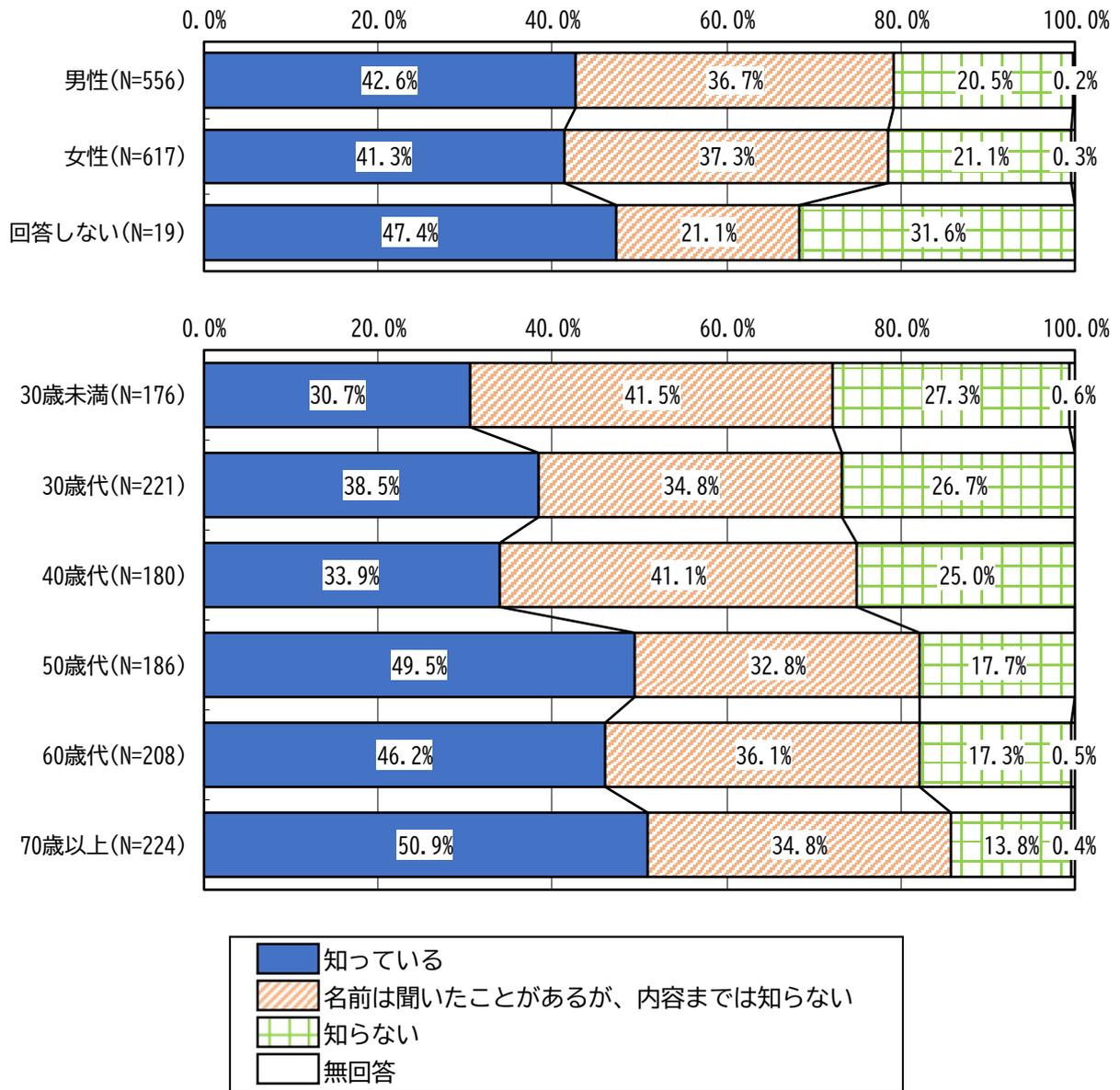
(N=1,200)



人権に関する重要な法律の認知度についてみると、「知っている」は「部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）」（41.9%）、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」（27.9%）、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ハイトスピーチ解消法）」（23.3%）の順で多くなっている。

(ア) 部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）

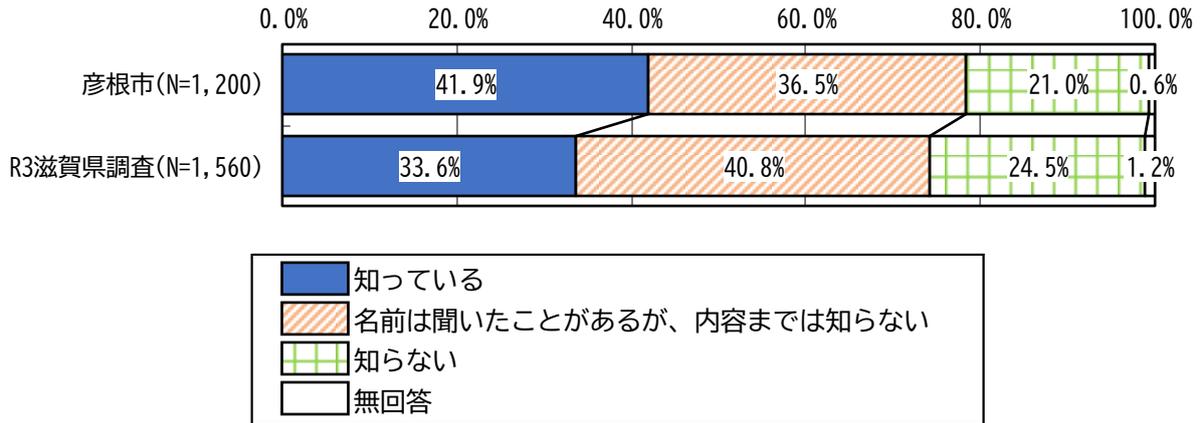
図 部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）—性別・年齢別



性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

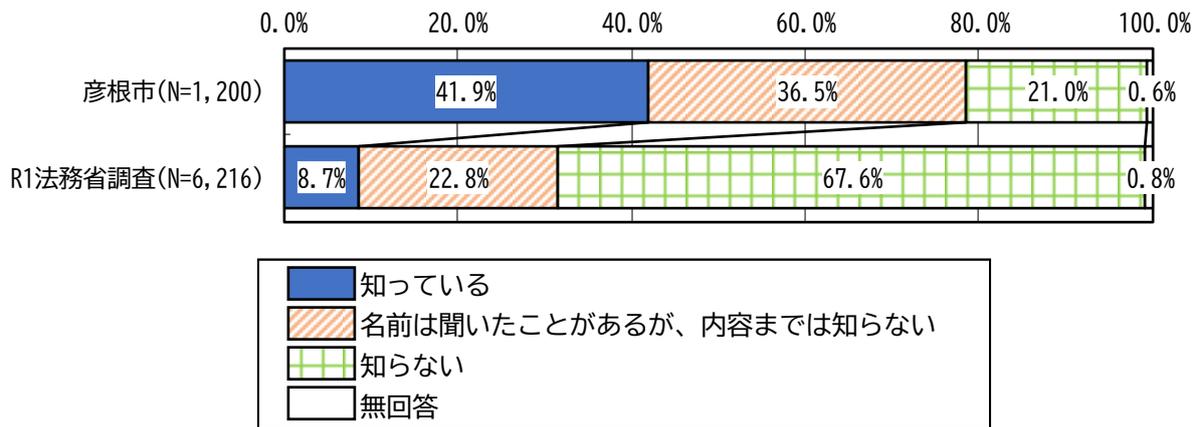
年齢別でみると、「知っている」は70歳以上で50.9%と最も多く、「知らない」は30歳未満で27.3%と最も多くなっている。

図 部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）—滋賀県との比較



R 3年度滋賀県調査結果と比べると、「知っている」が8.3ポイント高く、「知らない」が3.5ポイント低くなっている。

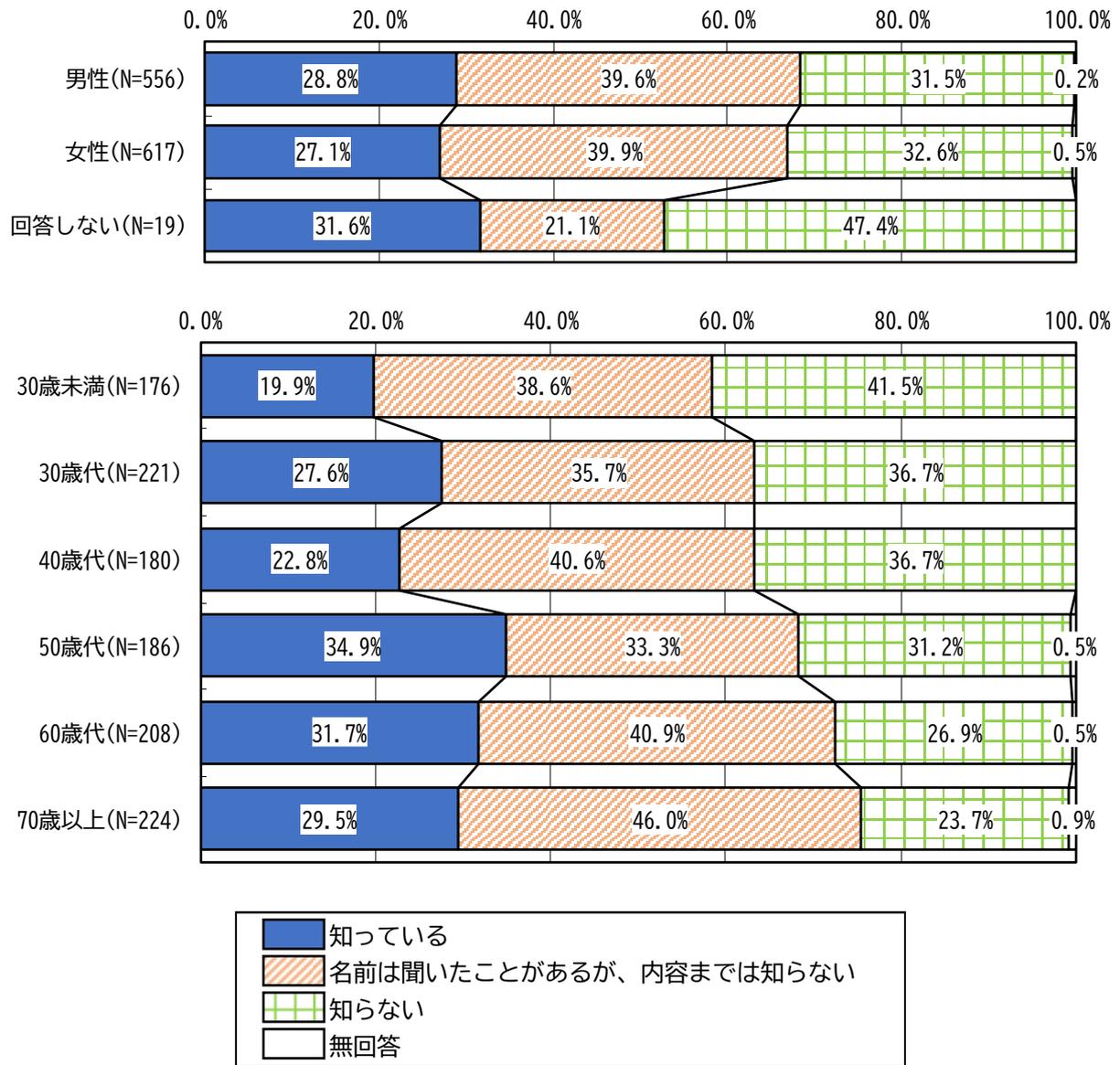
図 部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）—法務省調査との比較



R 1法務省調査結果と比べると、「知っている」が33.2ポイント高く、「知らない」が46.6ポイント低くなっている。

(イ) 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）

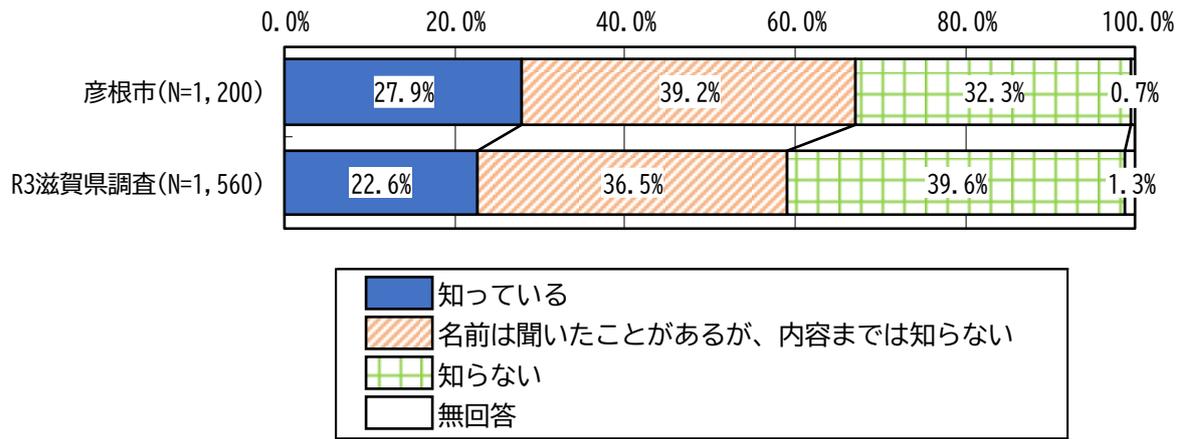
図 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）—性別・年齢別



性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、「知っている」は 50 歳代で 34.9%と最も多く、「知らない」は、年代が低くなるほど多くなる傾向がある。

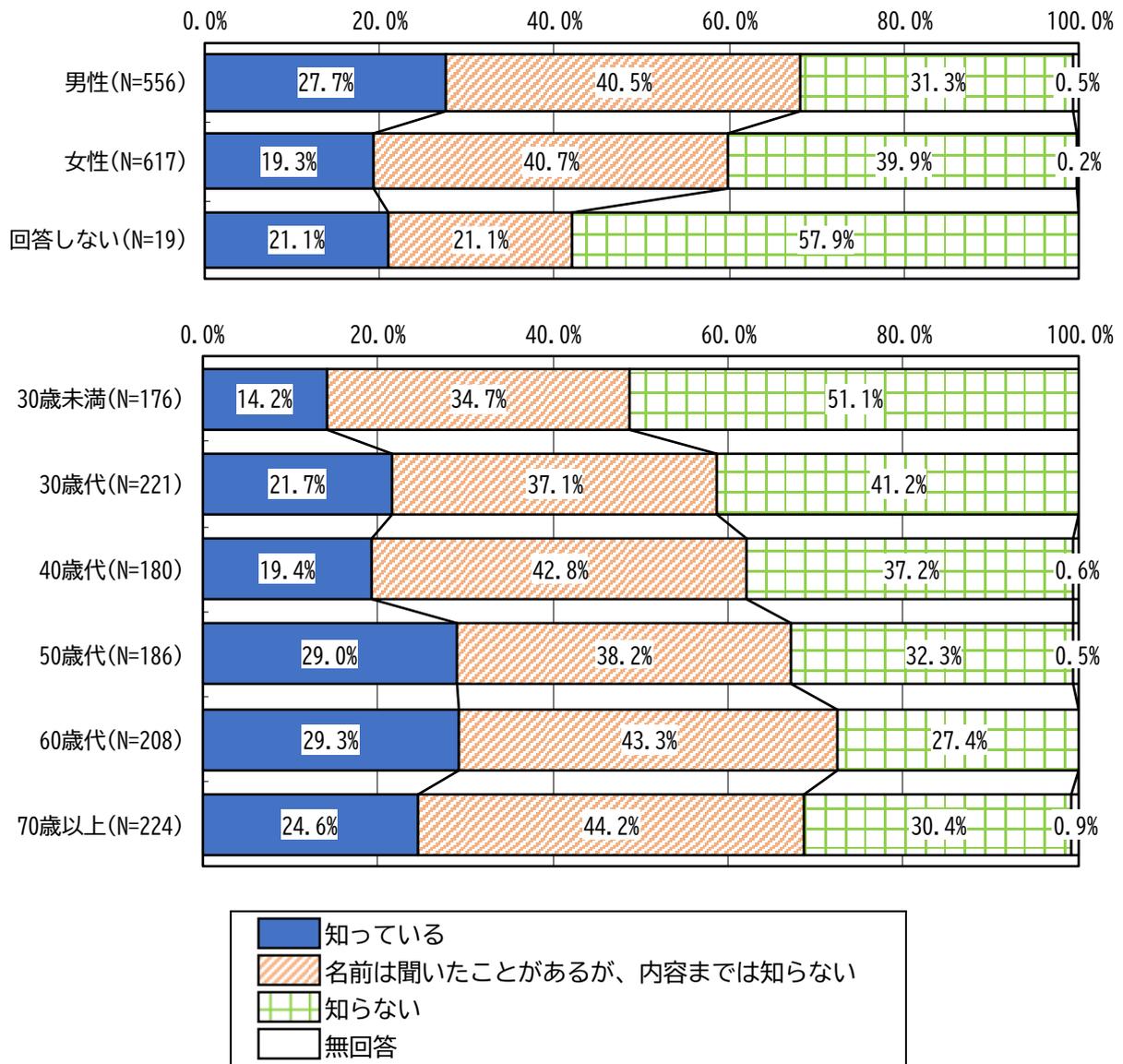
図 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）—滋賀県との比較



R 3 滋賀県調査結果と比べると、「知っている」が 5.3 ポイント高く、「知らない」が 7.3 ポイント低くなっている。

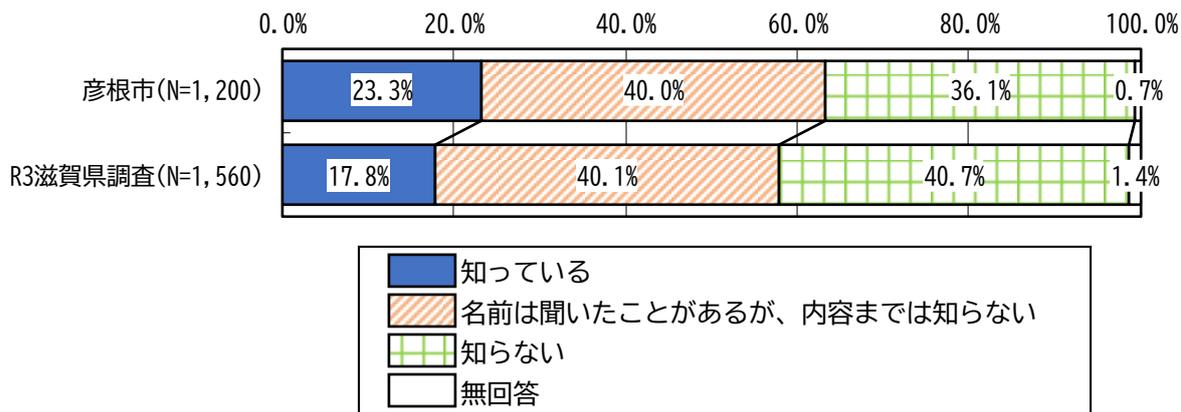
(ウ) 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）

図 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）—性別・年齢別



性別で見ると、「知っている」は男性の方が8.4ポイント、「知らない」は女性の方が8.6ポイント高くなっている。年齢別で見ると、「知っている」は60歳代が29.3%で最も多く、「知らない」は、年代が低くなるほど多くなる傾向がある。

図 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ヘイトスピーチ解消法）—滋賀県との比較



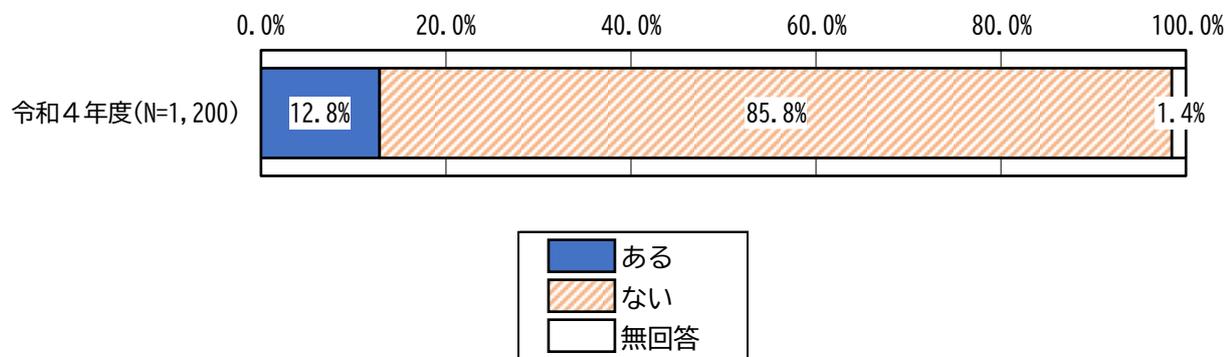
R 3 滋賀県調査結果と比べると、「知っている」が 5.5 ポイント高く、「知らない」が 4.6 ポイント低くなっている。

## 2 差別や人権侵害を受けた経験

### (1) 差別や人権侵害を受けた経験

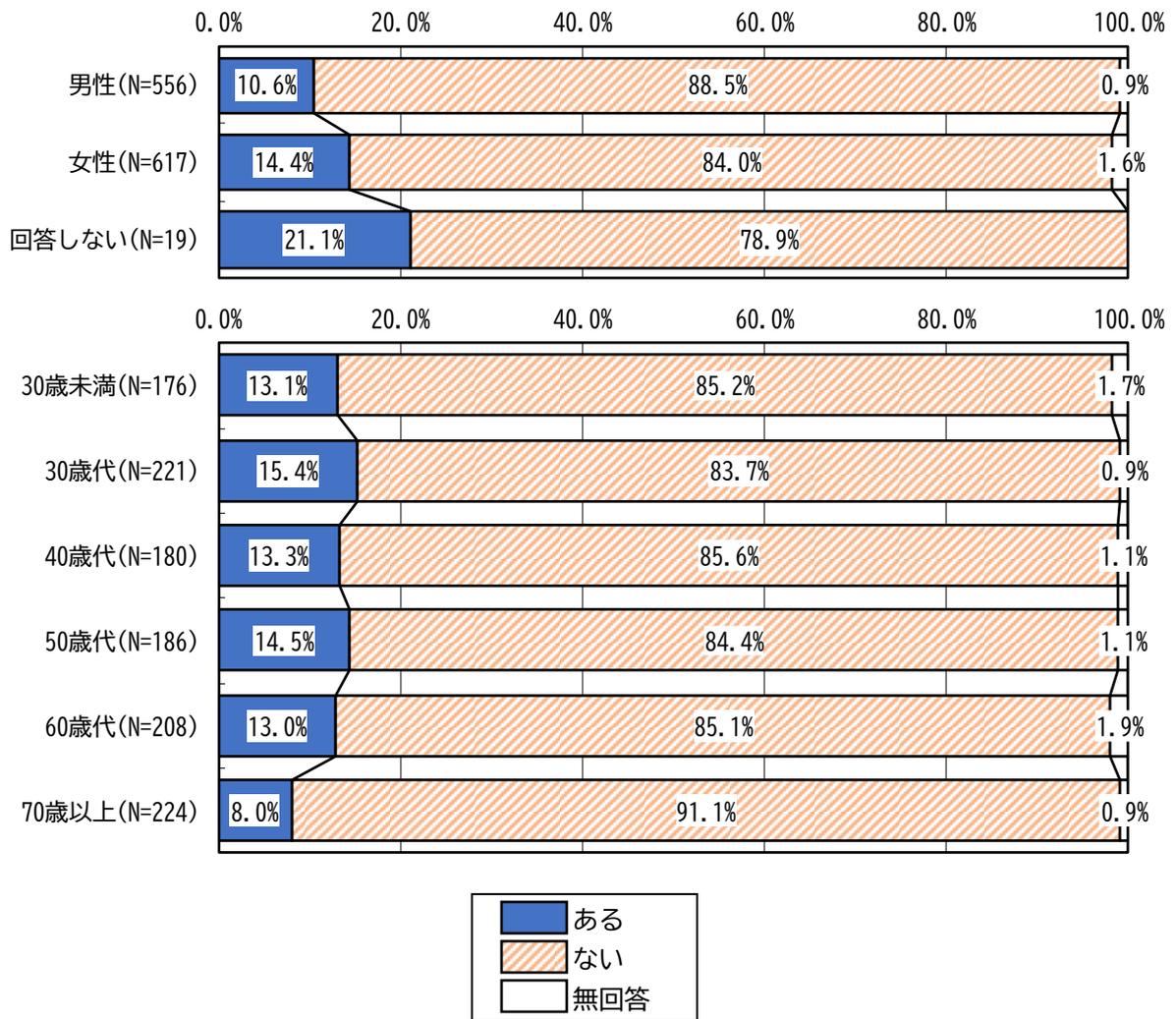
問8(1) あなたは、ここ5年以内で差別や人権侵害を受けたことがありますか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)

図 差別や人権侵害を受けた経験



差別や人権侵害を受けた経験についてみると、「ある」と答えた人が12.8%、「ない」と答えた人が85.8%となっている。

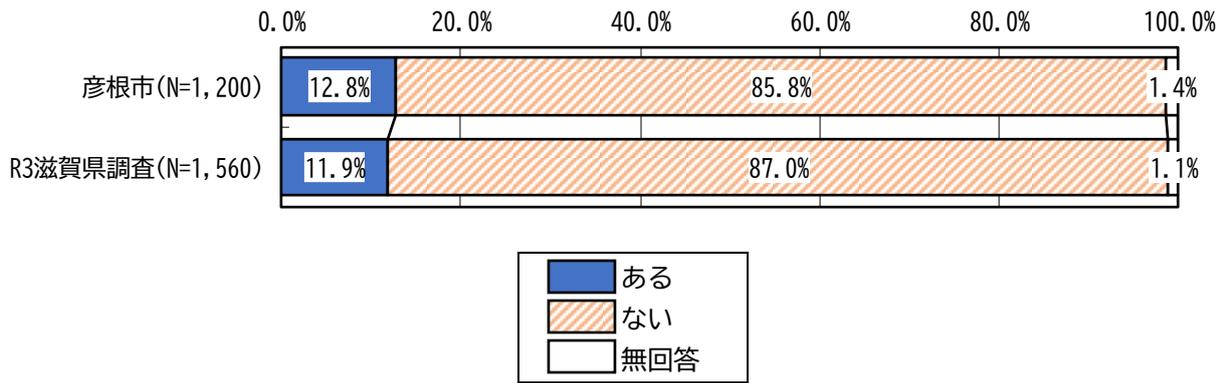
図 差別や人権侵害を受けた経験—性別・年齢別



性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別でみると、「ある」は30歳代が15.4%と最も多く、次いで50歳代が14.5%となっている。

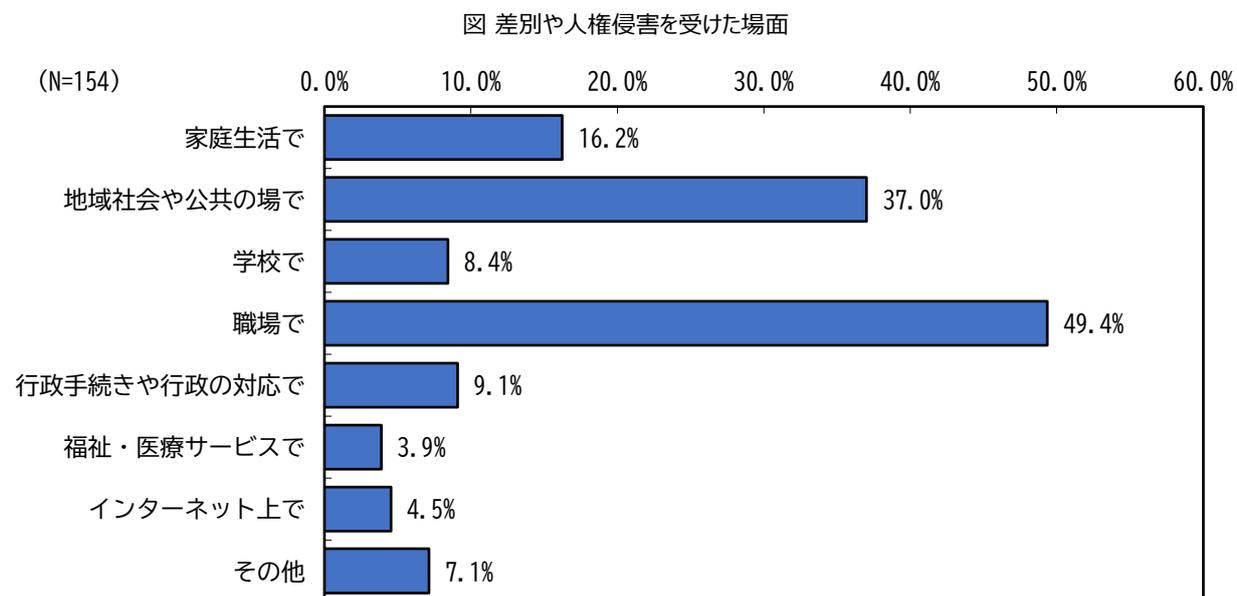
図 差別や人権侵害を受けた経験—滋賀県との比較



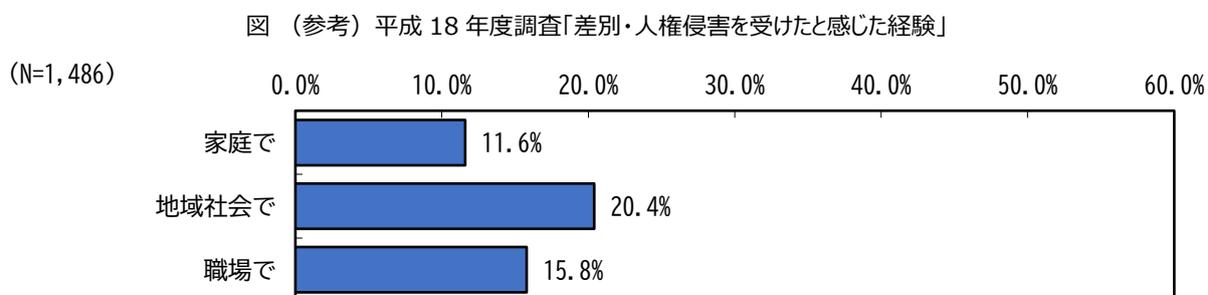
R 3 滋賀県調査結果と比べると、大きな差異は見られない。

## (2) 差別や人権侵害を受けた場面

問 8(2) (1)で、「1. ある」とお答えになった方におうかがいします。それは、どのような場面でしたか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いくつでも)



差別や人権侵害を受けた場面についてみると、「職場で」(49.4%)が最も多く、次いで「地域社会や公共の場で」(37.0%)、「家庭生活で」(16.2%)となっている。



平成 18 年度調査結果では、調査対象者全体のうち、人権侵害を受けたと「たびたび感じる」「たまに感じる」とある割合を合わせた割合が、それぞれ、「家庭で」(11.6%)、「地域社会で」(20.4%)、「職場で」(15.8%)となっていた。

たずね方が異なるので単純に比較はできないが、職場で差別・人権侵害を受けたと感じた経験が増加傾向にある可能性がある。

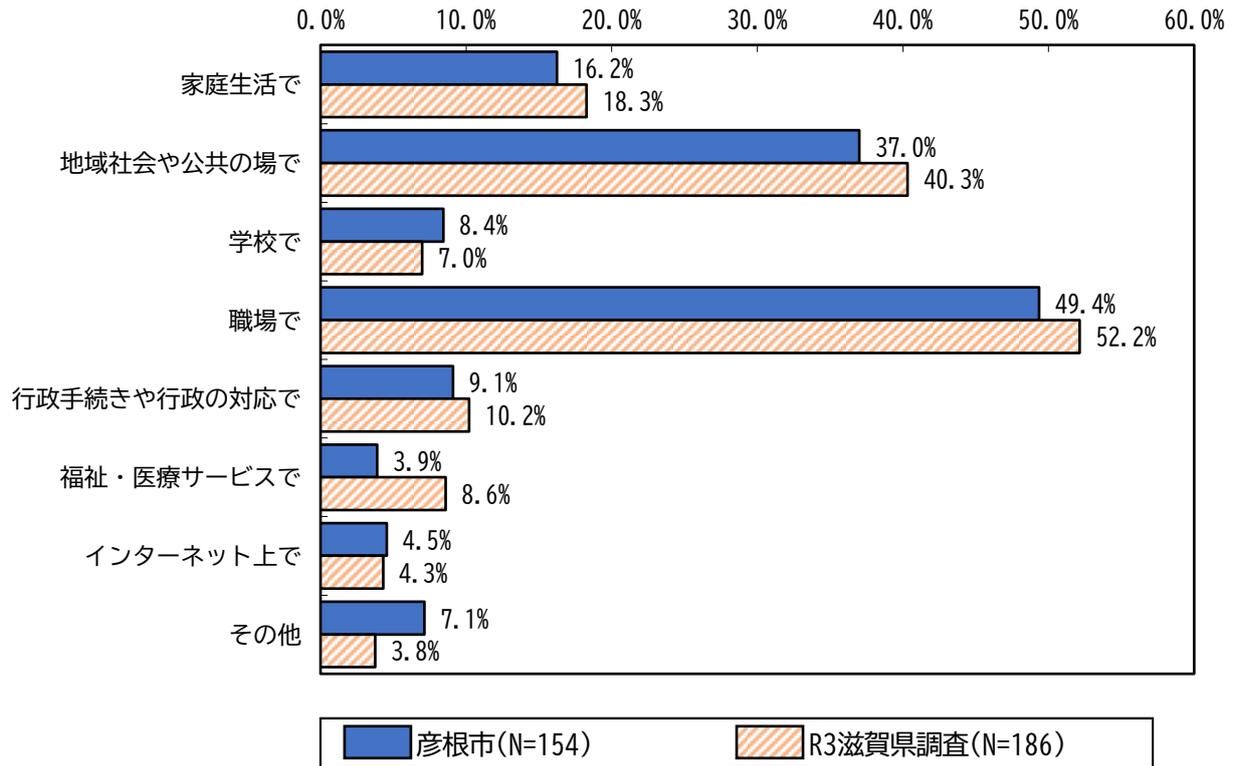
表 差別や人権侵害を受けた場面—性別・年齢別

		有効 回答 数	家 庭 生 活 で	公 地 域 の 社 会 で	学 校 で	職 場 で	応 や 行 政 手 続 の 続 き で	サ 福 社 ビ ス 医 療	ネ イ ツ ト タ ↑ で	そ の 他
全体		154	16.2%	37.0%	8.4%	49.4%	9.1%	3.9%	4.5%	7.1%
性別	男性	59	11.9%	32.2%	3.4%	57.6%	11.9%	3.4%	3.4%	6.8%
	女性	89	19.1%	40.4%	12.4%	44.9%	4.5%	3.4%	5.6%	7.9%
	回答しない	4	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
年齢	30歳未満	23	26.1%	21.7%	26.1%	47.8%	0.0%	0.0%	4.3%	4.3%
	30歳代	34	11.8%	38.2%	8.8%	61.8%	11.8%	5.9%	14.7%	11.8%
	40歳代	24	12.5%	37.5%	4.2%	54.2%	12.5%	0.0%	0.0%	8.3%
	50歳代	27	14.8%	37.0%	7.4%	48.1%	14.8%	11.1%	0.0%	3.7%
	60歳代	27	14.8%	40.7%	0.0%	55.6%	3.7%	3.7%	0.0%	7.4%
	70歳以上	18	16.7%	50.0%	5.6%	16.7%	11.1%	0.0%	5.6%	5.6%

性別でみると、「学校で」は女性の方が9.0ポイント、「職場で」は男性の方が12.7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、30歳未満から60歳代までは「職場で」、70歳以上は「地域社会や公共の場で」が最も多くなっている。

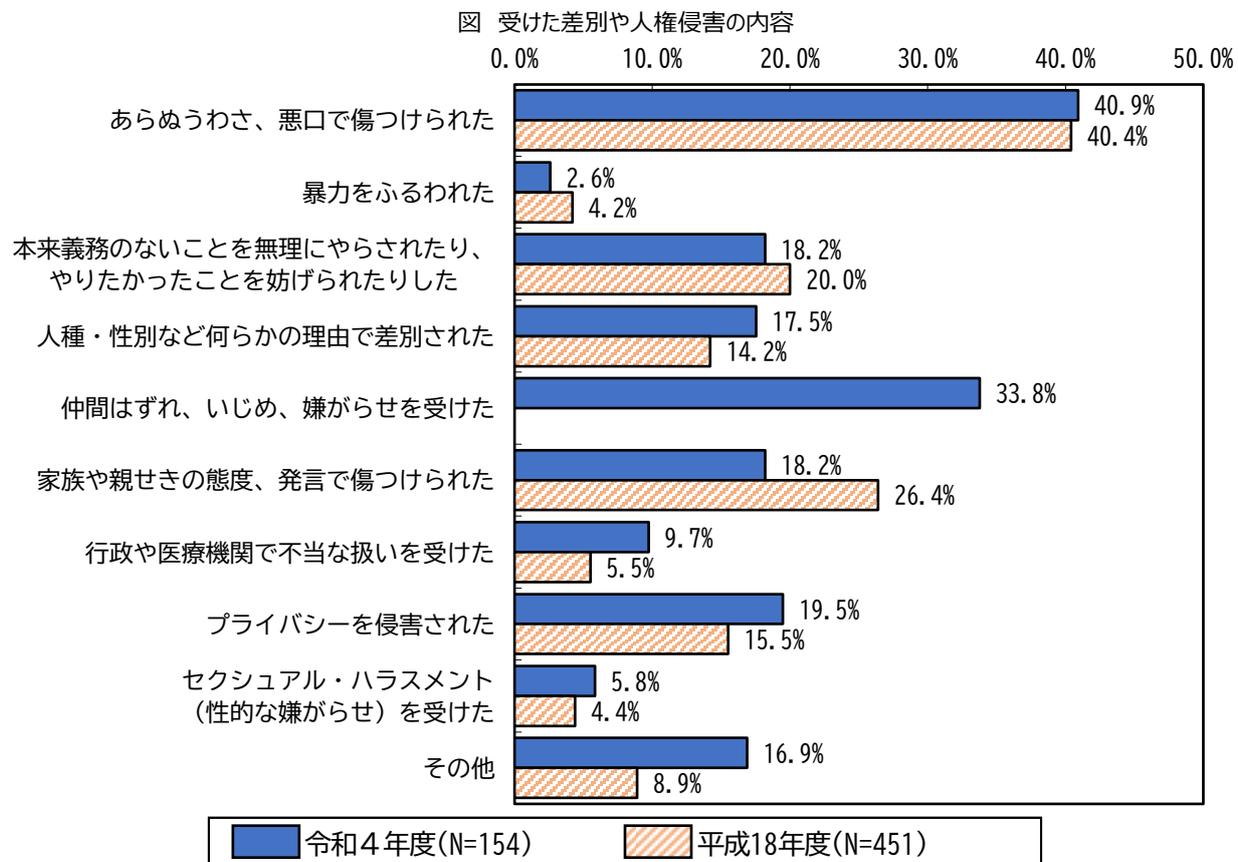
図 差別や人権侵害を受けた場面—滋賀県との比較



R 3 滋賀県調査結果と比べると、大きな差異は見られない。

### (3) 受けた差別や人権侵害の内容

問 8(3) (1)で、「1. ある」とお答えになった方におうかがいします。それは、どのような内容でしたか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いくつでも)



差別や人権侵害の内容についてみると、「あらぬうわさ、悪口で傷つけられた」(40.9%)が最も多く、次いで「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」(33.8%)、「プライバシーを侵害された」(19.5%)となっている。

前回の調査結果と比べると、「家族や親せきの態度、発言で傷つけられた」が 8.2 ポイント低く、「その他」が 8.0 ポイント高くなっている。「その他」の自由記述 24 件のうち、「パワー・ハラスメント」が 3 件あった。

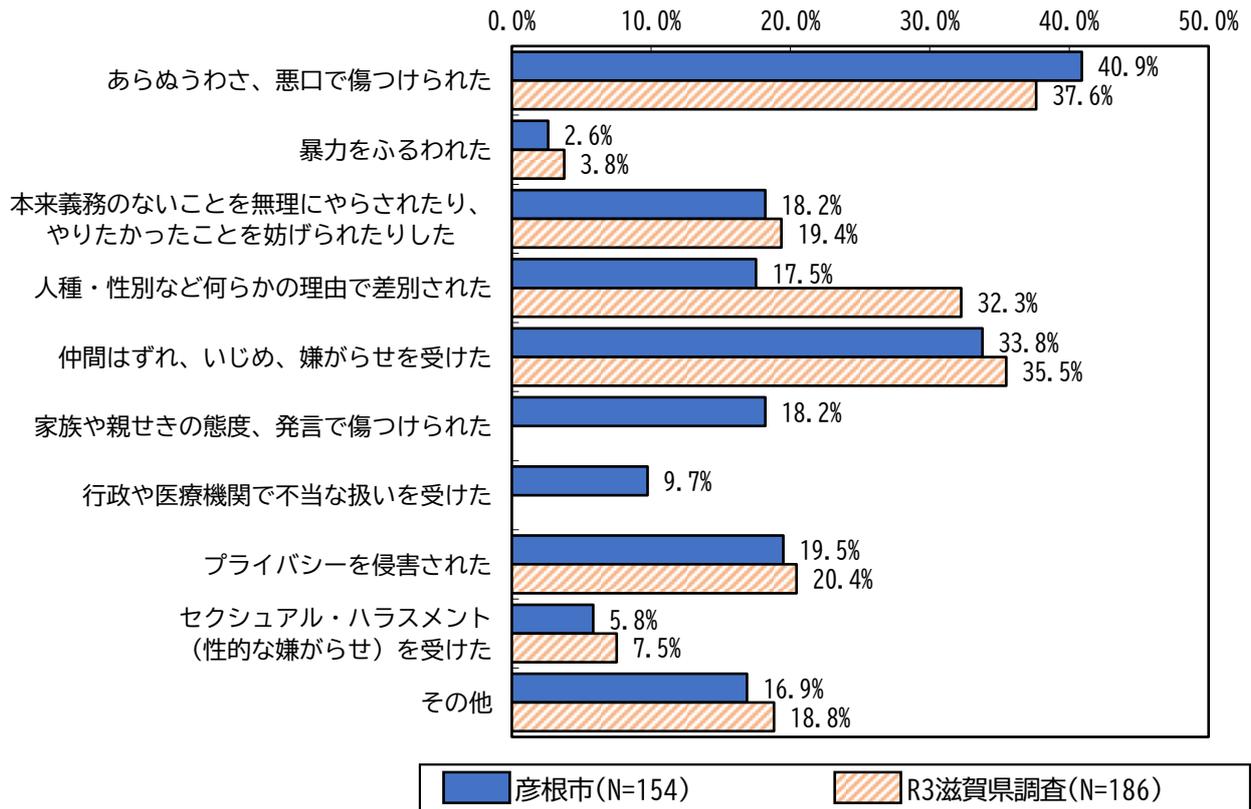
表 受けた差別や人権侵害の内容—性別・年齢別

	有効回答数	あらゆるうわさ、悪口で傷つけられた	暴力をふるわれた	ことやさを妨げられたり、たりした	本来義務のないことを無理にやらされた	人種・性別など何らかの理由で差別された	仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた	家族や親せきの態度、発言で傷つけられた	行政や医療機関で不当な扱いを受けた	プライバシーを侵害された	セクシュアル・ハラースメント（性的な嫌がらせ）を受けた	その他
全体	154	40.9%	2.6%	18.2%	17.5%	33.8%	18.2%	9.7%	19.5%	5.8%	16.9%	
性別	男性	59	30.5%	5.1%	18.6%	10.2%	28.8%	11.9%	13.6%	23.7%	3.4%	20.3%
	女性	89	48.3%	1.1%	19.1%	22.5%	38.2%	22.5%	5.6%	18.0%	6.7%	15.7%
	回答しない	4	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%
年齢	30歳未満	23	47.8%	8.7%	21.7%	21.7%	34.8%	21.7%	0.0%	21.7%	8.7%	8.7%
	30歳代	34	44.1%	0.0%	29.4%	23.5%	47.1%	17.6%	17.6%	17.6%	8.8%	23.5%
	40歳代	24	33.3%	0.0%	8.3%	8.3%	41.7%	8.3%	4.2%	4.2%	8.3%	16.7%
	50歳代	27	44.4%	0.0%	22.2%	7.4%	33.3%	22.2%	14.8%	22.2%	3.7%	18.5%
	60歳代	27	25.9%	3.7%	14.8%	33.3%	29.6%	14.8%	11.1%	29.6%	3.7%	14.8%
70歳以上	18	55.6%	5.6%	5.6%	5.6%	5.6%	22.2%	5.6%	22.2%	0.0%	16.7%	

性別で見ると、「家族や親せきの態度、発言で傷つけられた」は女性の方が 10.6 ポイント、「行政や医療機関で不当な扱いを受けた」は男性の方が 8.0 ポイント高くなっている。

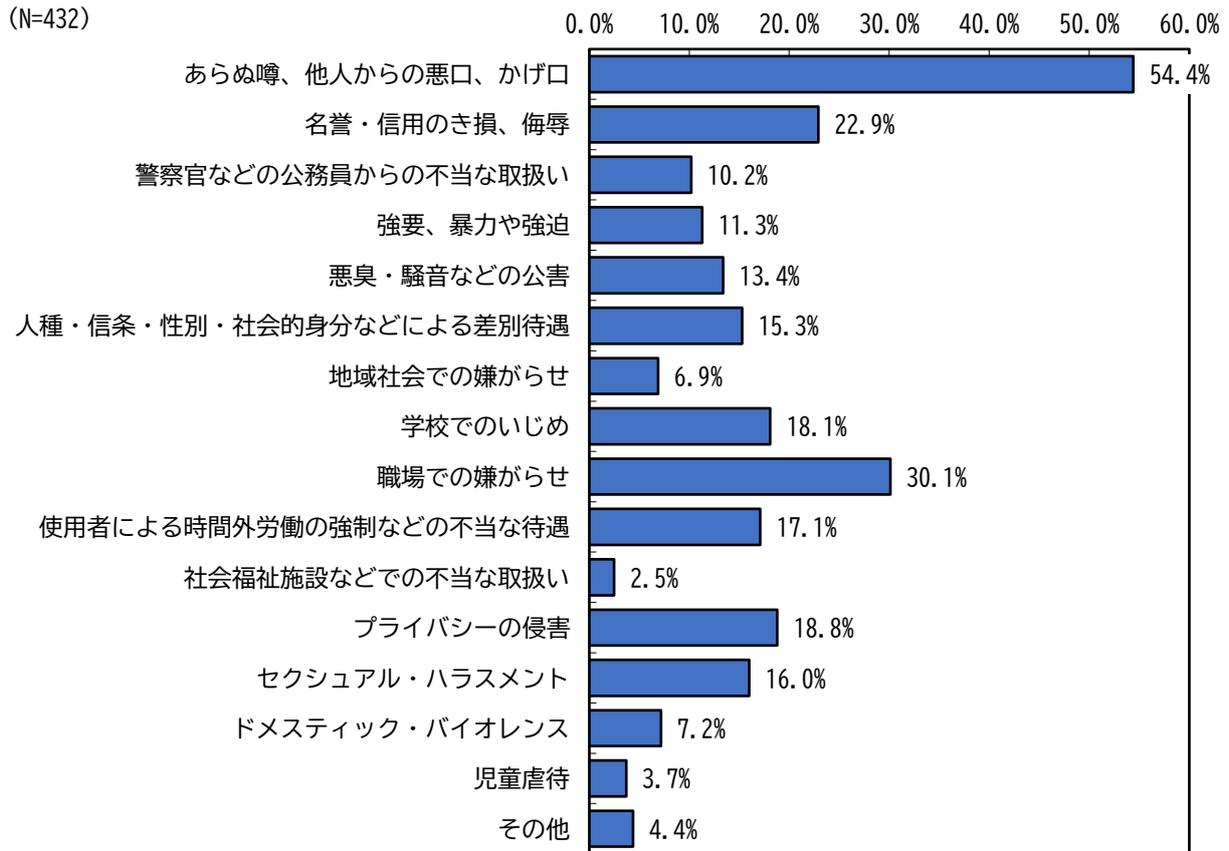
年齢別で見ると、30歳未満と50歳代と70歳以上は「あらゆるうわさ、悪口で傷つけられた」、30歳代から40歳代は「仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた」、60歳代は「人種・性別など何らかの理由で差別された」が最も多くなっている。

図 受けた差別や人権侵害の内容—滋賀県との比較



R 3 滋賀県調査結果と比べると、「人種・性別など何らかの理由で差別された」が 14.8 ポイント低くなっている。

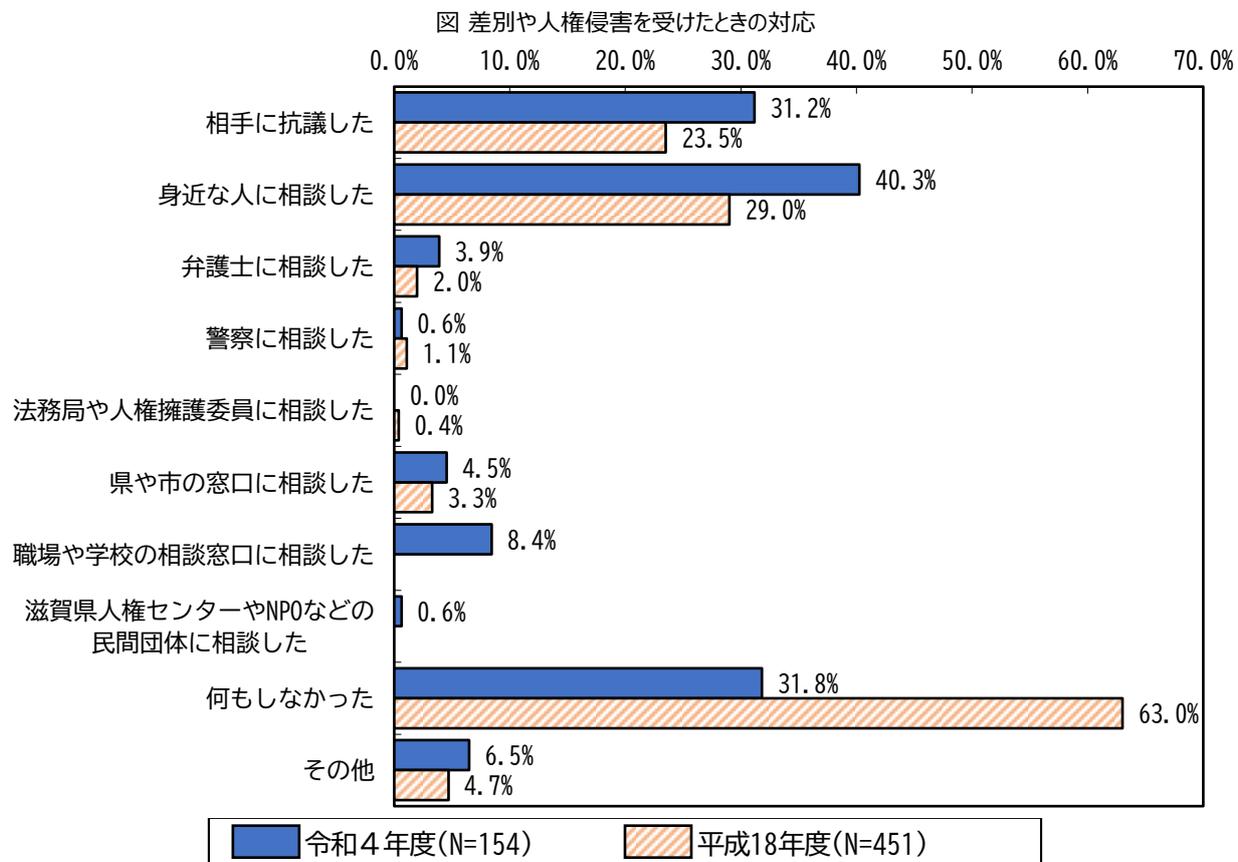
図 (参考) 内閣府調査「人権侵害の内容」



R 4 内閣府調査結果では、人権侵害の内容について、「あらぬ噂、他人からの悪口、かげ口」(54.4%) が最も多く、次いで「職場での嫌がらせ」(30.1%)、「名誉・信用のき損、侮辱」(22.9%)となっている。

#### (4) 差別や人権侵害を受けたときの対応

問8(4)(1)で、「1. ある」とお答えになった方におうかがいします。差別や人権侵害を受けたときに、どのような対応をされましたか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いくつでも)



差別や人権侵害を受けたときの対応についてみると、「身近な人に相談した」(40.3%)が最も多く、次いで「何もしなかった」(31.8%)、「相手に抗議した」(31.2%)となっている。

前回の調査結果と比べると、「身近な人に相談した」が11.3ポイント、「相手に抗議した」が7.7ポイント高く、「何もしなかった」が31.2ポイント低くなっている。

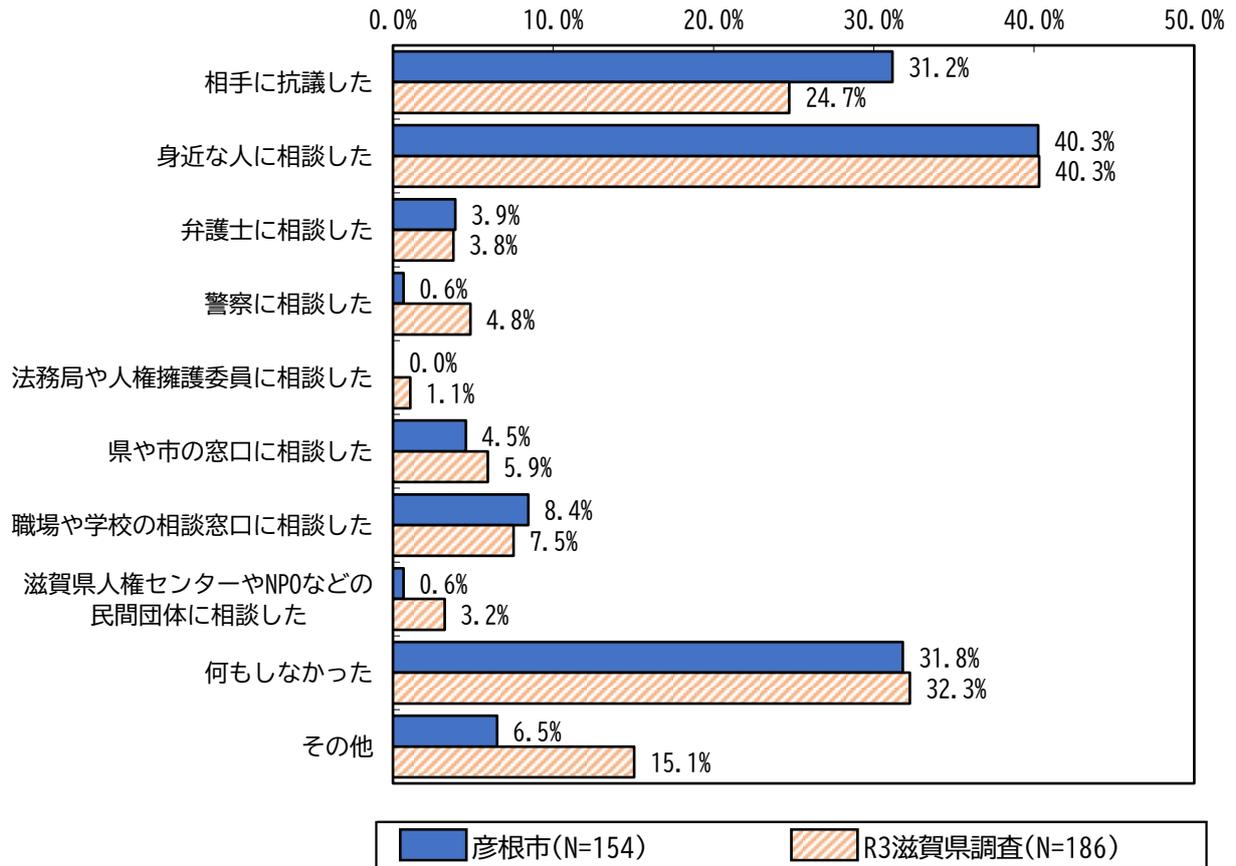
表 差別や人権侵害を受けたときの対応—性別・年齢別

		有効回答数	相手に抗議した	身近な人に相談した	弁護士に相談した	警察に相談した	法務局や人権擁護委員に相談した	県や市の窓口で相談した	職場や学校の相談窓口で相談した	団体の相談した	滋賀県人権センターなどの民間	何もしなかった	その他
全体		154	31.2%	40.3%	3.9%	0.6%	0.0%	4.5%	8.4%	0.6%	31.8%	6.5%	
性別	男性	59	42.4%	27.1%	6.8%	0.0%	0.0%	3.4%	10.2%	0.0%	33.9%	6.8%	
	女性	89	25.8%	48.3%	2.2%	1.1%	0.0%	4.5%	5.6%	0.0%	30.3%	6.7%	
	回答しない	4	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	
年齢	30歳未満	23	17.4%	34.8%	0.0%	0.0%	0.0%	4.3%	4.3%	0.0%	43.5%	4.3%	
	30歳代	34	32.4%	41.2%	2.9%	2.9%	0.0%	5.9%	14.7%	0.0%	29.4%	5.9%	
	40歳代	24	29.2%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	8.3%	4.2%	37.5%	8.3%	
	50歳代	27	40.7%	59.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.8%	0.0%	18.5%	14.8%	
	60歳代	27	40.7%	37.0%	7.4%	0.0%	0.0%	11.1%	3.7%	0.0%	22.2%	3.7%	
	70歳以上	18	22.2%	27.8%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	

性別でみると、「相手に抗議した」は男性の方が16.6ポイント、「身近な人に相談した」は女性の方が21.2ポイント高くなっている。

年齢別でみると、30歳未満と40歳代と70歳以上は「何もしなかった」、30歳代と50歳代は「身近な人に相談した」、60歳代は「相手に抗議した」が最も多くなっている。

図 差別や人権侵害を受けたときの対応—滋賀県との比較

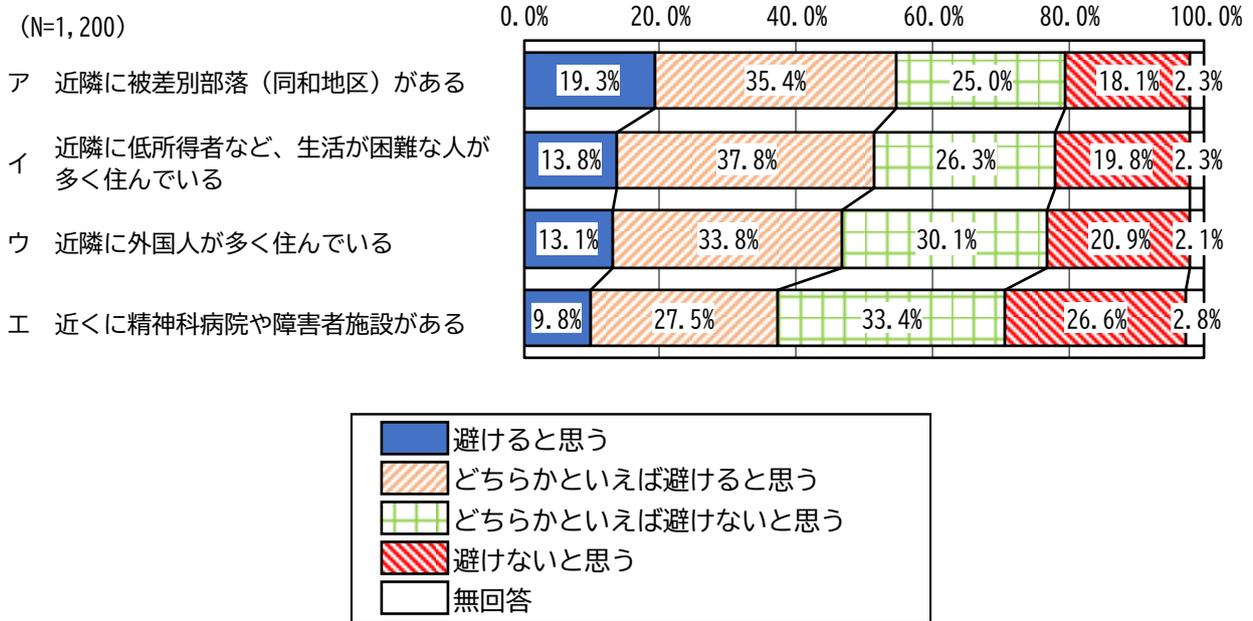


R 3 滋賀県調査と比べると、「相手に抗議した」が 6.5 ポイント高くなっている。

(5) 住宅を選ぶ際に忌避する条件

問9 あなたは、家やマンションを購入したり借りたりするなど住宅を選ぶ際に、価格や立地などが希望にあっても、次のような条件の物件の場合、避けると思いますか。  
あてはまるものを選んで○をつけてください。（「ア～エ」それぞれ1つ）

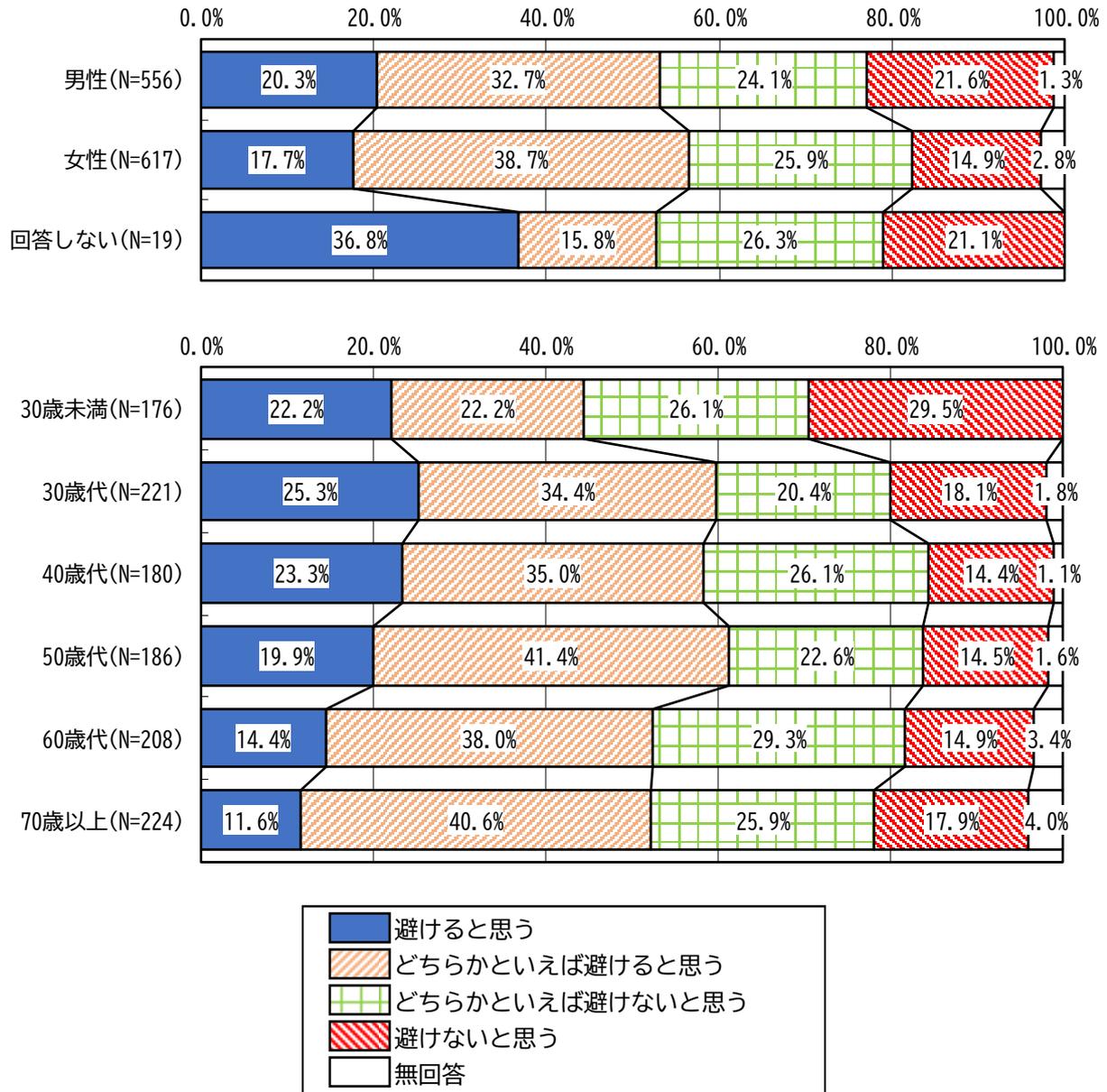
図 住宅を選ぶ際に忌避する条件



住宅を選ぶ際に忌避する条件について、「避けると思う」「どちらかといえば避けると思う」を合わせた“避ける”と、「避けないと思う」「どちらかといえば避けないと思う」を合わせた“避けない”を各選択肢でみると、  
 (ア)近隣に被差別部落（同和地区）がある（避ける 54.7%：避けない 43.1%）  
 (イ)近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる（避ける 51.6%：避けない 46.1%）  
 (ウ)近隣に外国人が多く住んでいる（避ける 46.9%：避けない 51.0%）  
 (エ)近くに精神科病院や障害者施設がある（避ける 37.3%：避けない 60.0%）  
 となっている。

(ア) 近隣に被差別部落（同和地区）がある

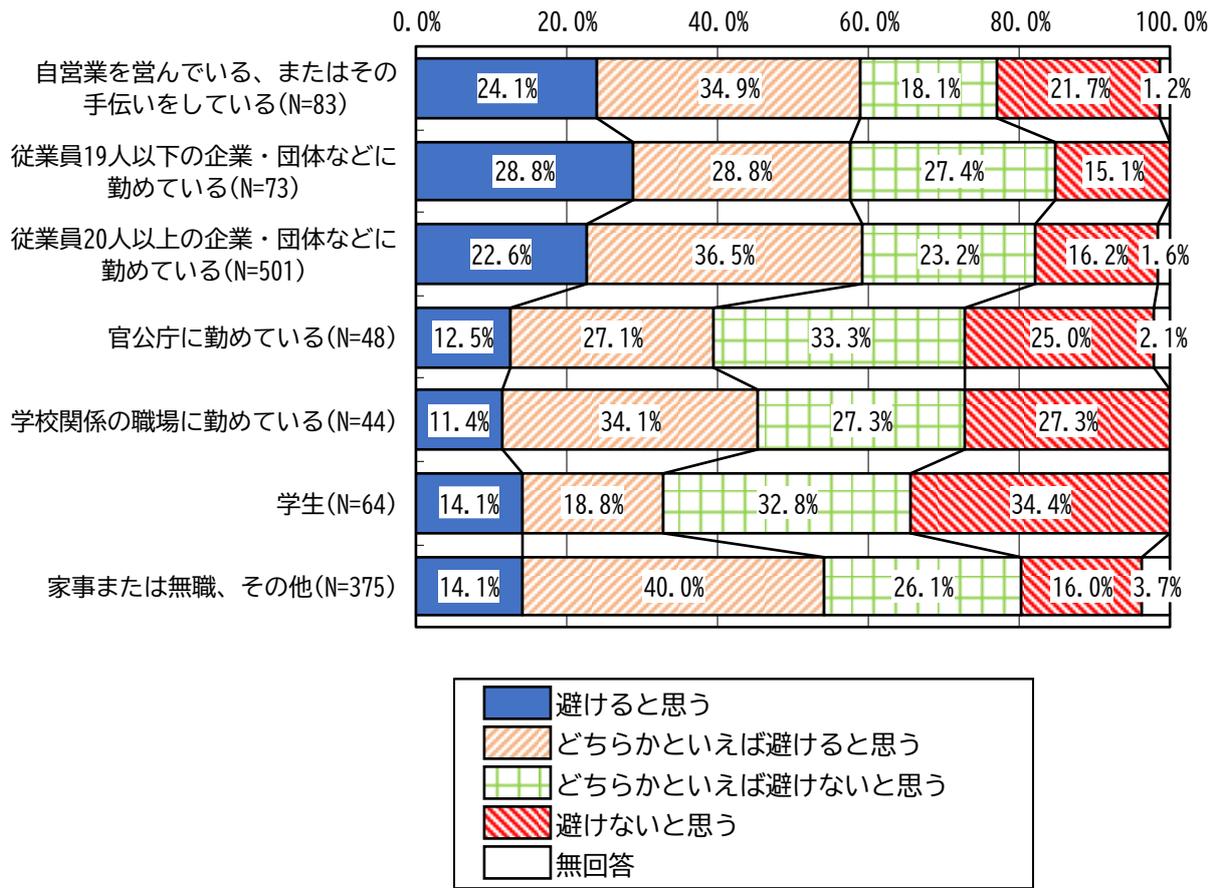
図 近隣に被差別部落（同和地区）がある一性別・年齢別



性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別でみると、30歳未満では“避けない”が“避ける”を上回っているが、その他の年代では“避ける”が“避け”を上回っている。

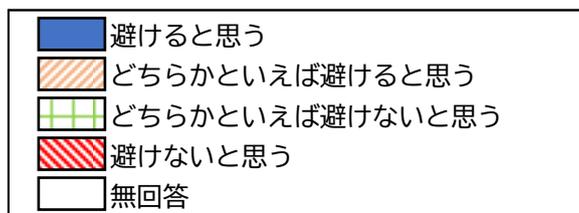
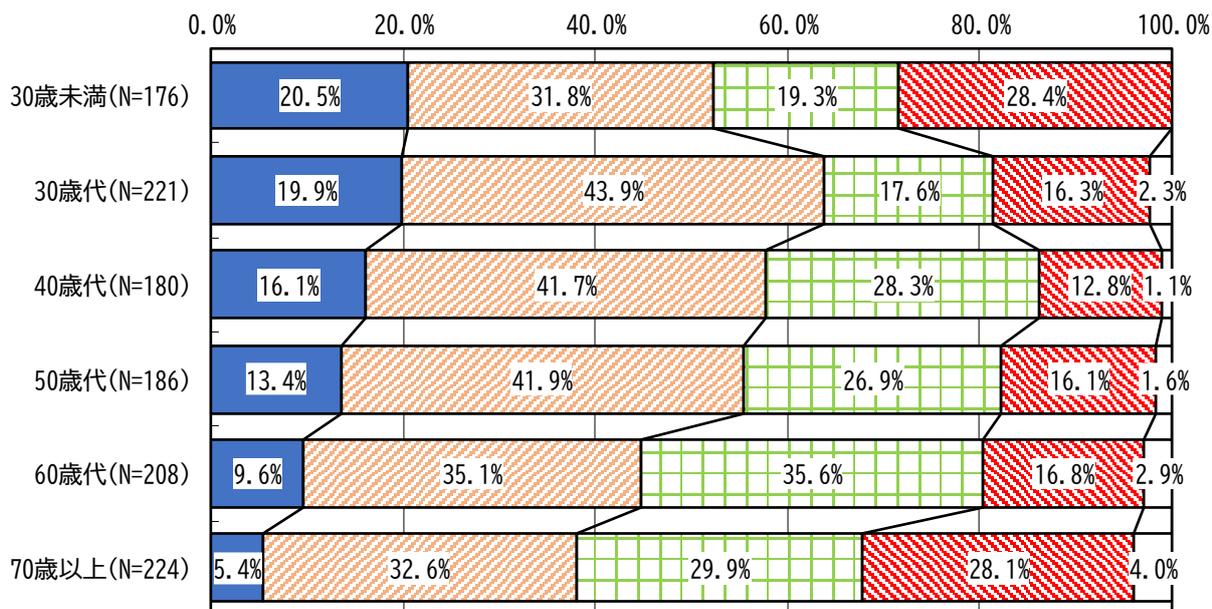
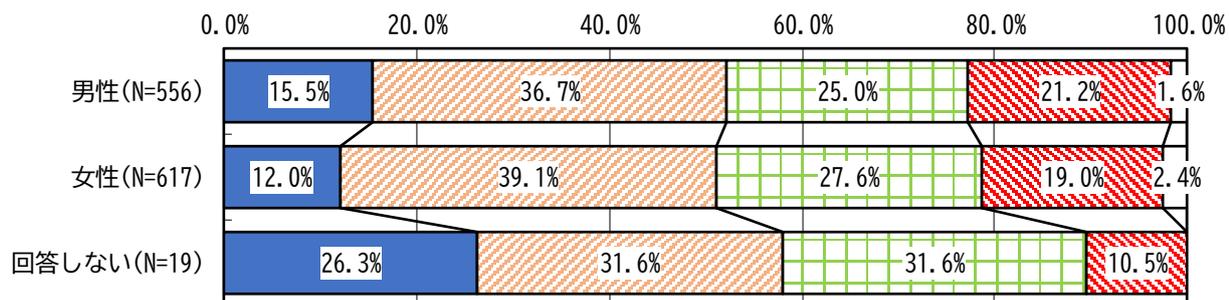
図 近隣に被差別部落（同和地区）がある—職業別



職業別でみると、“避ける”は従業員 20 人以上の企業・団体などに勤めているが 59.1%と最も多く、学生が 32.9%と最も少なくなっている。

(イ) 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる

図 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる—性別・年齢別

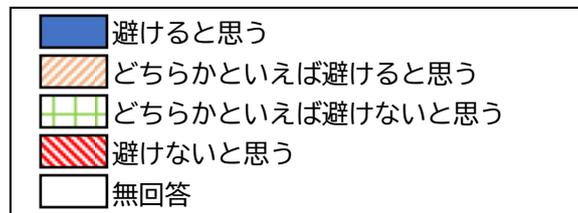
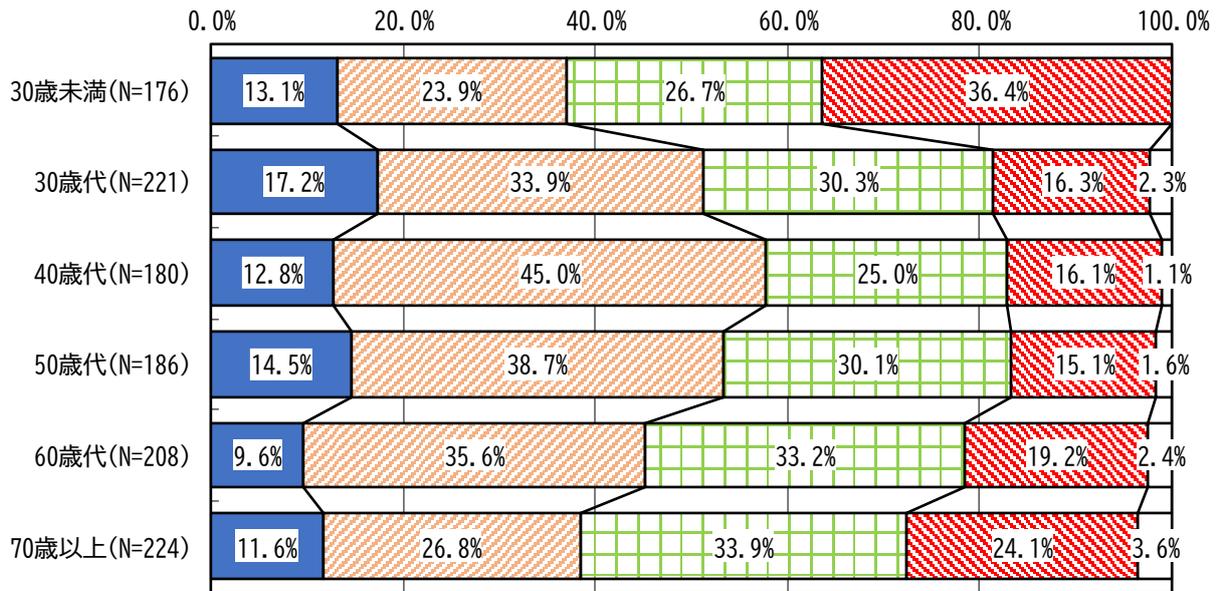
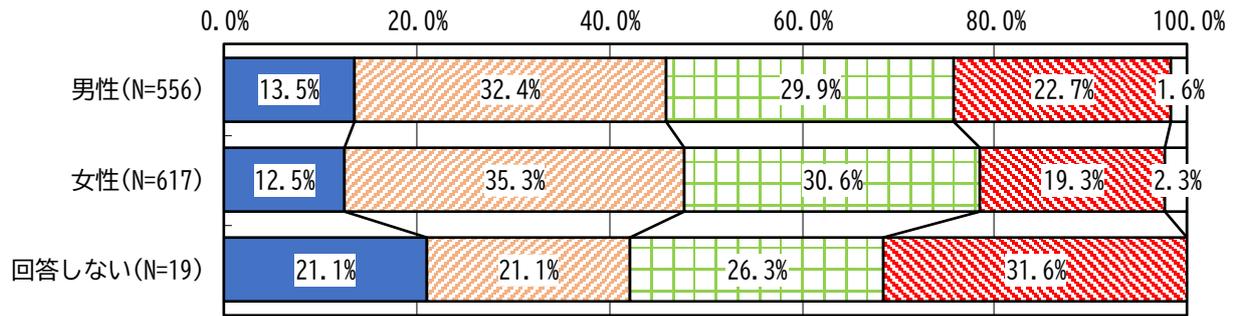


性別で見ると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別で見ると、60歳代から70歳以上は“避けない”が“避ける”を上回っているが、30歳未満から50歳代は“避ける”が“避けない”を上回っている。

(ウ) 近隣に外国人が多く住んでいる

図 近隣に外国人が多く住んでいる—性別・年齢別

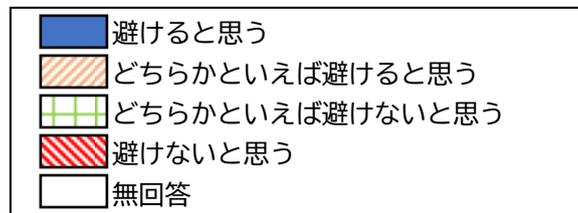
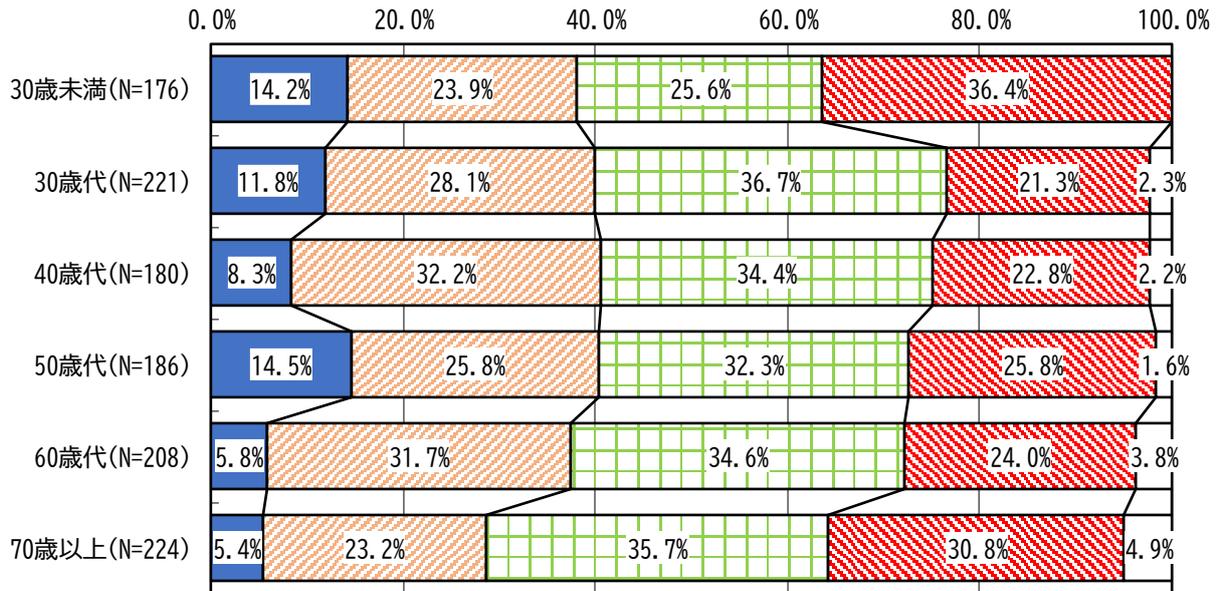
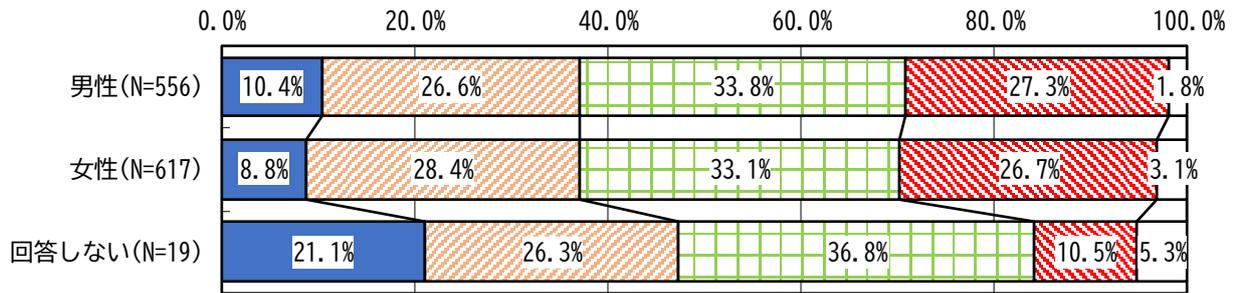


性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別でみると、30歳未満と60歳代から70歳以上は“避けない”が“避ける”を上回っているが、30歳代から50歳代は“避ける”が“避けない”を上回っている。

(工) 近くに精神科病院や障害者施設がある

図 近くに精神科病院や障害者施設がある—性別・年齢別



性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

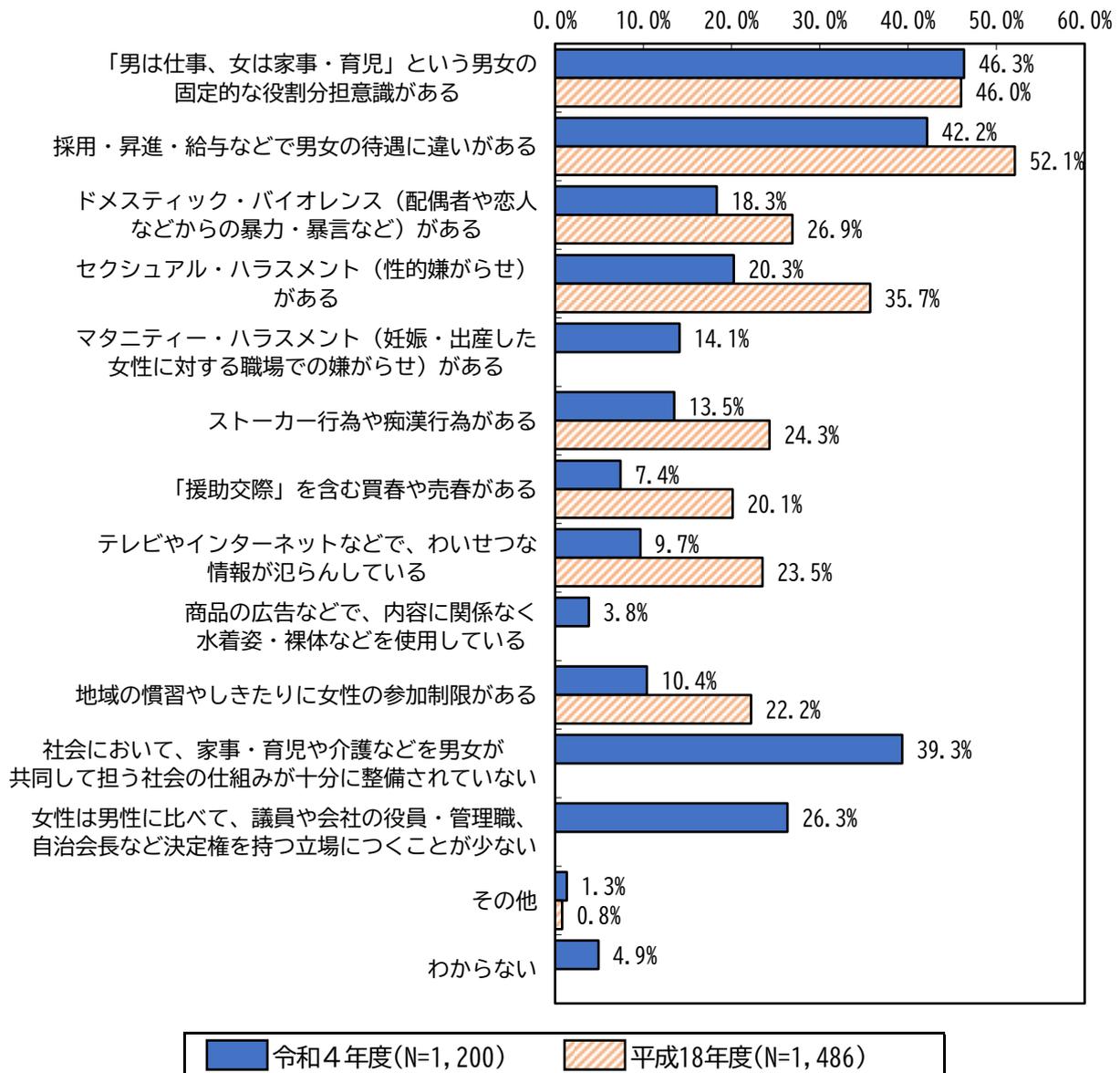
年齢別でみると、すべての年代で“避けない”が“避ける”を上回っている。

### 3 性別に関する人権問題について

#### (1) 性別に関することで、人権上問題があること

問 10 男女ともに性別で固定化する考え方は依然として根強く、真の男女平等の達成には引き続きの努力が必要です。性別に関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）

図 性別に関することで、人権上問題があること



性別に関することで、人権上問題があることについてみると、「『男は仕事、女は家事・育児』という男女の固定的な役割分担意識がある」（46.3%）が最も多く、次いで「採用・昇進・給与などで男女の待遇に違いがある」（42.2%）、「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていない」（39.3%）となっている。

前回の調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、上位2項目の順位は同じ結果となっている。

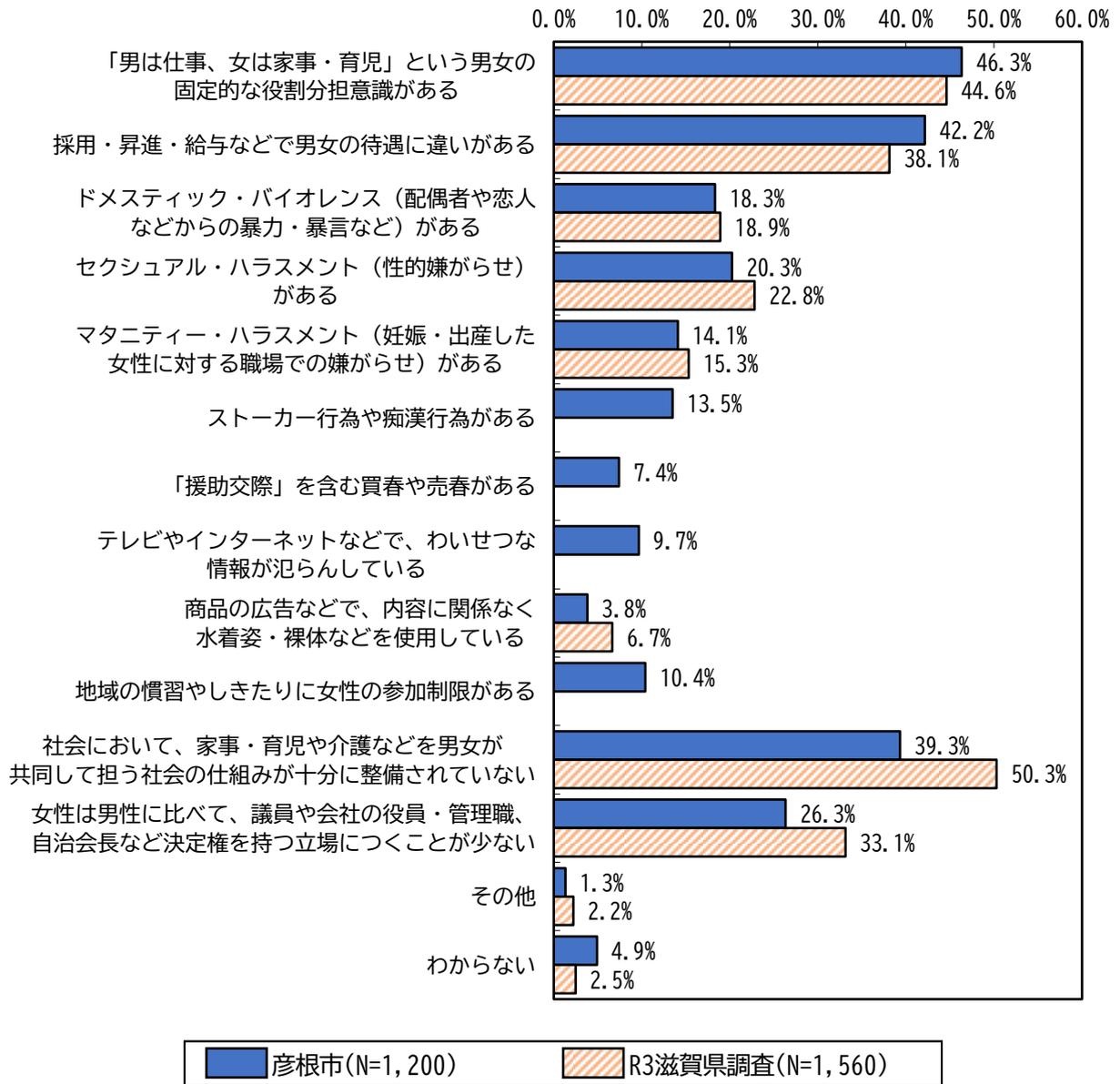
表 性別に関することで、人権上問題があること—性別・年齢別

		有効回答数	「男は仕事、女は家事・育児」という固定的な役割分担意識がある	「採用・昇進・給与などで男女の待遇に違いがある」	「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていない」	「女性に比べて、議員や会社の役員・管理職、自治会長など決定権を持つ立場につくことが少ない」	「女性に比べて、議員や会社の役員・管理職、自治会長など決定権を持つ立場につくことが少ない」	「女性に比べて、議員や会社の役員・管理職、自治会長など決定権を持つ立場につくことが少ない」	「女性に比べて、議員や会社の役員・管理職、自治会長など決定権を持つ立場につくことが少ない」
全体		1,200	46.3%	42.2%	18.3%	20.3%	14.1%	13.5%	7.4%
性別	男性	556	44.4%	39.9%	17.1%	22.8%	13.3%	15.6%	7.6%
	女性	617	48.8%	44.7%	19.8%	18.2%	14.7%	12.0%	7.3%
	回答しない	19	26.3%	36.8%	10.5%	10.5%	15.8%	5.3%	5.3%
年齢	30歳未満	176	47.2%	47.7%	15.9%	25.6%	17.0%	22.2%	6.8%
	30歳代	221	48.9%	39.8%	14.9%	19.9%	21.7%	12.2%	3.6%
	40歳代	180	52.8%	45.6%	16.7%	19.4%	15.6%	8.9%	6.1%
	50歳代	186	42.5%	38.7%	26.9%	22.6%	13.4%	16.1%	8.6%
	60歳代	208	43.8%	42.3%	21.6%	24.0%	12.0%	14.9%	9.6%
	70歳以上	224	43.3%	40.6%	15.2%	12.1%	5.8%	8.5%	9.8%
全体		1,200	9.7%	3.8%	10.4%	39.3%	26.3%	1.3%	4.9%
性別	男性	556	8.3%	2.7%	12.6%	33.6%	31.1%	2.0%	4.9%
	女性	617	10.9%	4.5%	8.1%	44.4%	22.2%	0.8%	4.7%
	回答しない	19	10.5%	15.8%	15.8%	52.6%	21.1%	0.0%	10.5%
年齢	30歳未満	176	4.0%	1.7%	6.8%	33.0%	18.8%	1.7%	4.0%
	30歳代	221	6.3%	2.7%	9.5%	48.9%	18.1%	2.3%	5.0%
	40歳代	180	12.2%	3.9%	11.1%	38.3%	23.3%	1.1%	3.9%
	50歳代	186	8.1%	3.2%	10.8%	43.0%	24.7%	2.7%	4.3%
	60歳代	208	9.1%	5.8%	13.0%	41.3%	23.1%	0.0%	4.8%
	70歳以上	224	17.0%	5.4%	10.3%	31.3%	47.3%	0.4%	7.1%

性別でみると、「女性は男性に比べて、議員や会社の役員・管理職、自治会長など決定権を持つ立場につくことが少ない」は男性の方が 8.9 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、すべての年代で「『男は仕事、女は家事・育児』という男女の固定的な役割分担意識がある」、「採用・昇進・給与などで男女の待遇に違いがある」、「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていない」が多くなっている。70 歳以上は「女性は男性に比べて、議員や会社の役員・管理職、自治会長など決定権を持つ立場につくことが少ない」が他の年代と比べて最も多くなっている。

図 性別に関することで、人権上問題があること—滋賀県との比較

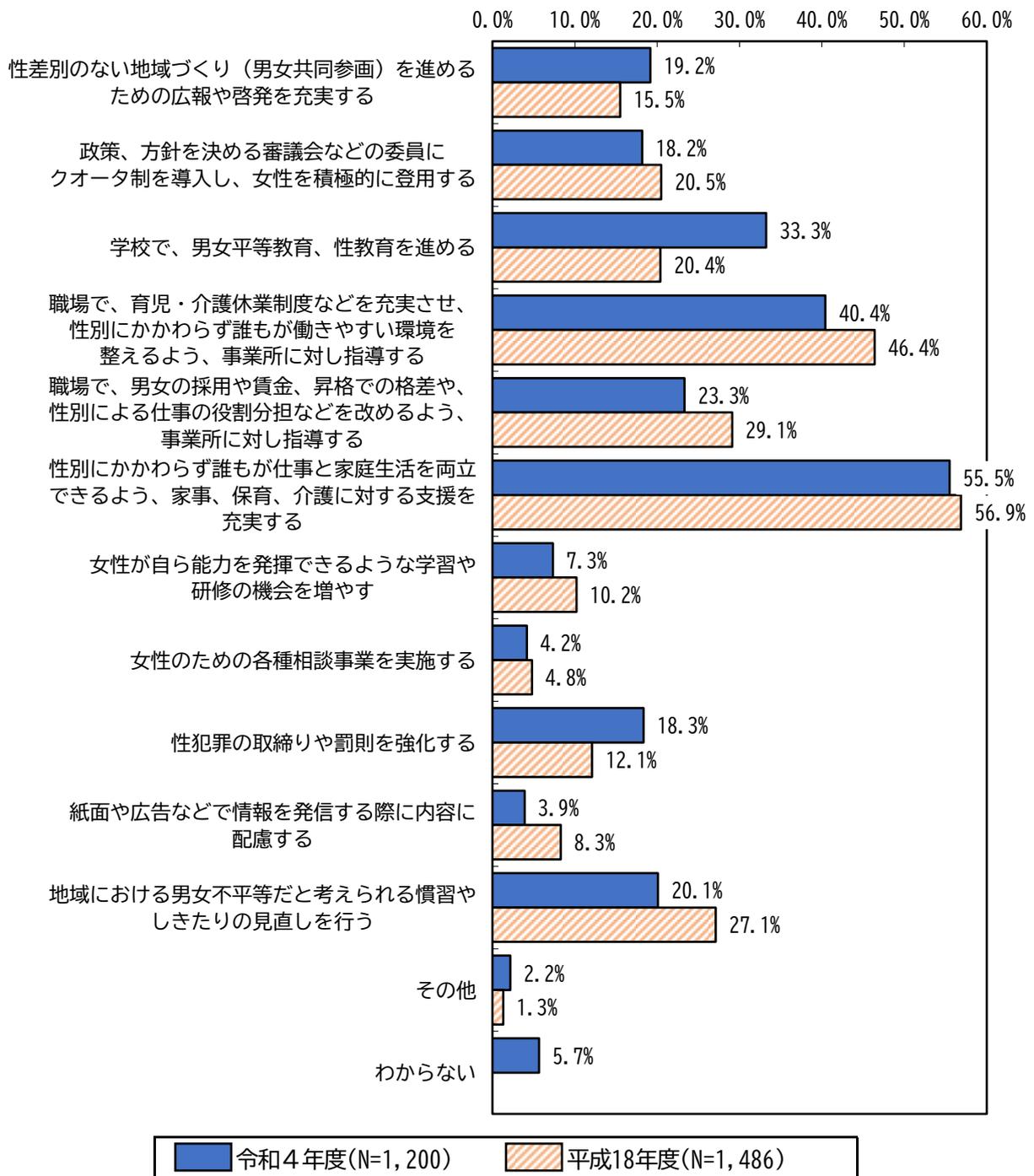


R 3 滋賀県調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていない」が 11.0 ポイント低くなっている。

(2) 性別に関する人権問題を解決するために必要なこと

問 11 性別に関する人権問題を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）

図 性別に関する人権問題を解決するために必要なこと



性別に関する人権問題を解決するために必要なことについてみると、「性別にかかわらず誰もが仕事と家庭生活を両立できるよう、家事、保育、介護に対する支援を充実する」（55.5%）が最も多く、次いで「職場で、育児・介護休業制度などを充実させ、性別にかかわらず誰もが働きやすい環境を整えるよう、事業所に対し指導する」（40.4%）、「学校で、男女平等教育、性教育を進める」（33.3%）となっている。

前回の調査結果と比べると、上位2項目の順位は同じ結果となっている。また、「学校で、男女平等教育、性教育を進める」が12.9ポイント高くなっている。

表 性別に関する人権問題を解決するために必要なこと一性別・年齢別

		有効回答数	発を同性参画の充実を充実する	を委員積極的に登用する	進学校で、男女平等教育、性教育を	うもが、事業所に対し指導する	を職場で、育児・介護休業制度など	に割分格差を改めるよう、事業所	で場の格差や性別による賃金、昇格	る保生活介護に對する支援を充実す	性別にかかわらず誰もが仕事と家	な女性が自ら能力を發揮できるよう
全体		1,200	19.2%	18.2%	33.3%	40.4%	23.3%	55.5%	7.3%			
性別	男性	556	23.2%	20.3%	31.8%	37.6%	20.9%	51.1%	7.4%			
	女性	617	15.4%	16.2%	35.2%	43.1%	25.4%	60.0%	7.5%			
	回答しない	19	26.3%	15.8%	26.3%	36.8%	26.3%	36.8%	5.3%			
年齢	30歳未満	176	22.2%	9.7%	39.2%	48.3%	26.7%	53.4%	7.4%			
	30歳代	221	14.9%	18.6%	33.5%	49.3%	26.7%	54.8%	5.0%			
	40歳代	180	16.7%	16.1%	35.0%	38.3%	24.4%	58.9%	7.2%			
	50歳代	186	16.1%	16.7%	28.0%	42.5%	21.5%	56.5%	5.4%			
	60歳代	208	20.2%	22.1%	32.7%	37.0%	24.5%	56.7%	7.7%			
	70歳以上	224	25.0%	23.2%	32.6%	29.0%	17.0%	52.7%	11.2%			
		有効回答数	る相女性参画の充実を充実する	罰則を強化する	に情報発信する際	りれる見直しを行う	不平等にける男女	その他	わからない			
全体		1,200	4.2%	18.3%	3.9%	20.1%	2.2%	5.7%				
性別	男性	556	3.1%	18.0%	3.4%	22.1%	3.1%	6.1%				
	女性	617	5.3%	19.0%	4.1%	18.2%	1.3%	5.0%				
	回答しない	19	0.0%	10.5%	10.5%	21.1%	5.3%	10.5%				
年齢	30歳未満	176	1.7%	21.0%	2.3%	16.5%	0.6%	5.1%				
	30歳代	221	4.5%	17.6%	2.7%	15.8%	5.0%	5.9%				
	40歳代	180	3.9%	19.4%	4.4%	21.1%	1.7%	5.6%				
	50歳代	186	4.8%	22.6%	2.7%	21.0%	2.2%	7.0%				
	60歳代	208	3.4%	16.3%	5.8%	24.5%	1.9%	3.4%				
	70歳以上	224	6.3%	14.7%	4.9%	21.0%	1.3%	7.1%				

性別でみると、「性差別のない地域づくり（男女共同参画）を進めるための広報や啓発を充実する」は男性の方が7.8ポイント高く、「性別にかかわらず誰もが仕事と家庭生活を両立できるよう、家事、保育、介護に対する支援を充実する」は女性の方が8.9ポイント高くなっている。

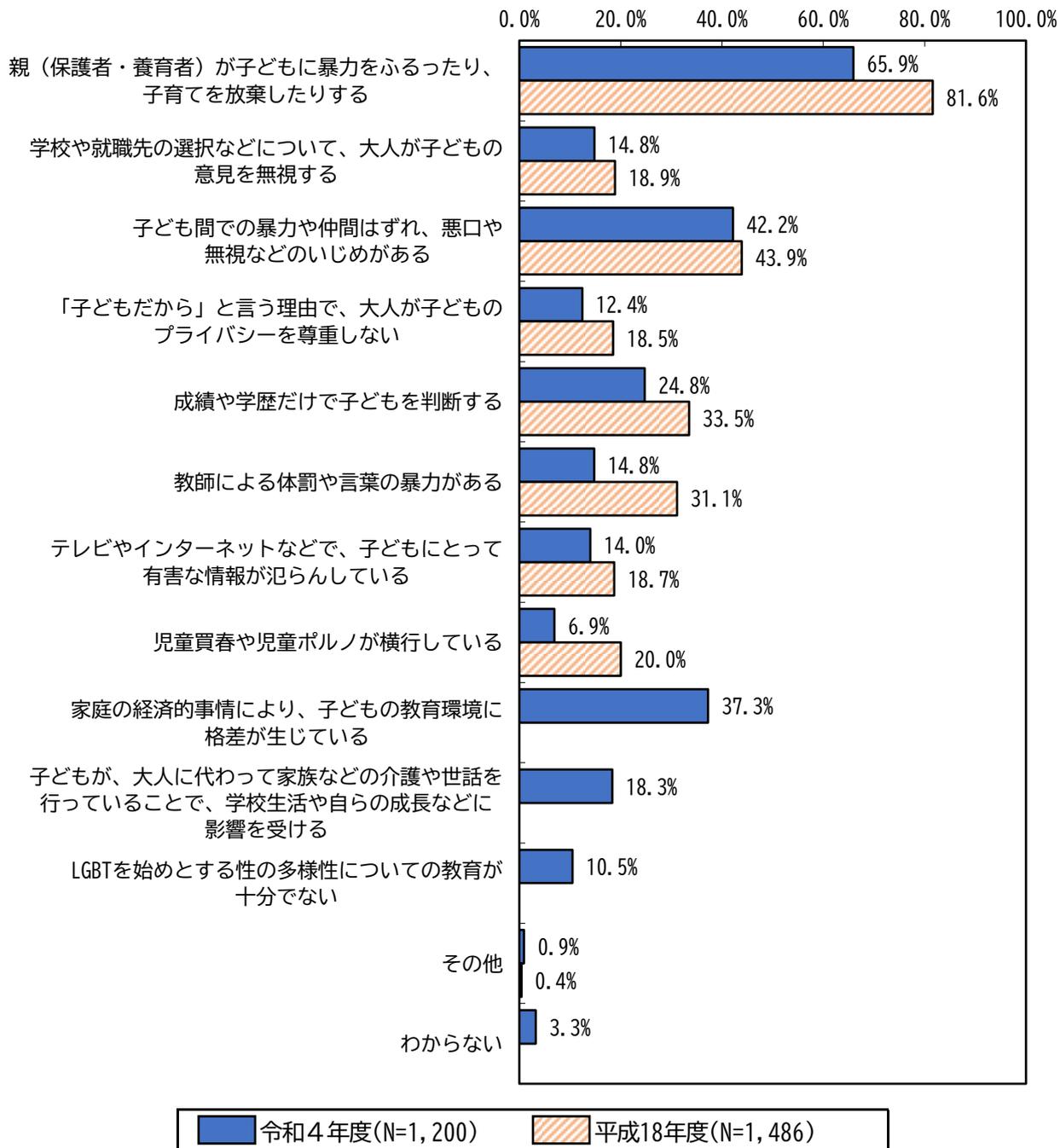
年齢別でみると、すべての年代で「性別にかかわらず誰もが仕事と家庭生活を両立できるよう、家事、保育、介護に対する支援を充実する」が最も多くなっている。

## 4 子どもの人権について

### (1) 子どもに関することで、人権上問題があること

問 12 子どもに関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

図 子どもに関することで、人権上問題があること



子どもに関することで、人権上問題があることについてみると、「親（保護者・養育者）が子どもに暴力をふるったり、子育てを放棄したりする」（65.9%）が最も多く、次いで「子ども間での暴力や仲間はずれ、悪口や無視などのいじめがある」（42.2%）、「家庭の経済的事情により、子どもの教育環境に格差が生じている」（37.3%）となっている。

前回の調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、上位2項目の順位は同じ結果となっている。

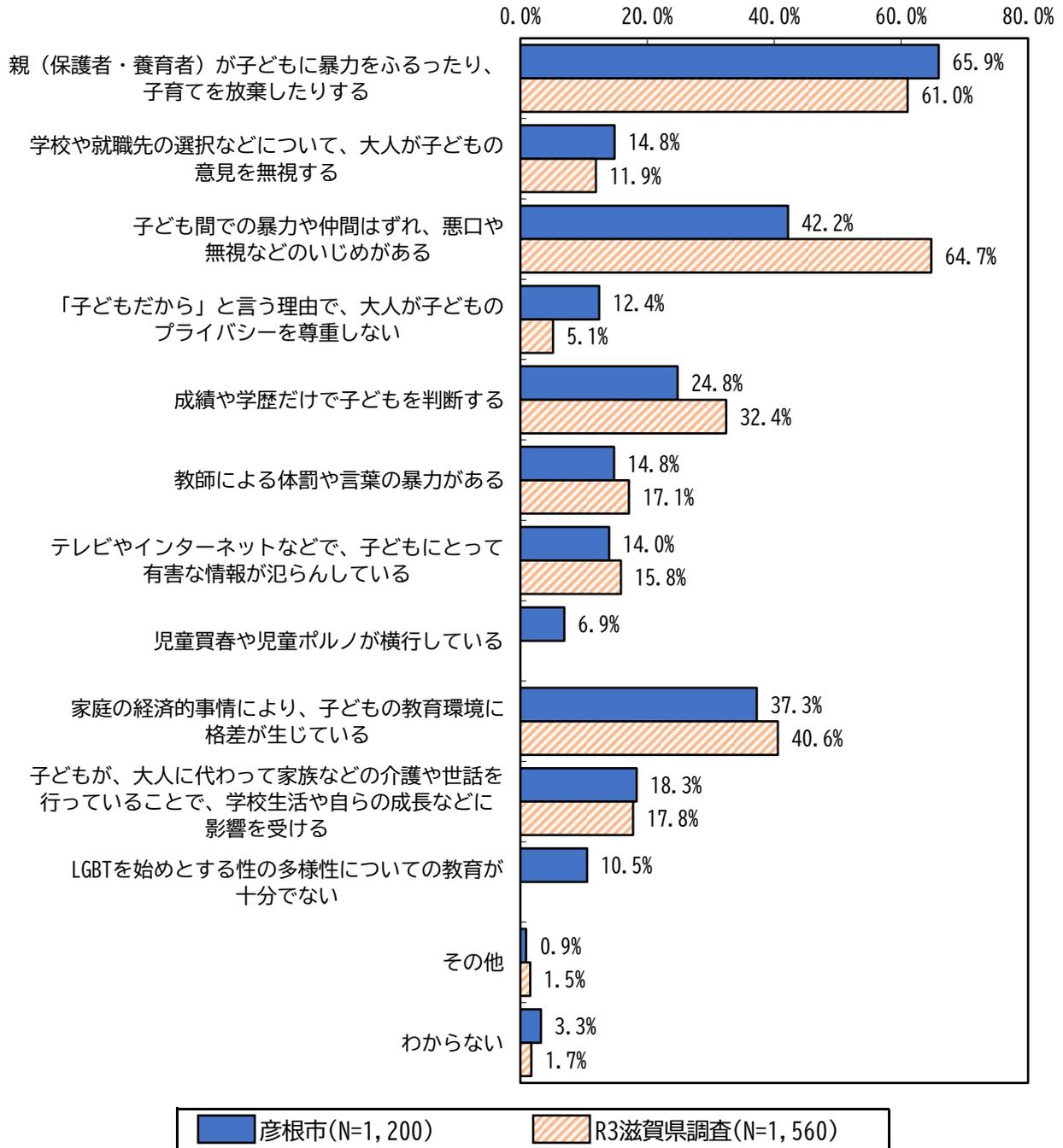
表 子どもに関することで、人権上問題があること一性別・年齢別

		有効回答数	棄るが親 したり子ども りたりにも り、に暴者・ 育てを放養者)	どども のつや のい見 を、無 視が視 する子	な問子 どはど のいれ じ、で め悪の が口暴 あや無 る視仲	重し のプ ない イ バ シ ー を 尊	も の理 由で だ か ら と 言	も を 判 断 す る	成 績 や 学 歴 だ け で 子 ど	の 暴 力 が あ る 体 罰 や 言 葉	ら ん し て い る	と つ て 有 害 な 情 報 が 氾	レ ビ デ オ 、 イ ン タ ー ネ ツ
全体		1,200	65.9%	14.8%	42.2%	12.4%	24.8%	14.8%	14.0%				
性別	男性	556	65.1%	17.3%	40.6%	12.4%	23.7%	12.9%	14.7%				
	女性	617	67.9%	12.2%	43.9%	12.3%	25.8%	16.2%	13.0%				
	回答しない	19	42.1%	31.6%	31.6%	21.1%	21.1%	15.8%	26.3%				
	年齢												
	30歳未満	176	68.2%	29.0%	40.9%	22.2%	25.0%	13.1%	6.8%				
	30歳代	221	62.0%	19.9%	43.9%	15.8%	20.8%	18.1%	10.4%				
	40歳代	180	65.6%	15.6%	42.2%	9.4%	23.3%	13.3%	17.2%				
	50歳代	186	70.4%	10.8%	42.5%	14.0%	23.1%	12.9%	14.0%				
	60歳代	208	67.8%	8.7%	43.3%	8.2%	25.0%	14.4%	14.9%				
	70歳以上	224	63.8%	7.1%	40.2%	6.7%	30.8%	15.6%	19.6%				
		有効回答数	児童買春や児童ポルノが横行	家庭の経済的環境に格差が生じ	いなる長など、学校生活や自ら	族なども、大人に代わって家	ない性、ITを始めとする十分で	その他	わからない				
全体		1,200	6.9%	37.3%	18.3%	10.5%	0.9%	3.3%					
性別	男性	556	5.9%	36.9%	15.8%	10.3%	1.4%	2.9%					
	女性	617	7.9%	36.8%	20.3%	11.0%	0.5%	3.2%					
	回答しない	19	5.3%	47.4%	31.6%	5.3%	0.0%	10.5%					
	年齢												
	30歳未満	176	5.1%	30.7%	10.2%	11.9%	1.1%	2.3%					
	30歳代	221	5.9%	32.6%	20.4%	14.0%	2.3%	2.7%					
	40歳代	180	6.1%	38.9%	17.8%	11.1%	0.0%	5.0%					
	50歳代	186	6.5%	39.2%	19.4%	10.2%	0.5%	2.2%					
	60歳代	208	9.6%	41.8%	20.7%	7.7%	0.5%	3.8%					
	70歳以上	224	8.0%	38.8%	20.1%	8.5%	0.9%	3.6%					

性別でみると、「学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視する」は男性の方が 5.1 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、すべての年代で「親（保護者・養育者）が子どもに暴力をふるったり、子育てを放棄したりする」が最も多くなっている。

図 子どもに関することで、人権上問題があること—滋賀県との比較

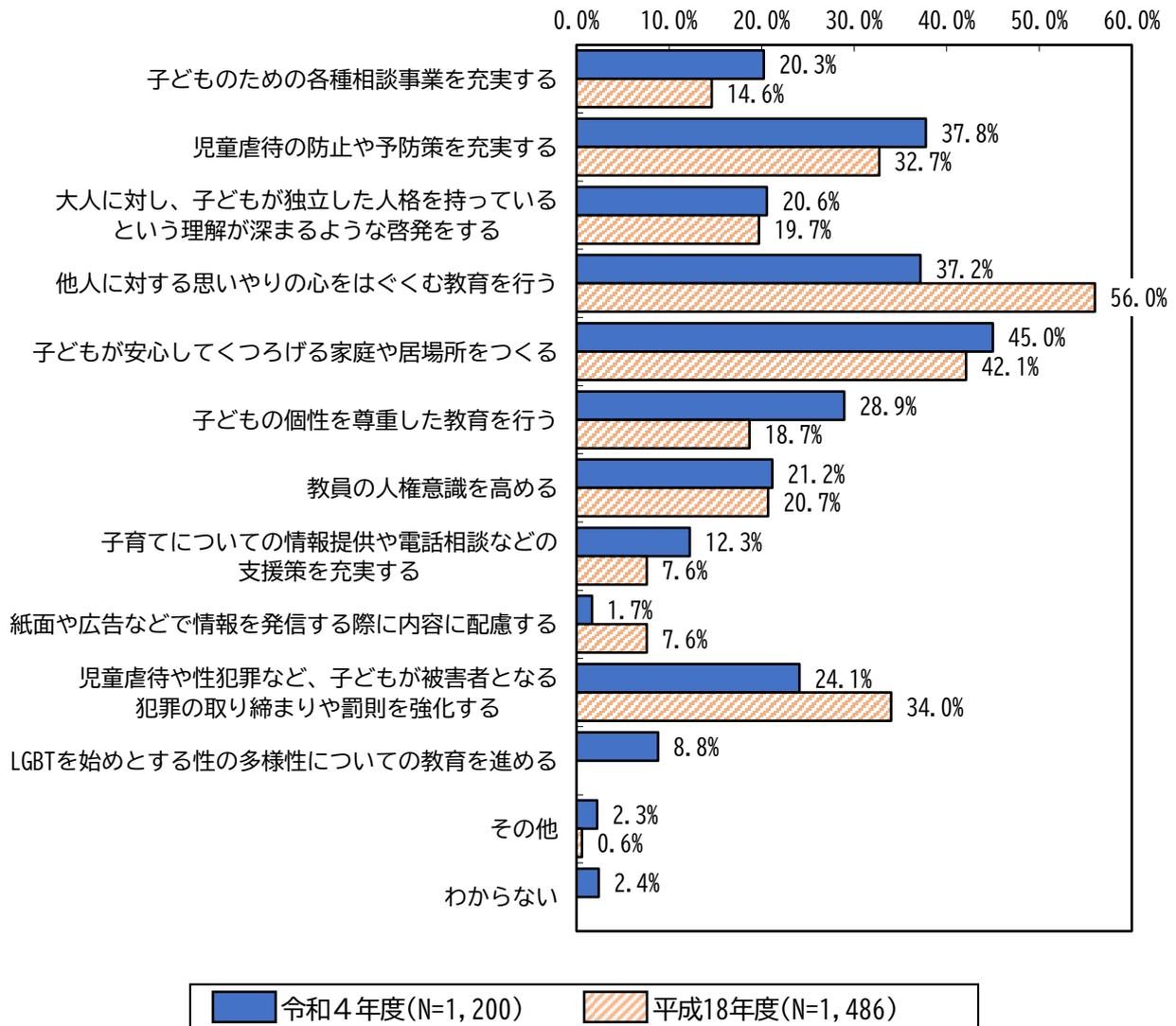


R 3 滋賀県調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「子ども間での暴力や仲間はずれ、悪口や無視などのいじめがある」が 22.5 ポイント低くなっている。

(2) 子どもの人権が尊重されるために必要なこと

問 13 子どもの人権が尊重されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

図 子どもの人権が尊重されるために必要なこと



子どもの人権が尊重されるために必要なことについてみると、「子どもが安心してくつろげる家庭や居場所をつくる」(45.0%)が最も多く、次いで「児童虐待の防止や予防策を充実する」(37.8%)、「他人に対する思いやりの心をはぐくむ教育を行う」(37.2%)となっている。

前回の調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「子どもの個性を尊重した教育を行う」が10.2ポイント高くなり、「他人に対する思いやりの心をはぐくむ教育を行う」が18.8ポイント低くなっている。

表 子どもの人権が尊重されるために必要なこと—性別・年齢別

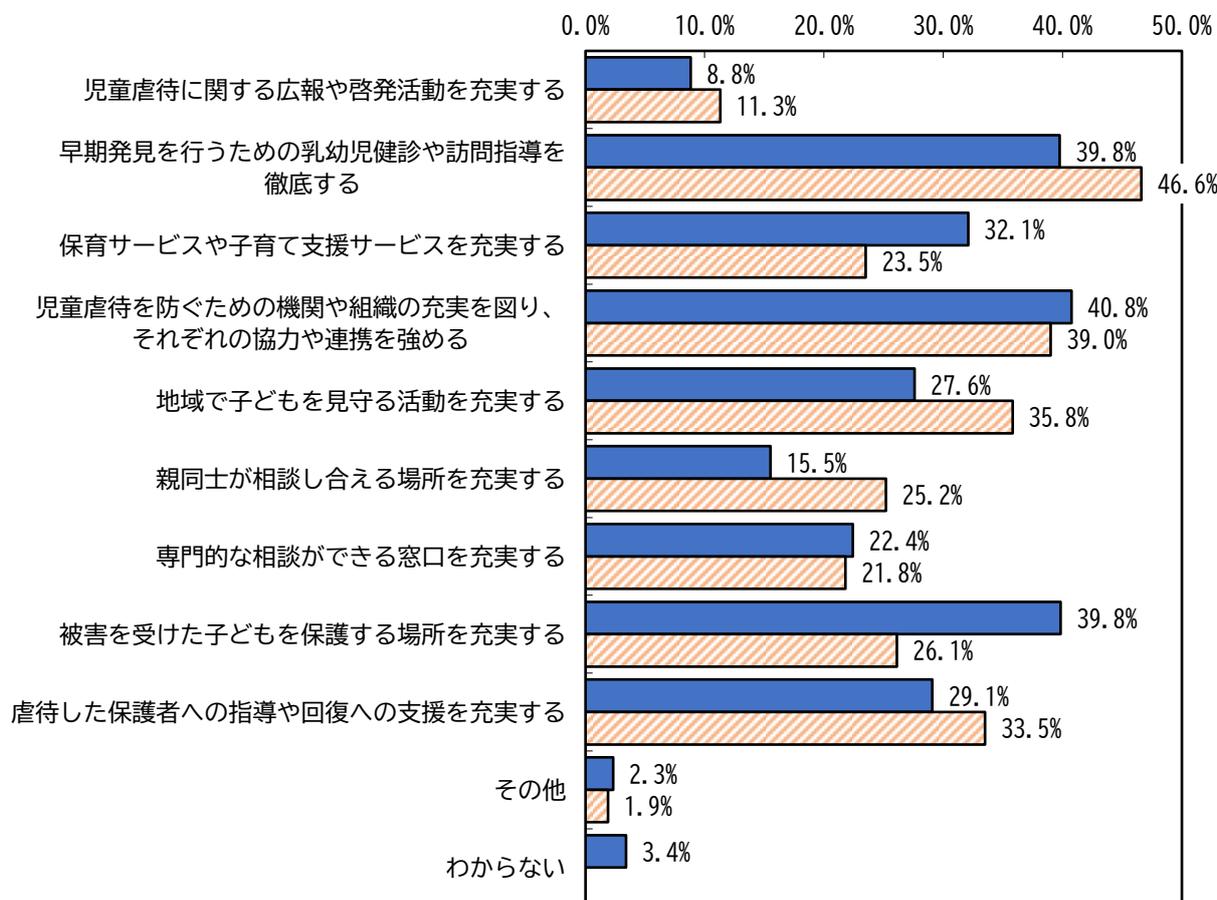
		有効回答数	子どものための各種相談	児童虐待の防止や予防策を充実する	いじめや不登校、いじめ被害の発生を防止する	一人ひとりの個性を尊重し、子どもが安心して生活できる環境をつくる	他人に対する思いやりを育む	子どもが安心して生活できる環境をつくる	子どもの個性を尊重し、自己表現の場をつくる	子どもの人権意識を高める
全体		1,200	20.3%	37.8%	20.6%	37.2%	45.0%	28.9%	21.2%	
性別	男性	556	19.2%	40.1%	20.9%	39.6%	38.8%	27.3%	20.0%	
	女性	617	21.4%	36.1%	20.1%	35.7%	50.9%	30.1%	22.0%	
	回答しない	19	10.5%	26.3%	31.6%	21.1%	36.8%	31.6%	26.3%	
	30歳未満	176	23.9%	41.5%	15.3%	25.0%	48.3%	34.7%	19.9%	
年齢	30歳代	221	21.3%	31.2%	27.6%	28.5%	48.4%	31.2%	19.9%	
	40歳代	180	17.8%	30.0%	27.8%	33.3%	42.2%	35.0%	15.0%	
	50歳代	186	18.3%	39.2%	19.9%	34.9%	48.4%	23.7%	25.3%	
	60歳代	208	18.3%	39.9%	15.9%	44.7%	41.8%	25.5%	22.6%	
	70歳以上	224	21.9%	44.2%	17.0%	53.1%	42.0%	24.6%	23.2%	
		有効回答数	支援策を充実するための相談など	紙面や電話などでの情報提供	紙面や電話などでの情報提供	児童虐待や性犯罪の被害者など	LGBTの進め方について	その他	わからない	
全体		1,200	12.3%	1.7%	24.1%	8.8%	2.3%	2.4%		
性別	男性	556	11.5%	1.4%	24.8%	8.1%	2.2%	2.5%		
	女性	617	13.0%	1.9%	24.0%	9.6%	2.1%	1.9%		
	回答しない	19	10.5%	0.0%	10.5%	10.5%	10.5%	10.5%		
	30歳未満	176	8.5%	1.7%	26.1%	10.2%	3.4%	2.3%		
年齢	30歳代	221	10.9%	1.4%	23.5%	11.8%	5.0%	3.2%		
	40歳代	180	12.2%	0.6%	27.8%	13.3%	1.7%	2.2%		
	50歳代	186	8.6%	1.1%	25.8%	8.1%	1.1%	1.6%		
	60歳代	208	18.3%	1.4%	24.0%	6.7%	1.4%	2.9%		
	70歳以上	224	14.3%	3.6%	19.2%	4.0%	0.9%	2.2%		

性別でみると、「子どもが安心してつづる家庭や居場所をつくる」は女性の方が12.1ポイント高くなっている。年齢別でみると、30歳未満から50歳代は「子どもが安心してつづる家庭や居場所をつくる」、60歳代から70歳以上は「他人に対する思いやりの心をはぐむ教育を行う」が最も多くなっている。

### (3) 児童虐待をなくすために必要なこと

問 14 児童虐待をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

図 児童虐待をなくすために必要なこと



■ 令和4年度(N=1,200)    ■ 平成18年度(N=1,486)

児童虐待をなくすために必要なことについてみると、「児童虐待を防ぐための機関や組織の充実を図り、それぞれの協力や連携を強める」(40.8%)が最も多く、次いで「早期発見を行うための乳幼児健診や訪問指導を徹底する」「被害を受けた子どもを保護する場所を充実する」(いずれも39.8%)となっている。

前回の調査結果と比べると、「被害を受けた子どもを保護する場所を充実する」が13.7ポイント高くなっている。

表 児童虐待をなくすために必要なこと一性別・年齢別

		有効回答数	児童虐待に関する広報や啓発活動を充実する	早期発見を行うための乳幼児健診や訪問指導を徹底する	子育て支援サービスや子育てを充実する	児童虐待を防止するための機関や組織の充実を図り、それぞれの協力や連携を強める	地域で子どもを見守る活動を充実する	親同士が相談し合える場所を充実する
全体		1,200	8.8%	39.8%	32.1%	40.8%	27.6%	15.5%
性別	男性	556	12.6%	39.0%	30.8%	41.7%	28.4%	15.6%
	女性	617	5.3%	40.8%	34.2%	40.5%	27.1%	15.6%
	回答しない	19	10.5%	26.3%	10.5%	26.3%	21.1%	15.8%
年齢	30歳未満	176	10.8%	47.2%	41.5%	32.4%	34.7%	21.0%
	30歳代	221	6.8%	34.4%	50.2%	35.3%	22.2%	21.3%
	40歳代	180	10.6%	30.0%	29.4%	39.4%	27.8%	16.7%
	50歳代	186	5.4%	39.2%	27.4%	41.9%	26.3%	12.9%
	60歳代	208	8.7%	44.7%	26.0%	46.2%	26.4%	9.1%
	70歳以上	224	11.2%	43.3%	18.8%	48.2%	29.0%	12.9%
		有効回答数	実地専門的窓口を充実させる	場も被害を保護する	被害を受けた子どもを保護する	虐待した保護者への指導や回復への支援を充実する	その他	わからない
全体		1,200	22.4%	39.8%	29.1%	2.3%	3.4%	
性別	男性	556	23.6%	36.9%	26.1%	3.2%	3.6%	
	女性	617	21.7%	42.5%	31.8%	1.3%	2.9%	
	回答しない	19	15.8%	42.1%	26.3%	10.5%	10.5%	
年齢	30歳未満	176	21.0%	38.1%	17.0%	1.7%	2.3%	
	30歳代	221	19.5%	37.1%	26.7%	2.3%	3.6%	
	40歳代	180	18.9%	47.8%	29.4%	4.4%	3.9%	
	50歳代	186	25.8%	41.9%	37.6%	2.7%	3.2%	
	60歳代	208	22.6%	40.4%	31.7%	1.9%	4.3%	
	70歳以上	224	26.3%	35.3%	30.8%	1.3%	3.1%	

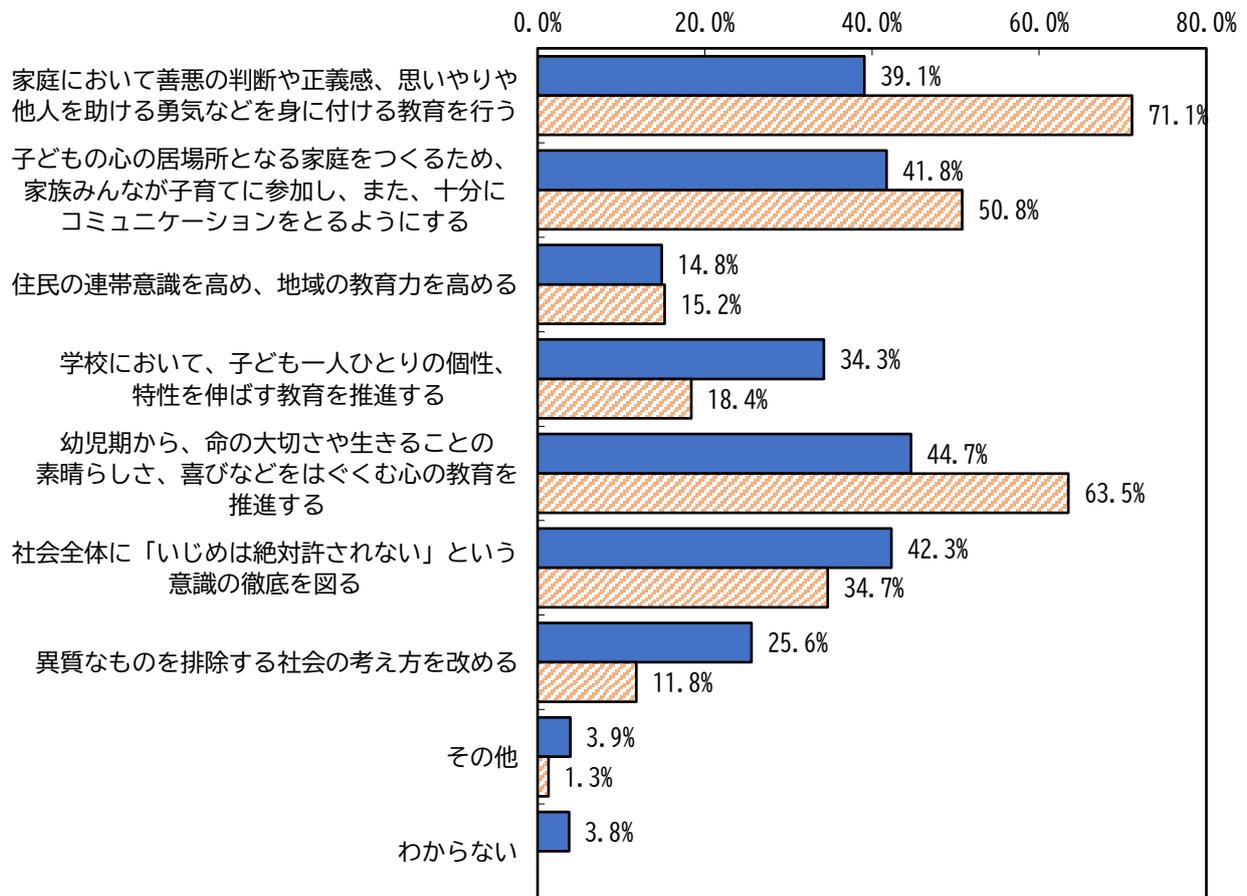
性別でみると、「児童虐待に関する広報や啓発活動を充実する」は男性の方が 7.3 ポイント、「虐待した保護者への指導や回復への支援を充実する」は女性の方が 5.7 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、30 歳未満は「早期発見を行うための乳幼児健診や訪問指導を徹底する」、30 歳代は「保育サービスや子育て支援サービスを充実する」、40 歳代は「被害を受けた子どもを保護する場所を充実する」、50 歳代は「児童虐待を防止するための機関や組織の充実を図り、それぞれの協力や連携を強める」「被害を受けた子どもを保護する場所を充実する」、60 歳代から 70 歳以上は「児童虐待を防止するための機関や組織の充実を図り、それぞれの協力や連携を強める」が最も多くなっている。

(4) いじめの予防・早期発見・早期対応のために必要なこと

問 15 いじめの予防・早期発見・早期対応のためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）

図 いじめの予防・早期発見・早期対応のために必要なこと



■ 令和4年度(N=1,200)    ■ 平成18年度(N=1,486)

いじめの予防・早期発見・早期対応のために必要なことについてみると、「幼児期から、命の大切さや生きることの素晴らしさ、喜びなどをはぐむ心の教育を推進する」（44.7%）が最も多く、次いで「社会全体に『いじめは絶対許されない』という意識の徹底を図る」（42.3%）、「子どもの心の居場所となる家庭をつくるため、家族みんなが子育てに参加し、また、十分にコミュニケーションをとるようにする」（41.8%）となっている。

前回の調査結果と比べると、「学校において、子ども一人ひとりの個性、特性を伸ばす教育を推進する」が 15.9 ポイント、「異質なものを排除する社会の考え方を改める」が 13.8 ポイント高く、「家庭において善悪の判断や正義感、思いやりや他人を助ける勇気などを身に付ける教育を行う」が 32.0 ポイント、「幼児期から、命の大切さや生きることの素晴らしさ、喜びなどをはぐむ心の教育を推進する」が 18.8 ポイント低くなっている。

表 いじめの予防・早期発見・早期対応のために必要なこと一性別・年齢別

	有効回答数	な感家ケにっ子育住すの学ぐこ幼な社 ど庭庭一に参くも民の校にの児会 を思にに加るもの連の校にお期全 身にいおしるたの心帯の校におから にやいおし、たの心帯の校におから 付けやいて、め、居場所となる家 る他善とた、族みんとなる家 教育人のよ、分なるが子育て を行助のうににコミユ二 うけるけするする	39.1%	41.8%	14.8%	34.3%	44.7%	42.3%	25.6%	3.9%	3.8%
全体	1,200										
性別	男性	556	41.0%	36.2%	19.8%	32.7%	39.9%	43.7%	24.6%	5.4%	3.8%
	女性	617	37.4%	47.2%	10.7%	35.5%	49.8%	41.5%	26.6%	2.3%	3.4%
	回答しない	19	31.6%	31.6%	10.5%	42.1%	15.8%	31.6%	31.6%	15.8%	10.5%
年齢	30歳未満	176	29.0%	53.4%	17.0%	35.8%	30.1%	39.8%	29.5%	4.5%	4.0%
	30歳代	221	32.1%	48.9%	11.8%	36.7%	38.0%	40.7%	31.2%	6.3%	3.6%
	40歳代	180	50.0%	45.6%	13.3%	30.0%	38.9%	38.9%	28.9%	4.4%	4.4%
	50歳代	186	39.8%	38.2%	15.1%	37.1%	50.5%	37.1%	24.7%	3.2%	1.6%
	60歳代	208	38.5%	31.3%	16.3%	31.3%	51.0%	47.1%	25.5%	2.9%	5.3%
70歳以上	224	44.6%	35.3%	16.1%	34.4%	56.3%	49.1%	15.6%	2.2%	3.6%	

性別でみると、「子どもの心の居場所となる家庭をつくるため、家族みんなが子育てに参加し、また、十分にコミュニケーションをとるようにする」は女性の方が 11.0 ポイント、「住民の連帯意識を高め、地域の教育力を高める」は男性の方が 9.1 ポイント高くなっている。

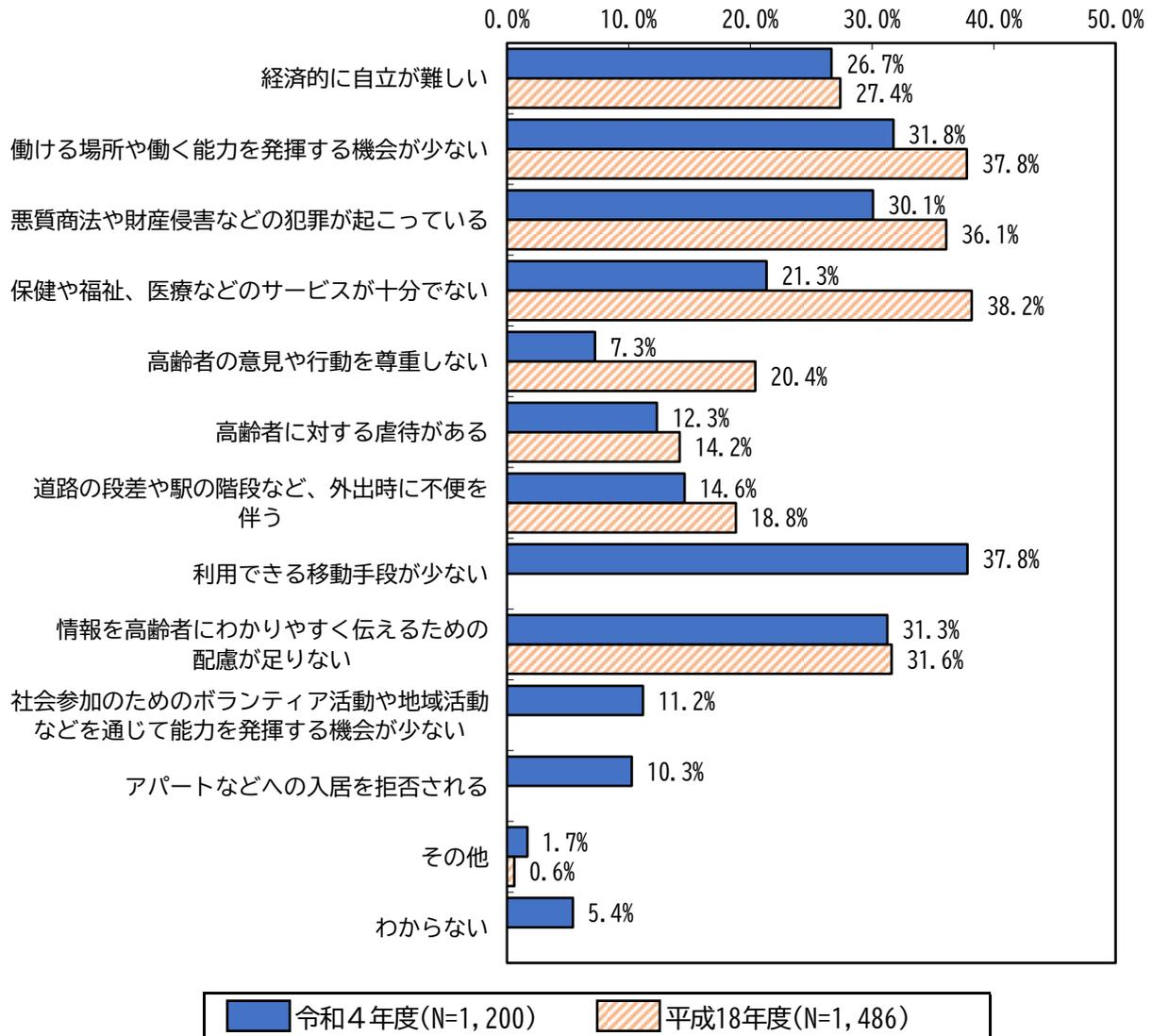
年齢別でみると、30 歳未満から 30 歳代は「子どもの心の居場所となる家庭をつくるため、家族みんなが子育てに参加し、また、十分にコミュニケーションをとるようにする」、40 歳代は「家庭において善悪の判断や正義感、思いやりや他人を助ける勇気などを身に付ける教育をおこなう」、50 歳代から 70 歳以上は「幼児期から、命の大切さや生きることの素晴らしさ、喜びなどをはぐくむ心の教育を推進する」が最も多くなっている。

## 5 高齢者の人権について

### (1) 高齢者に関することで、人権上問題があること

問 16 高齢者に関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

図 高齢者に関することで、人権上問題があること



高齢者に関することで、人権上問題があることについてみると、「利用できる移動手段が少ない」(37.8%)が最も多く、次いで「働ける場所や働く能力を発揮する機会が少ない」(31.8%)、「情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りない」(31.3%)となっている。

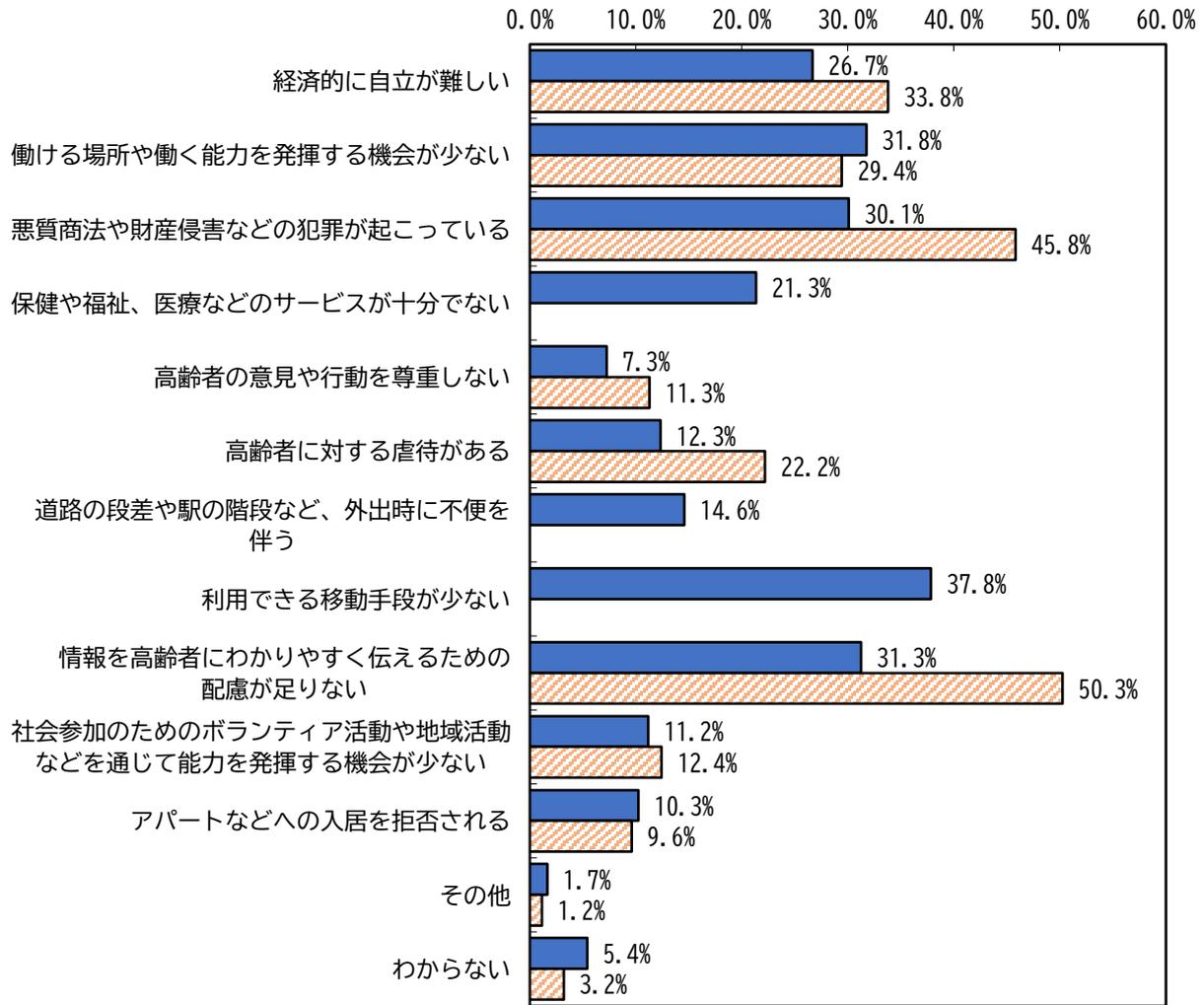
前回の調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「保健や福祉、医療などのサービスが十分でない」が16.9ポイント、「高齢者の意見や行動を尊重しない」が13.1ポイント低くなっている。

表 高齢者に関することで、人権上問題があること—性別・年齢別

		有効回答数	し経済的に自立が難	会能働 が力を 少ない 発揮す る機	こ害悪 つな質 てどの いの法 る犯や 罪財 が産 起侵	十な保 分での でない いサ一 ビ ス が	動高 を尊 者 の 意 見 や 行	待高 が ある に 対 する 虐	に階道 不便 を 伴 う 外 出 時 の
全体		1,200	26.7%	31.8%	30.1%	21.3%	7.3%	12.3%	14.6%
性別	男性	556	26.6%	31.3%	30.4%	21.9%	7.0%	10.6%	10.6%
	女性	617	26.4%	32.1%	30.1%	21.4%	7.8%	14.1%	18.3%
	回答しない	19	31.6%	42.1%	15.8%	5.3%	0.0%	5.3%	5.3%
年齢	30歳未満	176	27.3%	30.7%	27.3%	20.5%	9.1%	19.9%	12.5%
	30歳代	221	24.4%	29.4%	29.9%	19.5%	4.1%	16.3%	17.6%
	40歳代	180	26.7%	40.6%	31.7%	20.6%	3.9%	11.7%	11.1%
	50歳代	186	30.1%	30.1%	32.3%	20.4%	9.7%	10.2%	12.9%
	60歳代	208	25.5%	38.9%	28.4%	25.0%	5.8%	7.7%	15.9%
	70歳以上	224	26.3%	23.2%	30.8%	21.9%	11.2%	9.4%	15.6%
		有効回答数	少利 ない で き る 移 動 手 段 が	慮や情 がす報 足くを り伝高 ないえ る者 たに めわ のか 配り	発動ン社 揮なテ会 すどイ参 るをア加 機通活の 会じ動た がてやめ 少能地の な力域ポ いを活ラ	をア 拒パ 否一 さト され る な ど へ の 入 居	そ の 他	わ か ら な い	
全体		1,200	37.8%	31.3%	11.2%	10.3%	1.7%	5.4%	
性別	男性	556	34.0%	28.4%	12.6%	9.2%	2.5%	6.5%	
	女性	617	41.5%	33.9%	9.9%	11.7%	0.8%	4.1%	
	回答しない	19	36.8%	31.6%	10.5%	0.0%	0.0%	15.8%	
年齢	30歳未満	176	24.4%	29.5%	9.7%	4.5%	1.7%	10.2%	
	30歳代	221	32.6%	27.1%	9.5%	13.1%	3.2%	8.6%	
	40歳代	180	42.8%	29.4%	13.3%	10.0%	1.1%	3.3%	
	50歳代	186	46.2%	31.7%	10.2%	10.8%	2.2%	3.2%	
	60歳代	208	38.5%	32.2%	10.6%	12.5%	1.4%	4.8%	
	70歳以上	224	42.0%	36.6%	13.8%	9.8%	0.4%	2.7%	

性別でみると、「道路の段差や駅の階段など、外出時に不便を伴う」は女性の方が 7.7 ポイント高くなっている。  
 年齢別でみると、30 歳未満と 60 歳代は「働ける場所や働く能力を発揮する機会が少ない」、30 歳代から 50 歳代と 70 歳以上は「利用できる移動手段が少ない」が最も多くなっている。

図 高齢者に関することで、人権上問題があること—滋賀県との比較



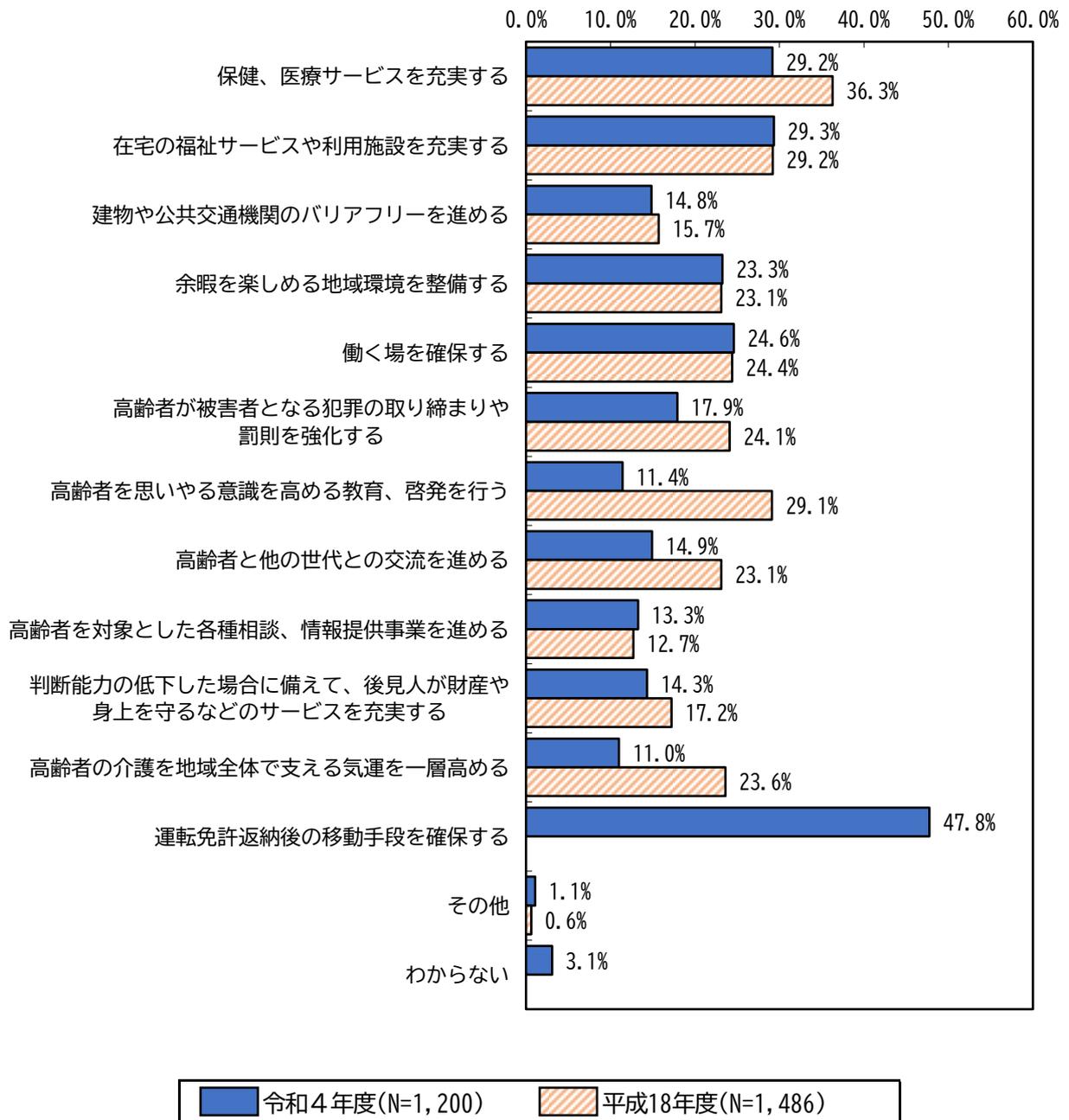
■ 彦根市 (N=1,200)      ■ R3滋賀県調査 (N=1,560)

R 3 滋賀県調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「悪質商法や財産侵害などの犯罪が起こっている」が 15.7 ポイント、「情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りない」が 19.0 ポイント低くなっている。

(2) 高齢者の人権が尊重されるために必要なこと

問 17 高齢者の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

図 高齢者の人権が尊重されるために必要なこと



高齢者の人権が尊重されるために必要なことについてみると、「運転免許返納後の移動手段を確保する」(47.8%)が最も多く、次いで「在宅の福祉サービスや利用施設を充実する」(29.3%)、「保健、医療サービスを充実する」(29.2%)となっている。

前回の調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「高齢者を思いやる意識を高める教育、啓発を行う」が17.7ポイント、「高齢者の介護を地域全体で支える気運を一層高める」が12.6ポイント低くなっている。

表 高齢者の人権が尊重されるために必要なこと一性別・年齢別

		有効回答数	保健、医療サービスを充実する	在宅の福祉サービスや利用施設を充実する	建物や公共交通機関のバリアフリーを進める	地域環境を整備する	余暇を楽しむ	働く場を確保する	高齢者が被害者となる犯罪の取り締まりや罰則強化する	高齢者を思いやる教育、啓発を行う
全体		1,200	29.2%	29.3%	14.8%	23.3%	24.6%	17.9%	11.4%	
性別	男性	556	30.9%	25.4%	14.6%	26.1%	24.8%	18.5%	11.5%	
	女性	617	27.7%	33.7%	15.6%	21.1%	24.5%	17.7%	11.0%	
	回答しない	19	26.3%	5.3%	5.3%	10.5%	31.6%	5.3%	15.8%	
年齢	30歳未満	176	30.7%	28.4%	20.5%	26.7%	23.3%	14.8%	8.5%	
	30歳代	221	23.5%	24.9%	19.9%	22.2%	25.8%	14.0%	5.0%	
	40歳代	180	24.4%	22.8%	14.4%	23.3%	37.8%	16.1%	13.3%	
	50歳代	186	27.4%	31.2%	10.8%	20.4%	27.4%	20.4%	11.8%	
	60歳代	208	33.7%	34.6%	15.9%	18.8%	23.6%	17.3%	13.5%	
	70歳以上	224	34.8%	33.9%	8.5%	28.6%	12.9%	23.7%	16.1%	
		有効回答数	高齢者との世代との交流を進める	高齢者、対象とした各相談者、情報提供業務を進める	財産や資産を相続するなどのリスクを減らす	判断能力の低下した高齢者の介護を地域全体で支える	高齢者の介護を地域全体で支える	運転免許返納後の移動手段を確保する	その他	わからない
全体		1,200	14.9%	13.3%	14.3%	11.0%	47.8%	1.1%	3.1%	
性別	男性	556	13.3%	12.1%	13.5%	8.6%	43.7%	1.8%	4.1%	
	女性	617	16.5%	14.4%	15.2%	13.3%	51.2%	0.3%	1.9%	
	回答しない	19	5.3%	10.5%	15.8%	5.3%	57.9%	5.3%	10.5%	
年齢	30歳未満	176	15.9%	13.1%	14.2%	5.1%	38.6%	0.0%	4.5%	
	30歳代	221	17.2%	13.6%	23.5%	6.8%	45.2%	1.4%	4.5%	
	40歳代	180	15.6%	12.8%	16.7%	8.3%	47.8%	1.7%	2.8%	
	50歳代	186	17.7%	12.4%	14.0%	13.4%	53.2%	0.5%	2.2%	
	60歳代	208	11.5%	15.4%	9.6%	13.5%	51.4%	2.4%	1.9%	
	70歳以上	224	12.1%	12.1%	8.5%	17.4%	49.6%	0.4%	2.7%	

性別で見ると、「在宅の福祉サービスや利用施設を充実する」は女性の方が 8.3 ポイント高く、「余暇を楽しむ地域環境を整備する」は男性の方が 5.0 ポイント高くなっている。

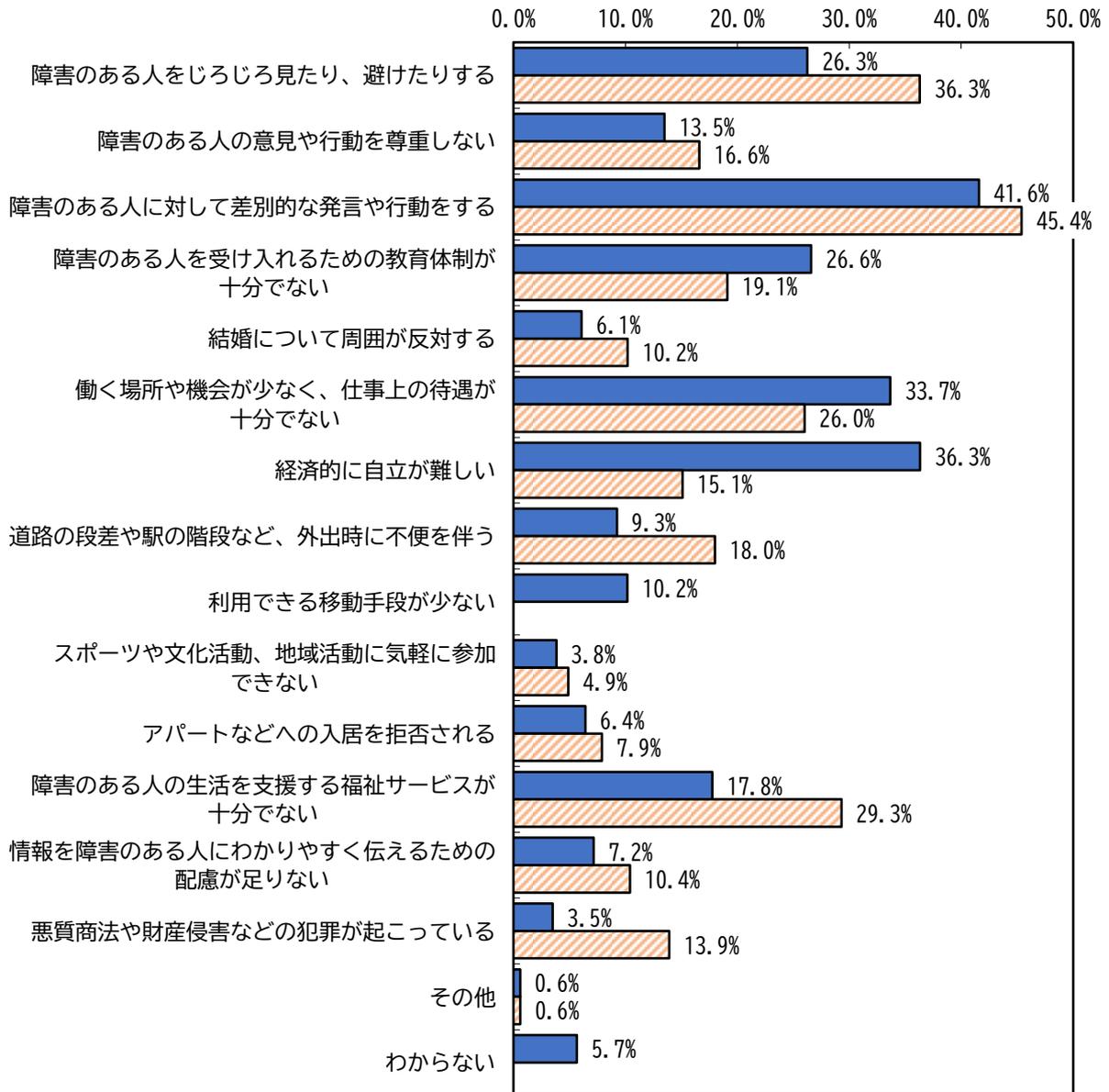
年齢別で見ると、すべての年代で「運転免許返納後の移動手段を確保する」が最も多くなっている。

## 6 障害者の人権について

### (1) 障害のある人に関することで、人権上問題があること

問 18 障害のある人に関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

図 障害のある人に関することで、人権上問題があること



■ 令和4年度(N=1,200)    ■ 平成18年度(N=1,486)

障害のある人に関することで、人権上問題があることについてみると、「障害のある人に対して差別的な発言や行動をする」（41.6%）が最も多く、次いで「経済的に自立が難しい」（36.3%）、「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でない」（33.7%）となっている。

前回の調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「経済的に自立が難しい」が21.2ポイント高く、「障害のある人をじろじろ見たり、避けたりする」が10.0ポイント、「障害のある人の生活を支援する福祉サービスが十分でない」が11.5ポイント、「悪質商法や財産侵害などの犯罪が起こっている」が10.4ポイント低くなっている。

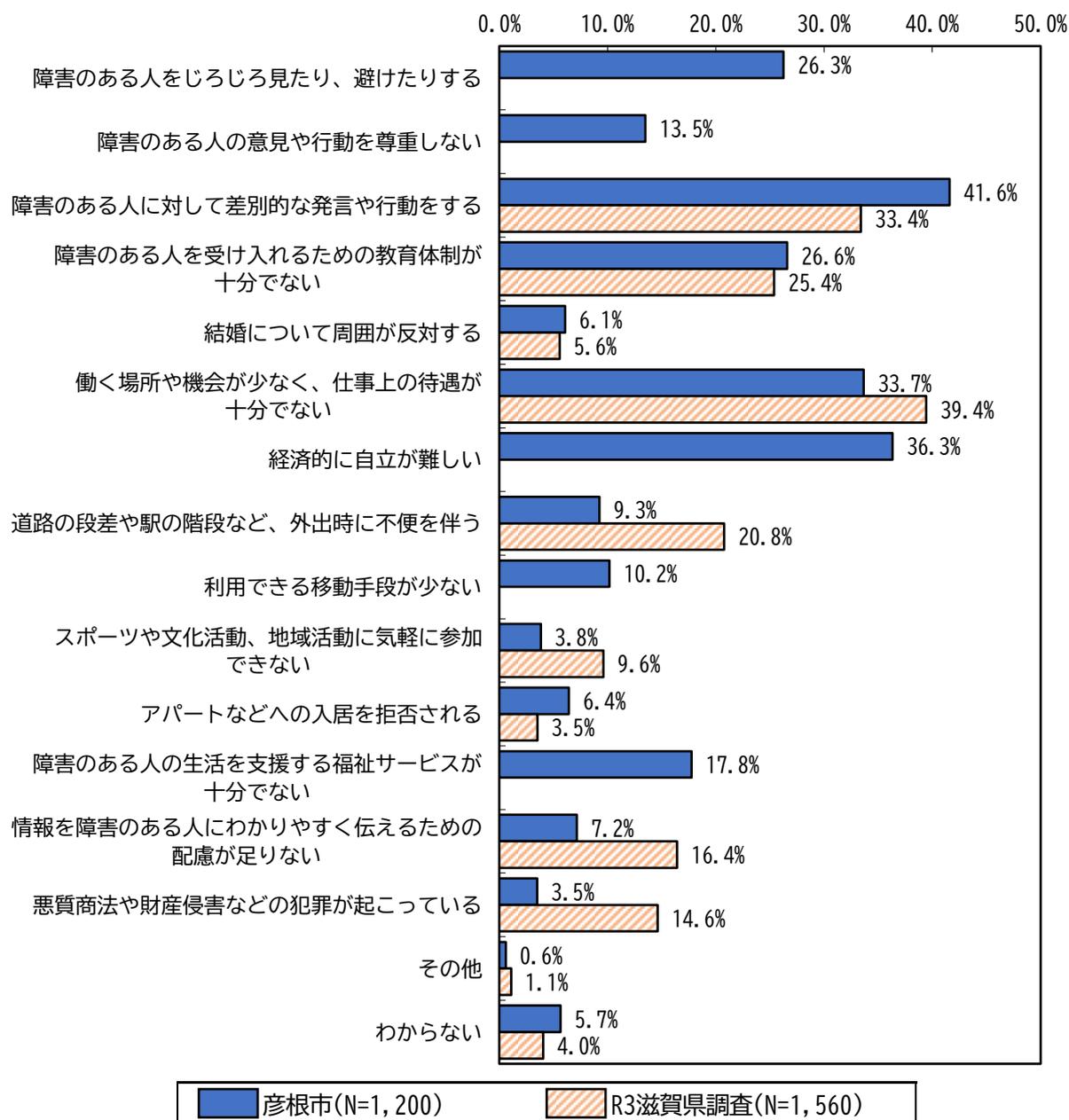
表 障害のある人に関することで、人権上問題があること一性別・年齢別

		有効回答数	りじ障 すろ害 る見の たあ りる 、人 避を けじ たろ	や障 行害 動の をある 尊人 し の意 見	動て障 を差書 す別の ある なる 発人 言に や対 行し	制入障 がれ害 十るの 分たある でめる ない人 い教を 育受 体け	反結 対婚 すに るつ いて 周囲 が	がな働 十く、 分、場 で所 ない事 い上 の機 待会 が少	い経 済的 に自 立が 難し	便段道 をな路 伴どの う、段 外差 出や 時に の不 階
全体		1,200	26.3%	13.5%	41.6%	26.6%	6.1%	33.7%	36.3%	9.3%
性別	男性	556	26.6%	15.5%	42.1%	26.6%	6.5%	31.5%	36.5%	7.0%
	女性	617	26.4%	11.7%	41.5%	26.4%	5.7%	35.8%	36.5%	11.3%
	回答しない	19	5.3%	15.8%	31.6%	31.6%	5.3%	31.6%	26.3%	10.5%
年齢	30歳未満	176	32.4%	21.0%	56.3%	21.6%	8.0%	30.7%	29.0%	8.0%
	30歳代	221	28.1%	12.2%	49.8%	22.6%	6.8%	31.2%	39.8%	5.4%
	40歳代	180	25.6%	16.7%	50.6%	27.8%	6.1%	29.4%	33.9%	12.2%
	50歳代	186	19.4%	12.4%	34.4%	34.4%	5.4%	34.9%	44.6%	9.7%
	60歳代	208	23.6%	11.1%	29.8%	28.4%	5.8%	39.9%	37.5%	11.1%
	70歳以上	224	28.6%	9.4%	31.3%	25.0%	4.9%	35.3%	33.0%	9.8%
		有効回答数	少利 ない で きる 移 動 手 段 が	で地ス き域ポ ない活ー い動ツ にや文 気軽化 に活 動、	をア 拒パ 否ー さト なれ るど への 入 居	が支障 十援害 分すの でるあ ない福る い社人 ー生 ビ活 スを	めわ情 のか報 配りを 慮や障 がす害 りくの り伝ある ない人 たに	るど悪 の質 犯商 罪法 がや 起財 こ産 つ侵 て害 いな	そ の 他	わ か ら な い
全体		1,200	10.2%	3.8%	6.4%	17.8%	7.2%	3.5%	0.6%	5.7%
性別	男性	556	9.4%	4.9%	6.7%	16.9%	6.7%	2.2%	0.9%	5.9%
	女性	617	10.7%	3.1%	6.5%	19.0%	7.5%	4.7%	0.3%	5.2%
	回答しない	19	15.8%	0.0%	0.0%	10.5%	10.5%	5.3%	0.0%	10.5%
年齢	30歳未満	176	5.1%	7.4%	5.1%	12.5%	7.4%	2.3%	0.6%	6.3%
	30歳代	221	7.2%	1.8%	8.6%	12.2%	6.3%	5.0%	1.4%	6.8%
	40歳代	180	10.0%	1.7%	7.8%	13.3%	3.3%	2.8%	1.1%	5.0%
	50歳代	186	8.1%	2.7%	6.5%	17.7%	10.2%	1.6%	0.0%	4.3%
	60歳代	208	13.0%	4.3%	6.3%	26.0%	4.3%	3.8%	0.5%	5.3%
	70歳以上	224	16.1%	5.4%	4.5%	23.7%	10.7%	4.9%	0.0%	6.3%

性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別でみると、30歳未満から40歳代は「障害のある人に対して差別的な発言や行動をする」、50歳代は「経済的に自立が難しい」、60歳代から70歳以上は「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でない」が最も多くなっている。

図 障害のある人に関することで、人権上問題があること—滋賀県との比較

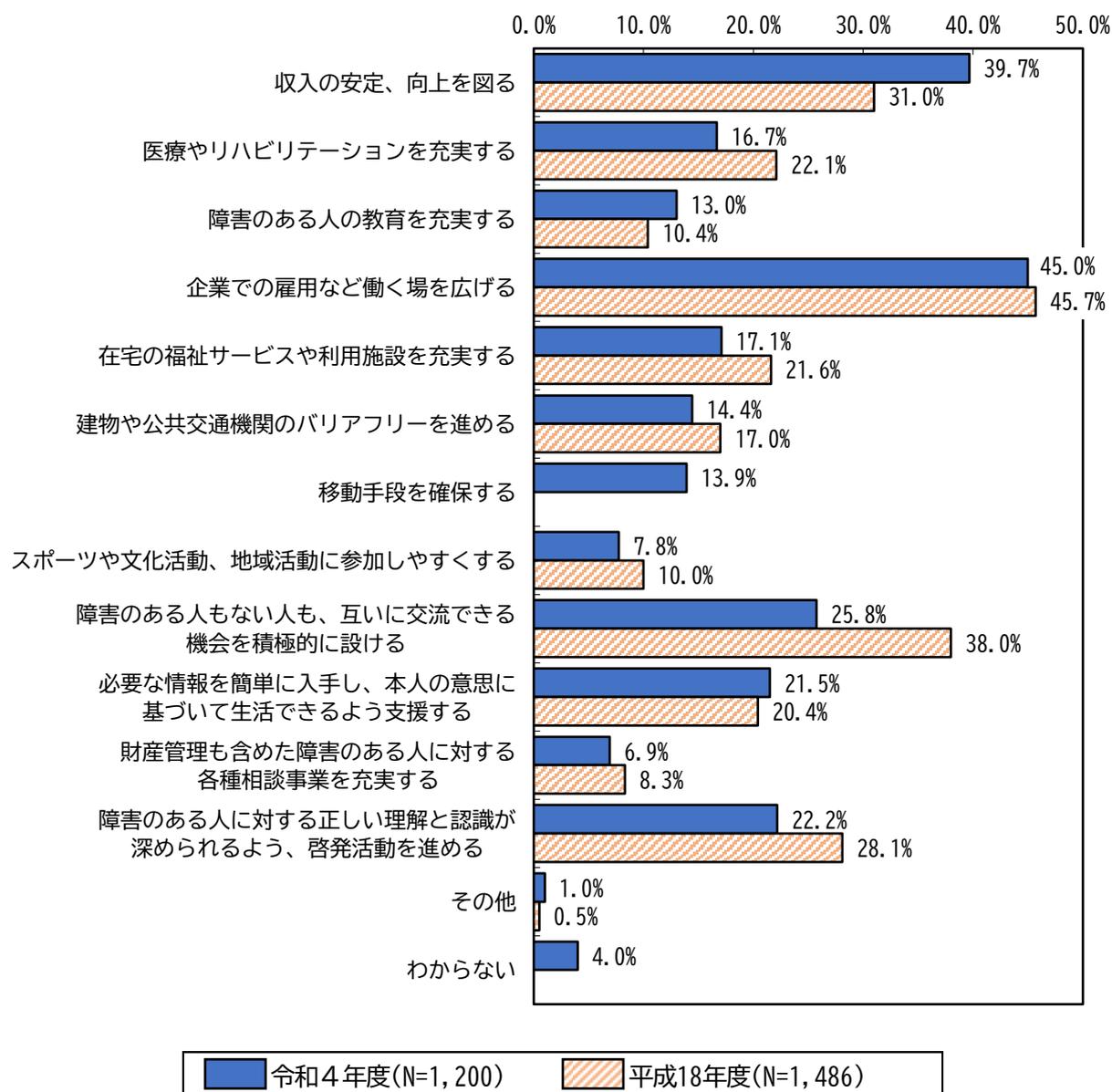


R 3 滋賀県調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「障害のある人に対して差別的な発言や行動をする」が 8.2 ポイント高く、「道路の段差や駅の階段など、外出時に不便を伴う」が 11.5 ポイント、「悪質商法や財産侵害などの犯罪が起こっている」が 11.1 ポイント、「情報を障害のある人にわかりやすく伝えるための配慮が足りない」が 9.2 ポイント低くなっている。

(2) 障害のある人の人権が尊重されるために必要なこと

問 19 障害のある人の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

図 障害のある人の人権が尊重されるために必要なこと



障害のある人の人権が尊重されるために必要なことについてみると、「企業での雇用など働く場を広げる」(45.0%)が最も多く、次いで「収入の安定、向上を図る」(39.7%)、「障害のある人もない人も、互いに交流できる機会を積極的に設ける」(25.8%)となっている。

前回の調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「障害のある人もない人も、互いに交流できる機会を積極的に設ける」が12.2ポイント低くなっている。

表 障害のある人の人権が尊重されるために必要なこと一性別・年齢別

		有効回答数	収入の安定、向上を図る	医療やリハビリを充実させる	障害のある人の教育を充実させる	企業での雇用を広げる	在宅の福祉施設を充実させる	建物や公共交通機関を進める	移動手段を確保
全体		1,200	39.7%	16.7%	13.0%	45.0%	17.1%	14.4%	13.9%
性別	男性	556	38.5%	16.0%	13.7%	43.7%	16.0%	14.6%	13.7%
	女性	617	41.2%	17.3%	12.3%	46.5%	18.5%	14.6%	14.3%
	回答しない	19	21.1%	10.5%	15.8%	31.6%	10.5%	10.5%	10.5%
年齢	30歳未満	176	34.1%	14.2%	18.2%	39.2%	14.2%	14.8%	8.0%
	30歳代	221	42.5%	16.7%	18.1%	44.3%	11.8%	12.2%	10.0%
	40歳代	180	37.2%	11.7%	16.1%	48.9%	10.0%	14.4%	15.0%
	50歳代	186	41.9%	16.7%	11.3%	41.9%	19.4%	15.1%	13.4%
	60歳代	208	43.3%	18.3%	6.3%	47.6%	24.5%	18.3%	17.3%
	70歳以上	224	38.4%	21.0%	9.4%	47.3%	21.9%	12.5%	18.8%
		有効回答数	移動や地域活動に参加	社会的交流	障害のある人の相互支援	必要な情報提供	財産管理を含めた啓発活動を進める	その他	わからない
全体		1,200	7.8%	25.8%	21.5%	6.9%	22.2%	1.0%	4.0%
性別	男性	556	9.9%	23.0%	18.2%	4.7%	23.6%	1.1%	5.2%
	女性	617	6.0%	28.2%	24.5%	8.8%	21.1%	0.8%	2.8%
	回答しない	19	5.3%	15.8%	31.6%	15.8%	15.8%	5.3%	10.5%
年齢	30歳未満	176	6.3%	31.3%	18.2%	5.7%	27.3%	0.6%	5.7%
	30歳代	221	5.9%	23.5%	22.2%	9.0%	18.1%	2.7%	5.9%
	40歳代	180	5.0%	27.2%	24.4%	6.1%	28.3%	1.1%	3.9%
	50歳代	186	8.1%	26.9%	25.8%	5.9%	20.4%	1.1%	2.7%
	60歳代	208	8.2%	24.0%	22.6%	6.7%	17.3%	0.0%	2.4%
	70歳以上	224	12.5%	22.3%	17.0%	7.6%	22.8%	0.4%	3.6%

性別でみると、「必要な情報を簡単に入手し、本人の意思に基づいて生活できるよう支援する」は女性の方が6.3ポイント高くなっている。

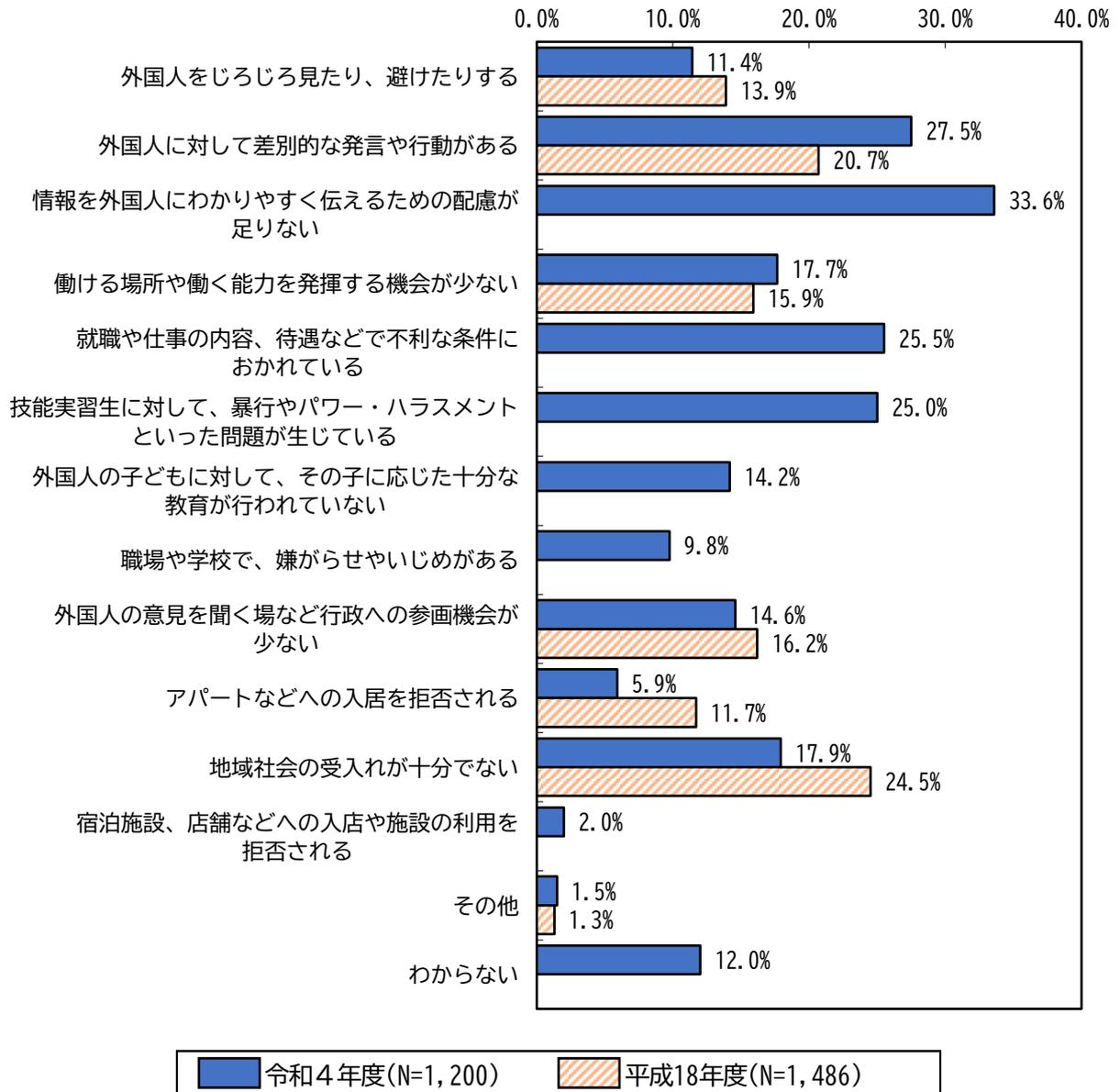
年齢別でみると、すべての年代で「企業での雇用など働く場を広げる」が最も高く、50歳代は同率で「収入の安定、向上を図る」も最も多くなっている。

## 7 外国人の人権について

### (1) 外国人に関することで、人権上問題があること

問 20 外国人に関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

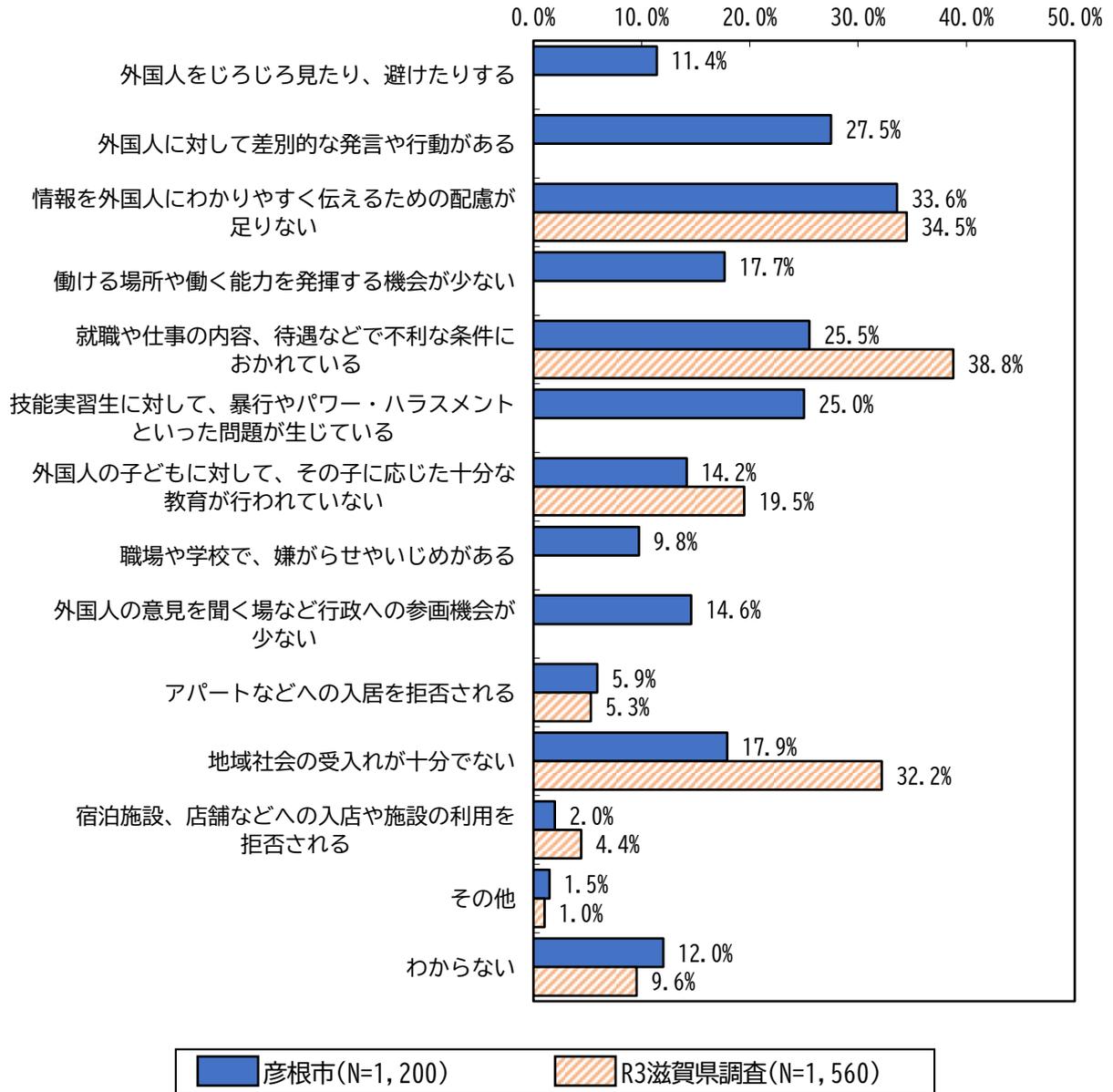
図 外国人に関することで、人権上問題があること



外国人に関することで、人権上問題があることについてみると、「情報を外国人にわかりやすく伝えるための配慮が足りない」(33.6%)が最も多く、次いで「外国人に対して差別的な発言や行動がある」(27.5%)、「就職や仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれている」(25.5%)となっている。

前回の調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「外国人に対して差別的な発言や行動がある」が6.8ポイント高くなり、「アパートなどへの入居を拒否される」が5.8ポイント、「地域社会の受け入れが十分でない」が6.6ポイント低くなっている。

図 外国人に関することで、人権上問題があること—滋賀県との比較



R 3 滋賀県調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「地域社会の受け入れが十分でない」が 14.3 ポイント、「就職や仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること」が 13.3 ポイント低くなっている。

表 外国人に関することで、人権上問題があること一性別・年齢別

		有効回答数	外国人を避けたりする見	外国人に対する言動が差別	外国人に伝えるための配慮が足りない	外国人の働く場や機会が少ない						
全体		1,200	11.4%	27.5%	33.6%	17.7%	25.5%	25.0%	14.2%			
性別	男性	556	11.5%	26.8%	35.4%	16.4%	25.4%	24.5%	14.7%			
	女性	617	11.5%	28.0%	32.7%	19.4%	25.6%	25.4%	13.6%			
	回答しない	19	10.5%	31.6%	21.1%	5.3%	15.8%	26.3%	15.8%			
年齢	30歳未満	176	14.2%	39.2%	29.0%	12.5%	30.1%	29.5%	14.2%			
	30歳代	221	14.0%	35.3%	34.4%	15.8%	19.0%	23.5%	16.7%			
	40歳代	180	8.9%	30.6%	31.7%	13.3%	22.2%	20.0%	14.4%			
	50歳代	186	8.1%	22.0%	34.4%	19.4%	25.3%	22.0%	18.3%			
	60歳代	208	10.1%	23.1%	35.6%	23.1%	28.4%	29.3%	14.4%			
	70歳以上	224	12.9%	17.0%	36.2%	21.0%	28.1%	25.4%	7.6%			
		有効回答数	あがる職場や学校で、嫌	参画場などの意見の	入居を拒否される	が地域社会で受け入れ	るの泊入店や店舗な	その他	わからない			
全体		1,200	9.8%	14.6%	5.9%	17.9%	2.0%	1.5%	12.0%			
性別	男性	556	9.7%	16.2%	6.3%	19.2%	1.6%	1.8%	10.6%			
	女性	617	9.7%	12.8%	5.8%	17.3%	2.3%	1.3%	13.0%			
	回答しない	19	10.5%	21.1%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	21.1%			
年齢	30歳未満	176	15.3%	9.1%	3.4%	13.6%	1.7%	1.7%	9.7%			
	30歳代	221	13.1%	10.9%	9.0%	15.4%	2.7%	0.9%	10.0%			
	40歳代	180	10.6%	12.8%	7.8%	20.6%	1.1%	1.1%	15.0%			
	50歳代	186	8.1%	15.6%	5.9%	18.3%	2.2%	2.2%	13.4%			
	60歳代	208	8.2%	16.8%	5.8%	21.2%	1.9%	2.4%	8.7%			
	70歳以上	224	4.5%	21.0%	3.6%	18.3%	2.2%	0.9%	15.6%			

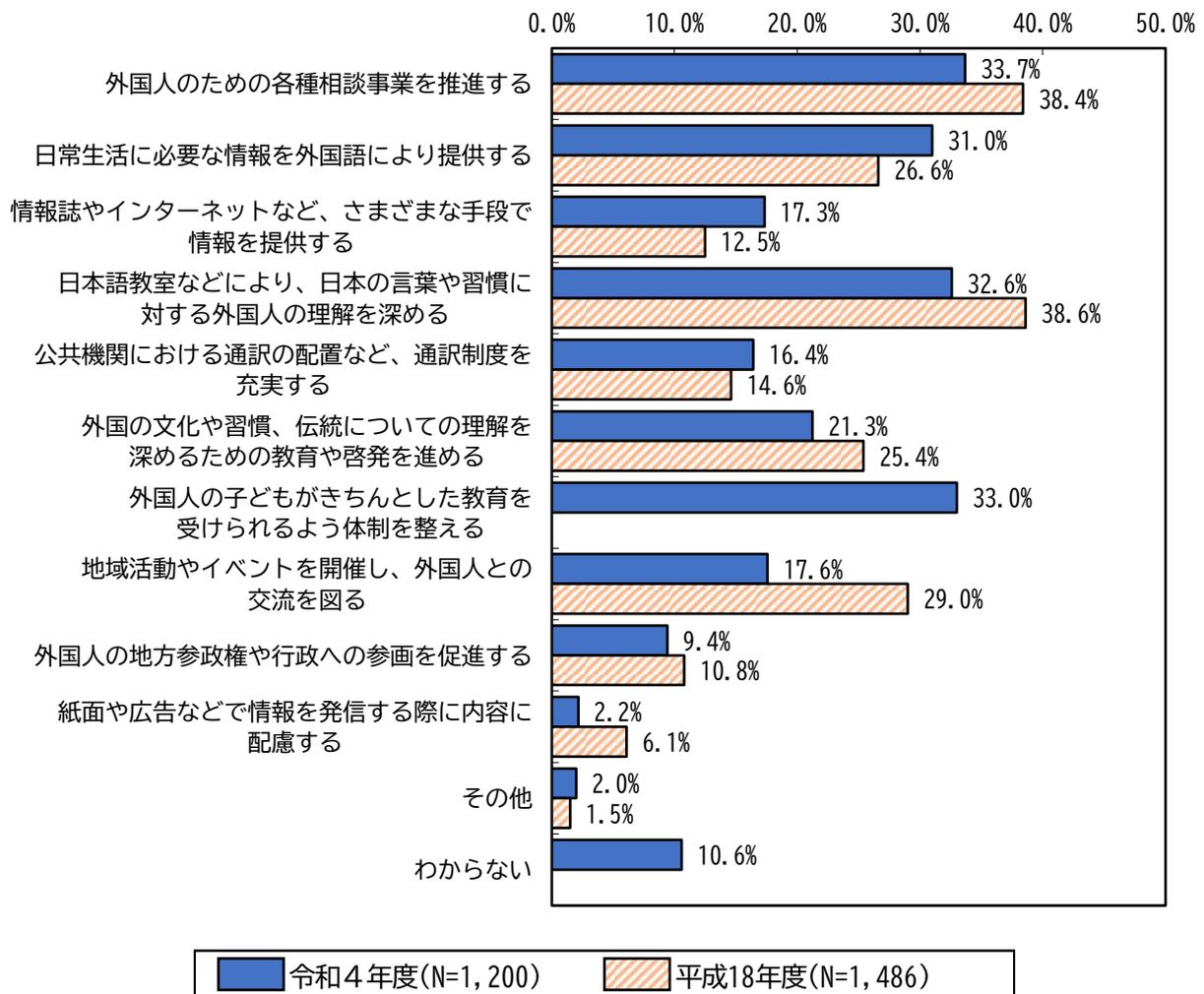
性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別でみると、30歳未満から30歳代は「外国人に対して差別的な発言や行動がある」、40歳代から70歳以上は「情報を外国人にわかりやすく伝えるための配慮が足りない」が最も多くなっている。

(2) 外国人の人権が尊重されるために必要なこと

問 21 外国人の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

図 外国人の人権が尊重されるために必要なこと



外国人の人権が尊重されるために必要なことについてみると、「外国人のための各種相談事業を推進する」(33.7%) が最も多く、次いで「外国人の子どもがきちんとした教育を受けられるよう体制を整える」(33.0%)、「日本語教室などにより、日本の言葉や習慣に対する外国人の理解を深める」(32.6%) となっている。

前回の調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「地域活動やイベントを開催し、外国人との交流を図る」が 11.4 ポイント低くなっている。

表 外国人の人権が尊重されるために必要なこと一性別・年齢別

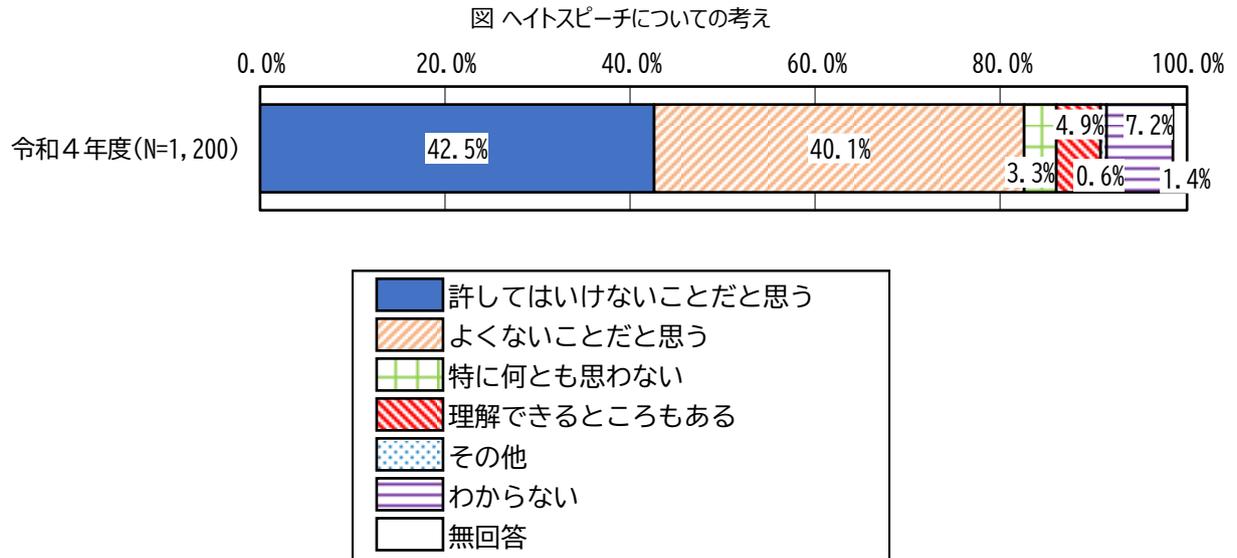
		有効回答数	外国人の相談事業を推進する各種	日常生活に必要情報提供	日本語教室など外国人の習	公共機関における通	外国の文化や習慣、	外国人の子どもの
全体		1,200	33.7%	31.0%	17.3%	32.6%	21.3%	33.0%
性別	男性	556	32.4%	29.3%	17.6%	34.4%	22.3%	30.8%
	女性	617	34.8%	32.7%	17.8%	31.4%	19.8%	35.3%
	回答しない	19	26.3%	31.6%	0.0%	15.8%	31.6%	26.3%
年齢	30歳未満	176	29.0%	35.8%	14.8%	27.3%	20.5%	26.1%
	30歳代	221	28.1%	26.7%	15.8%	33.9%	21.7%	31.2%
	40歳代	180	30.6%	30.6%	18.3%	28.3%	23.9%	31.1%
	50歳代	186	37.6%	34.9%	19.4%	32.3%	23.1%	38.7%
	60歳代	208	37.0%	28.8%	21.2%	33.7%	18.3%	34.6%
	70歳以上	224	38.8%	30.8%	15.2%	37.5%	20.5%	35.3%
		有効回答数	地域活性化、外国人の参画	外国人の参画	紙面や発信など	その他	わからない	
全体		1,200	17.6%	9.4%	2.2%	2.0%	10.6%	
性別	男性	556	19.8%	10.4%	2.2%	3.1%	11.3%	
	女性	617	16.0%	8.4%	2.1%	1.0%	9.4%	
	回答しない	19	5.3%	15.8%	0.0%	5.3%	26.3%	
年齢	30歳未満	176	17.6%	8.5%	1.7%	2.8%	11.9%	
	30歳代	221	17.2%	7.2%	0.9%	4.1%	11.3%	
	40歳代	180	21.1%	10.6%	1.1%	1.7%	14.4%	
	50歳代	186	11.3%	9.7%	2.7%	0.5%	6.5%	
	60歳代	208	17.8%	11.1%	2.4%	2.9%	8.2%	
	70歳以上	224	20.1%	9.8%	4.0%	0.0%	11.6%	

性別でみると、「公共機関における通訳の配置など、通訳制度を充実する」は女性の方が6.7ポイント高くなっている。

年齢別でみると、30歳未満は「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」、30歳代は「日本語教室などにより、日本の言葉や習慣に対する外国人の理解を深める」、40歳代から50歳代は「外国人の子どもがきちんとした教育を受けられるよう体制を整える」、60歳代から70歳以上は「外国人のための各種相談事業を推進する」が最も多くなっている。

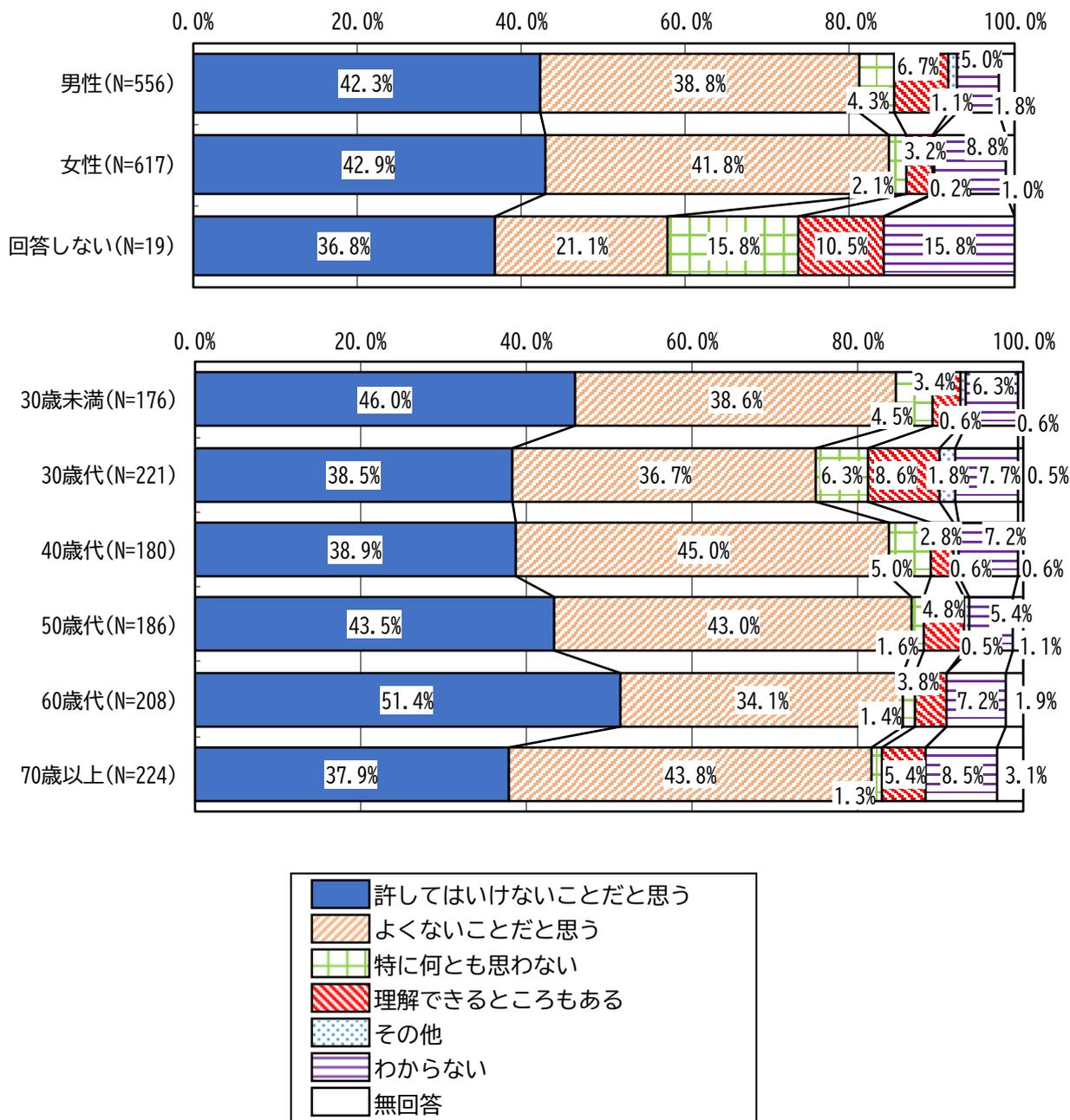
(3) ヘイトスピーチについての考え

問 22 あなたは、ヘイトスピーチについてどう思いますか。あなたの思いに最も近いものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)



ヘイトスピーチについてみると、「許してはいけないことだと思う」(42.5%) が最も多く、次いで「よくないことだと思う」(40.1%) となっている。

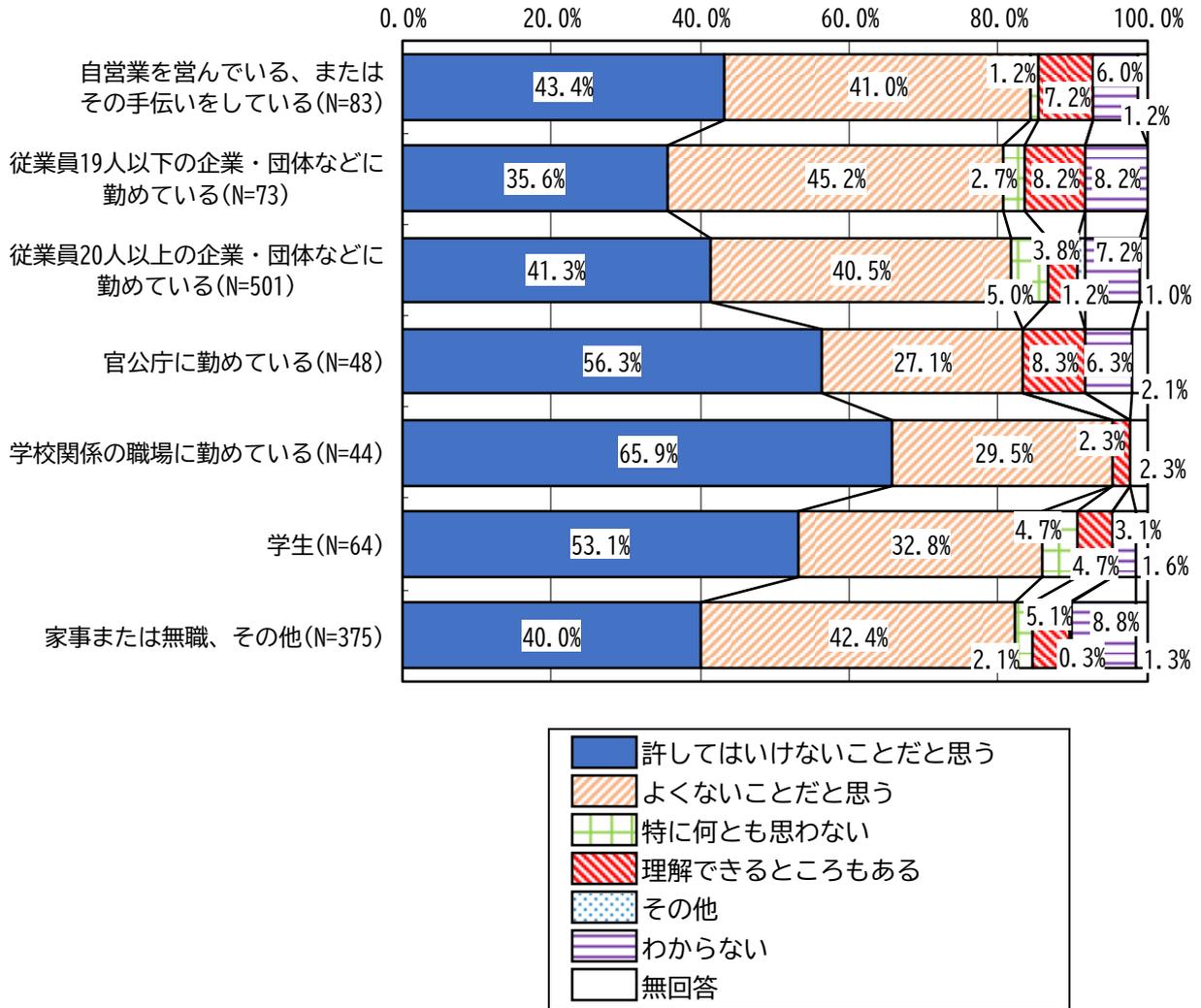
図 ヘイトスピーチについての考え—性別・年齢別



性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

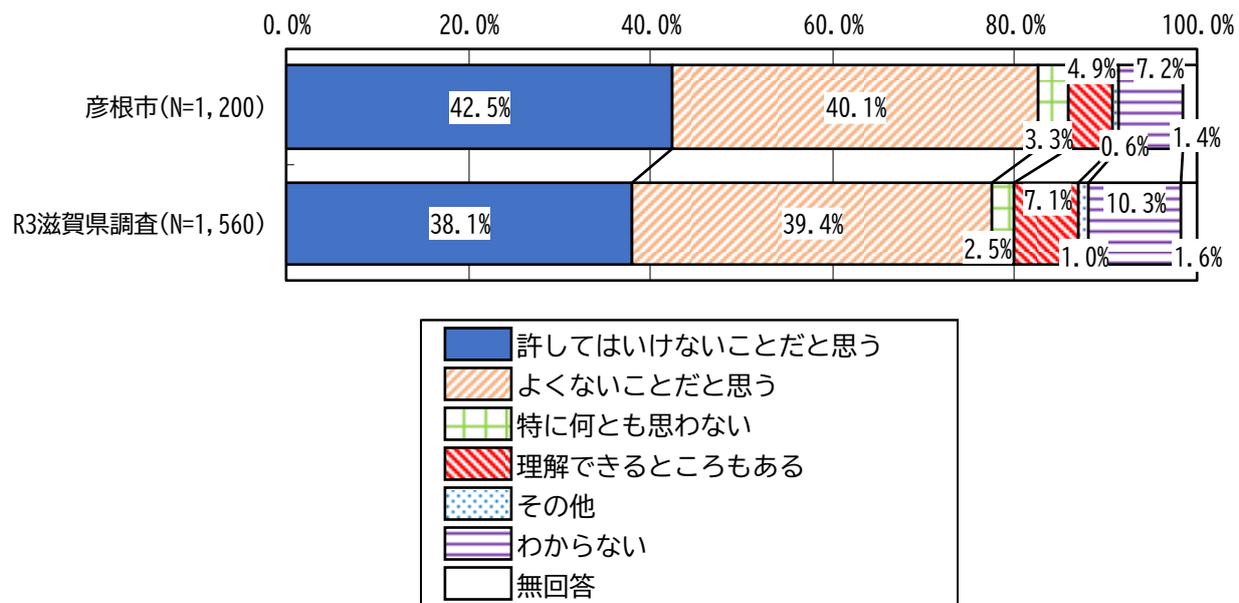
年齢別でみると、「許してはいけないことだと思う」と「よくないことだと思う」を合わせた「よくないと思う」はすべての年代で7割から8割となっている。

図 ヘイトスピーチについての考え—職業別



職業別でみると、“よくないと思う”は学校関係の職場に勤めているが95.4%と最も多く、従業員19人以下の企業・団体などに勤めているが80.8%と最も少なくなっている。

図 ヘイトスピーチについての考え—滋賀県との比較



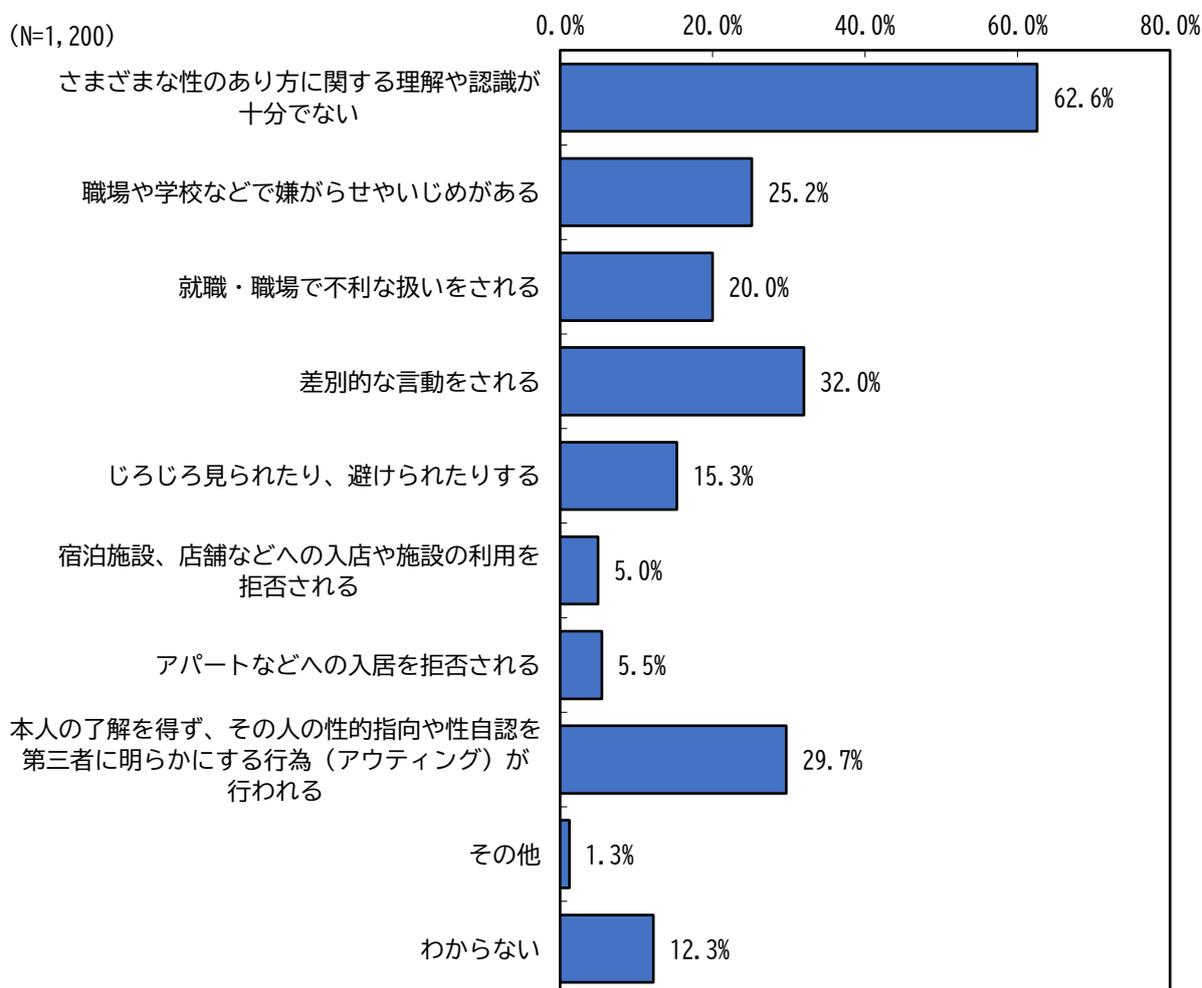
R 3 滋賀県調査結果と比べると、大きな差異は見られない。

## 8 L G B Tに関する人権問題について

### (1) L G B Tの方に関することで、人権上問題があること

問 23 L G B Tの方に関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

図 L G B Tの方に関することで、人権上問題があること



L G B Tの方に関することで、人権上問題があることについてみると、「さまざまな性のあり方に関する理解や認識が十分でない」(62.6%)が最も多く、次いで「差別的な言動をされる」(32.0%)、「本人の了解を得ず、その人の性的指向や性自認を第三者に明らかにする行為(アウトティング)が行われる」(29.7%)となっている。

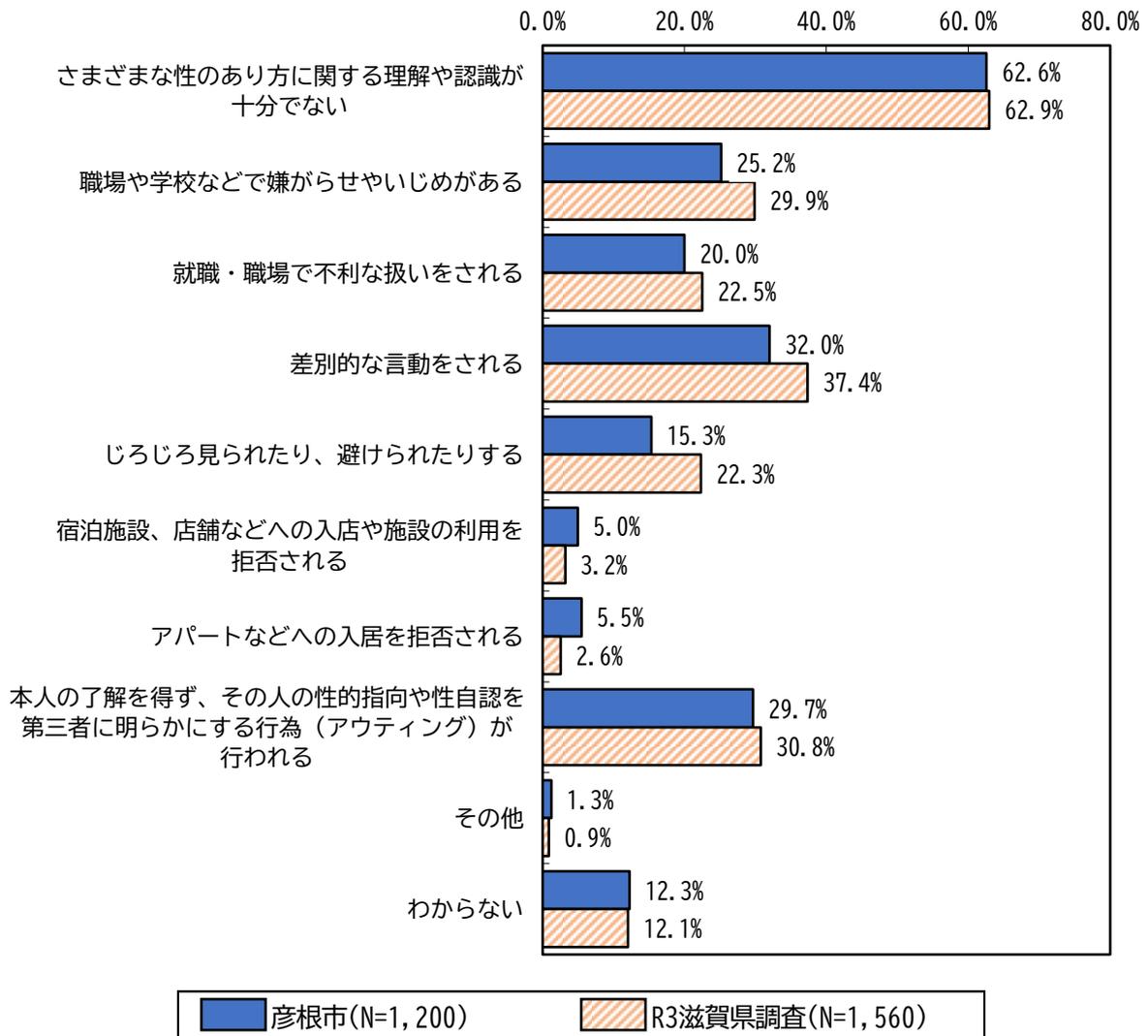
表 L G B Tの方に関することで、人権上問題があること—性別・年齢別

	有効回答数	さまざまな性のあり方に関する理解や認識が十分でない	職場や学校などで嫌がらせやいじめがある	就職・職場で不利な扱いをされる	差別的な言動をされる	すじろじろ見られたり、避けられたりする	宿泊施設、店舗などへの入店や施設の利用を拒否される	アパートなどへの入居を拒否される	本人の了解を得ず、その人の性的指向や性自認を第三者に明らかにする行為（アウティング）が行われる	その他	わからない	
全体	1,200	62.6%	25.2%	20.0%	32.0%	15.3%	5.0%	5.5%	29.7%	1.3%	12.3%	
性別	男性	556	60.3%	26.4%	17.3%	32.7%	17.3%	4.3%	5.4%	27.9%	1.3%	13.5%
	女性	617	65.2%	24.3%	22.5%	31.6%	13.8%	5.5%	5.3%	31.3%	1.0%	11.2%
	回答しない	19	47.4%	21.1%	26.3%	26.3%	15.8%	10.5%	15.8%	26.3%	10.5%	10.5%
年齢	30歳未満	176	60.2%	27.8%	23.9%	38.6%	18.8%	4.5%	4.5%	29.0%	1.1%	10.2%
	30歳代	221	61.1%	35.7%	17.2%	35.3%	14.5%	7.7%	5.9%	31.7%	2.3%	10.0%
	40歳代	180	64.4%	23.3%	17.2%	33.3%	13.9%	3.9%	5.0%	33.3%	1.1%	9.4%
	50歳代	186	66.7%	24.7%	16.1%	30.1%	12.4%	2.2%	2.7%	31.2%	1.1%	11.3%
	60歳代	208	66.3%	25.0%	25.5%	26.4%	16.3%	7.2%	8.2%	30.8%	1.4%	10.6%
70歳以上	224	57.6%	14.7%	20.5%	29.5%	16.5%	4.0%	6.3%	22.8%	0.4%	21.0%	

性別でみると、「就職・職場で不利な扱いをされる」は女性の方が 5.2 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、すべての年代で「さまざまな性のあり方に関する理解や認識が十分でない」が最も多くなっている。

図 L G B Tの方に関することで、人権上問題があること—滋賀県との比較

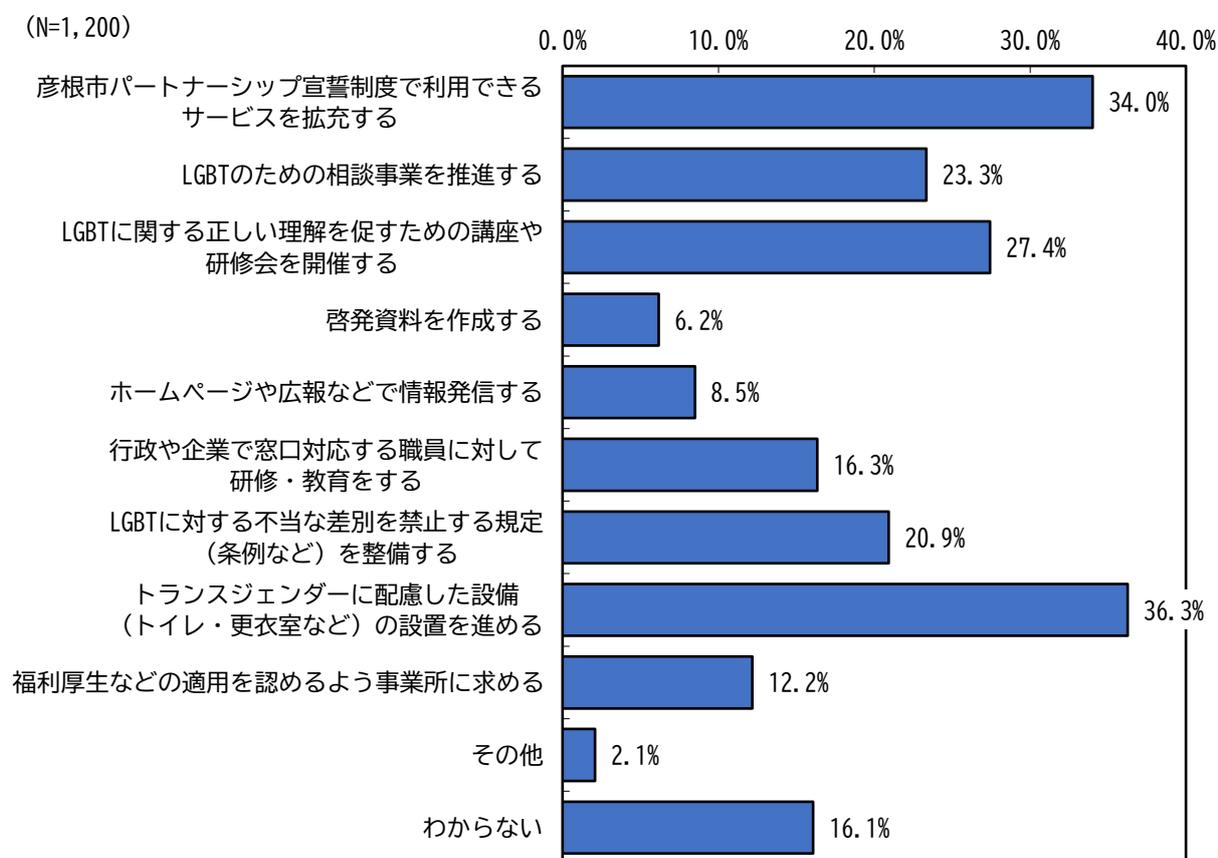


R 3 滋賀県調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「差別的な言動をされる」が 5.4 ポイント、「じろじろ見られたり、避けられたりする」が 7.0 ポイント低くなっている。

(2) L G B Tの方の人権が尊重されるために必要なこと

問 24 L G B Tの方の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

図 L G B Tの方の人権が尊重されるために必要なこと



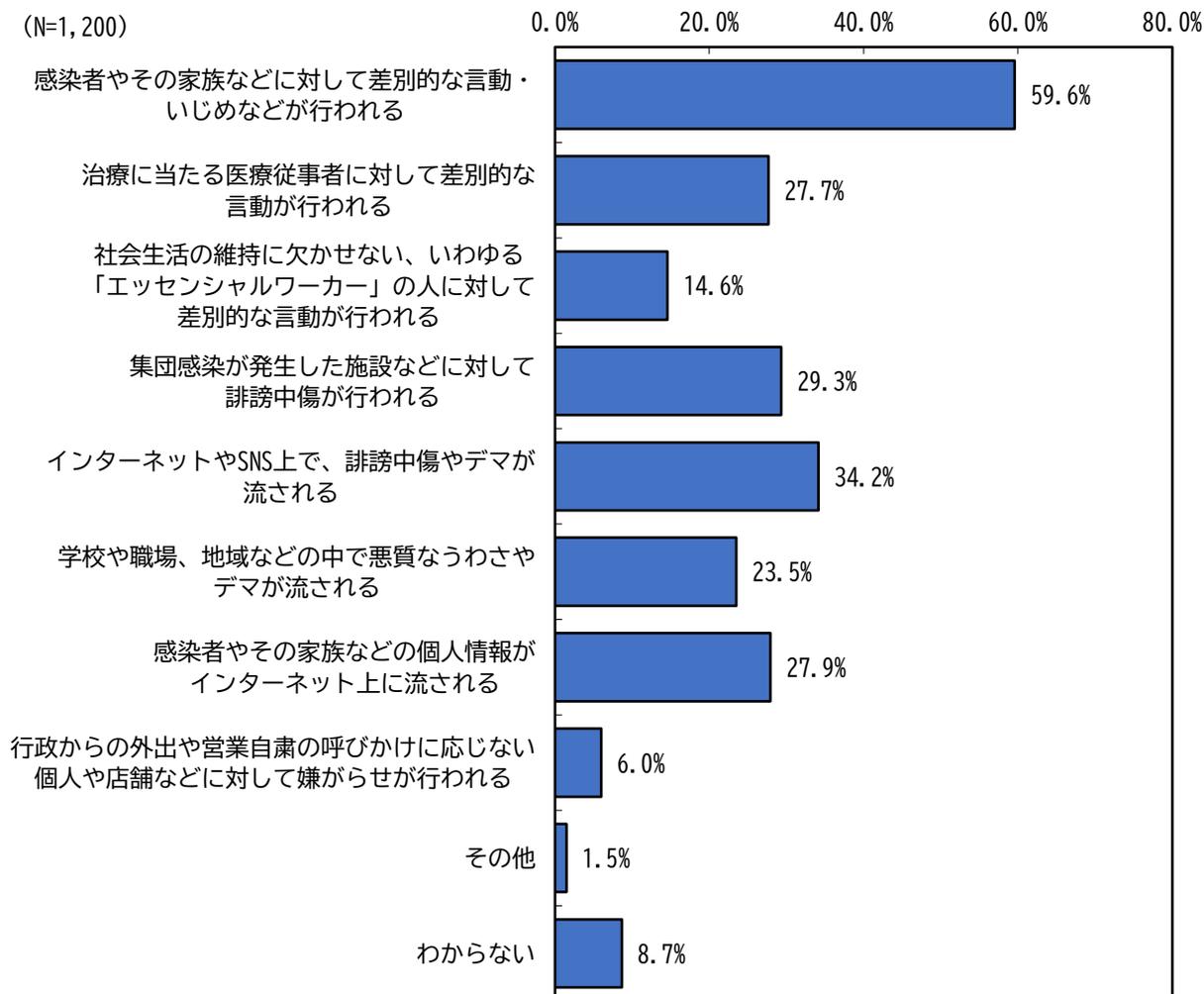
L G B Tの方の人権が尊重されるために必要なことについてみると、「トランスジェンダーに配慮した設備（トイレ・更衣室など）の設置を進める」(36.3%) が最も多く、次いで「彦根市パートナーシップ宣誓制度で利用できるサービスを拡充する」(34.0%)、「L G B Tに関する正しい理解を促すための講座や研修会を開催する」(27.4%) となっている。



## 9 感染症に関する人権問題について

問 25 近年、新型コロナウイルス感染症をめぐる人権侵害が問題となりましたが、感染症に関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）

図 感染症に関することで、人権上問題があること



感染症に関することで、人権上問題があることについてみると、「感染者やその家族などに対して差別的な言動・いじめなどが行われる」（59.6%）が最も多く、次いで「インターネットやSNS上で、誹謗中傷やデマが流される」（34.2%）、「集団感染が発生した施設などに対して誹謗中傷が行われる」（29.3%）となっている。

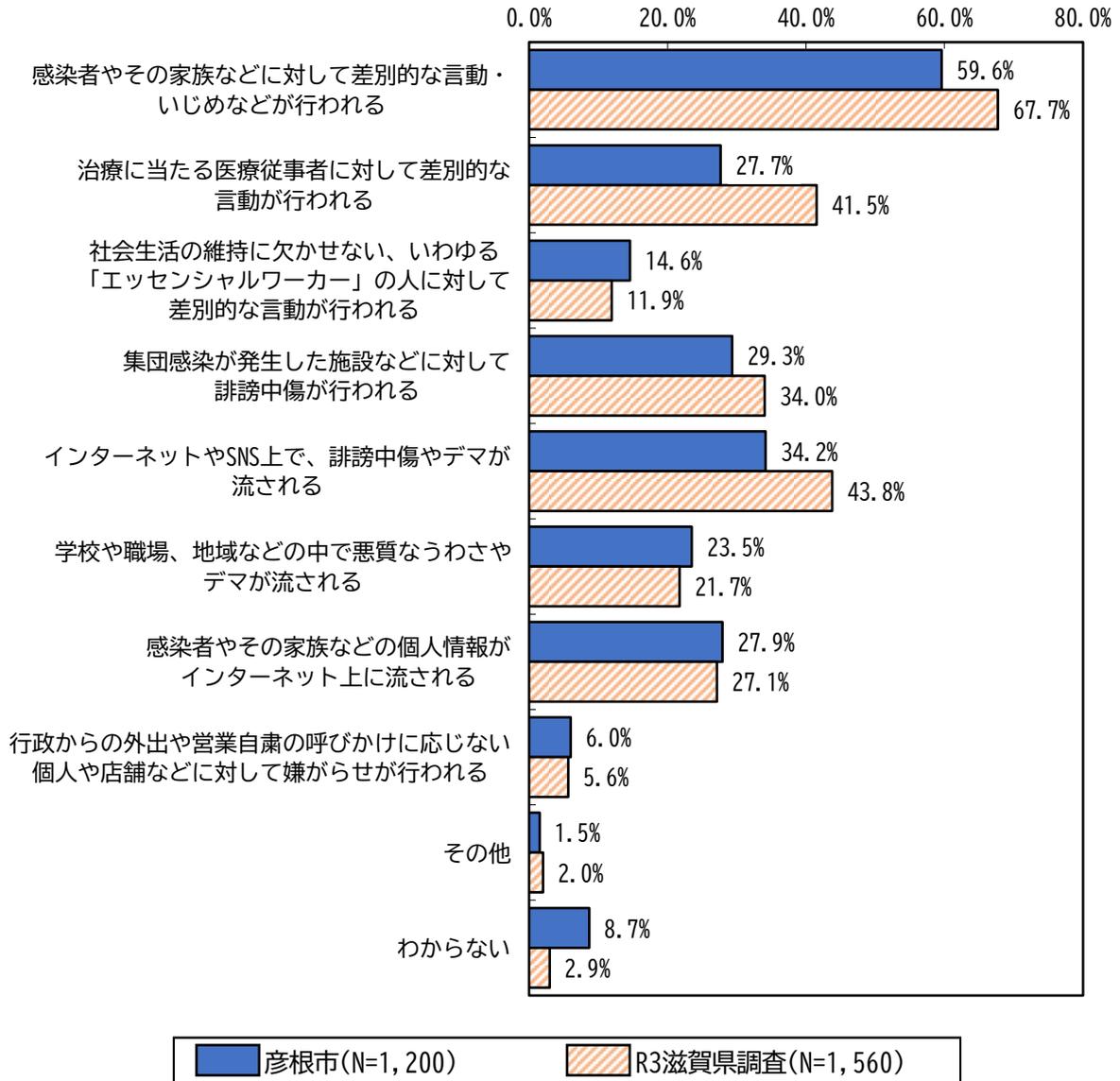
表 感染症に関することで、人権上問題があること—性別・年齢別

	有効回答数	的感染者やその家族などに対して差別的な言動・いじめなどが行われる	治療に当たって医療従事者に対して差別的な言動が行われる	人に對して差別的な言動が行われる	社会生活の維持に欠かさない、いわゆる	集団感染が発生した施設などに対して誹謗中傷が行われる	インターネットやSNS上で、誹謗中傷やデマが流される	学校や職場、地域などの中で悪質な言動やデマが流される	感染者やその家族などの個人情報が行き交う	行政からの外出や営業自粛の呼びかけにこたえない個人や店舗などに対する対応	その他	わからない
全体	1,200	59.6%	27.7%	14.6%	29.3%	34.2%	23.5%	27.9%	6.0%	1.5%	8.7%	
性別	男性	556	58.6%	25.2%	14.7%	29.7%	33.5%	20.9%	25.0%	6.8%	2.0%	10.6%
	女性	617	61.3%	30.3%	14.6%	28.7%	34.5%	25.6%	30.3%	4.7%	1.1%	6.8%
	回答しない	19	42.1%	26.3%	10.5%	36.8%	47.4%	26.3%	31.6%	21.1%	0.0%	10.5%
年齢	30歳未満	176	61.9%	23.9%	13.6%	31.3%	38.1%	23.9%	26.1%	6.8%	0.6%	6.3%
	30歳代	221	61.1%	32.1%	14.5%	25.8%	31.7%	25.3%	27.1%	8.1%	3.2%	9.5%
	40歳代	180	63.9%	28.3%	14.4%	29.4%	32.2%	22.8%	34.4%	6.7%	0.6%	6.7%
	50歳代	186	58.1%	28.0%	12.9%	29.6%	34.4%	20.4%	29.6%	5.4%	1.1%	8.6%
	60歳代	208	58.2%	26.9%	18.3%	27.4%	38.9%	24.5%	25.5%	4.3%	1.9%	8.2%
70歳以上	224	55.8%	26.8%	13.8%	32.6%	30.4%	23.2%	25.4%	4.9%	1.3%	12.1%	

性別でみると、「感染者やその家族などの個人情報インターネット上に流される」は女性の方が 5.3 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、すべての年代で「感染者やその家族などに対して差別的な言動・いじめなどが行われる」が最も多くなっている。

図 感染症に関することで、人権上問題があること—滋賀県との比較



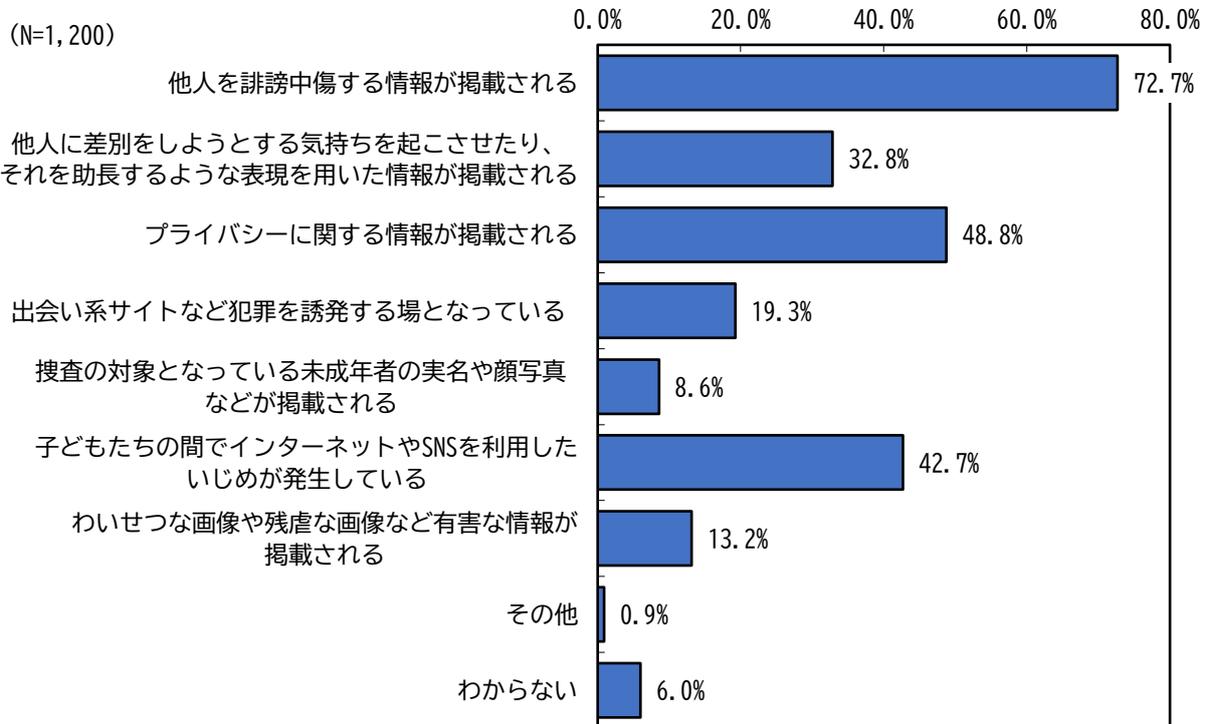
※R3滋賀県調査では「新型コロナウイルス感染症に関すること」に限定して質問されていたところ、当調査では「感染症に関すること」としたため、結果の傾向が異なる場合がある。

R 3 滋賀県調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「治療に当たる医療従事者に対して差別的な言動が行われる」が 13.8 ポイント低くなっている。

## 10 インターネット上の人権侵害について

問 26 インターネット上の人権侵害について、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）

図 インターネット上の人権侵害について、人権上問題があること



インターネット上の人権侵害について、人権上問題があることについてみると、「他人を誹謗中傷する情報が掲載される」（72.7%）が最も多く、次いで「プライバシーに関する情報が掲載される」（48.8%）、「子どもたちの間でインターネットやSNSを利用したいじめが発生している」（42.7%）となっている。

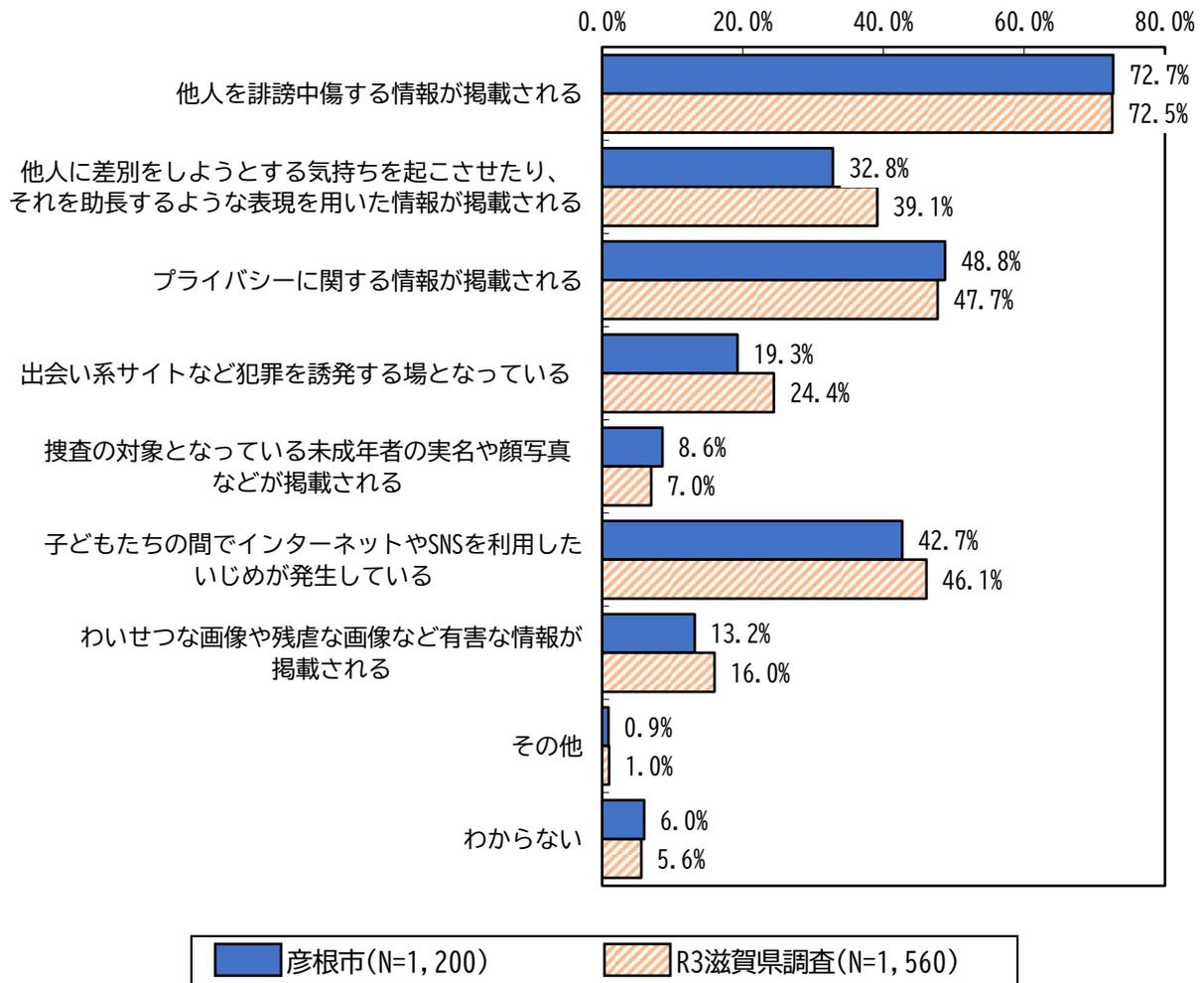
表 インターネット上の人権侵害について、人権上問題があること—性別・年齢別

	有効回答数	掲載される他人を誹謗中傷する情報が	利用した情報掲載される	他人の差別をしようとする	プライバシーに関する情報が	出会い系サイトなど犯罪を	誘発する場となつて	成人者の実名や顔写真などが掲載される	捜査の対象となつて	インターネットやSNSを利用した	子どもたちの間で	画像など有害な情報や残虐な画像など	その他	わからない
全体	1,200	72.7%	32.8%	48.8%	19.3%	8.6%	42.7%	13.2%	0.9%	6.0%				
性別	男性	556	71.6%	34.2%	46.8%	18.5%	7.6%	38.8%	11.3%	1.6%	7.0%			
	女性	617	73.9%	30.6%	50.7%	20.1%	9.4%	46.7%	15.4%	0.3%	4.9%			
	回答しない	19	73.7%	57.9%	42.1%	15.8%	10.5%	36.8%	0.0%	0.0%	10.5%			
年齢	30歳未満	176	77.8%	33.0%	54.5%	12.5%	6.3%	45.5%	10.8%	0.6%	2.8%			
	30歳代	221	71.5%	33.0%	53.8%	13.1%	8.1%	49.3%	10.0%	1.4%	6.3%			
	40歳代	180	74.4%	37.8%	54.4%	15.0%	7.2%	47.2%	12.8%	1.7%	3.3%			
	50歳代	186	79.0%	33.9%	51.1%	15.1%	9.7%	45.2%	14.0%	0.5%	4.3%			
	60歳代	208	76.0%	33.2%	43.3%	25.0%	11.5%	38.9%	14.4%	1.0%	4.8%			
	70歳以上	224	60.7%	26.8%	37.9%	32.1%	8.0%	32.1%	17.0%	0.4%	12.9%			

性別でみると、「子どもたちの間でインターネットやSNSを利用したいじめが発生している」は女性の方が7.9ポイント高くなっている。

年齢別でみると、すべての年代で「他人を誹謗中傷する情報が掲載される」が最も多くなっている。

図 インターネット上の人権侵害について、人権上問題があること—滋賀県との比較

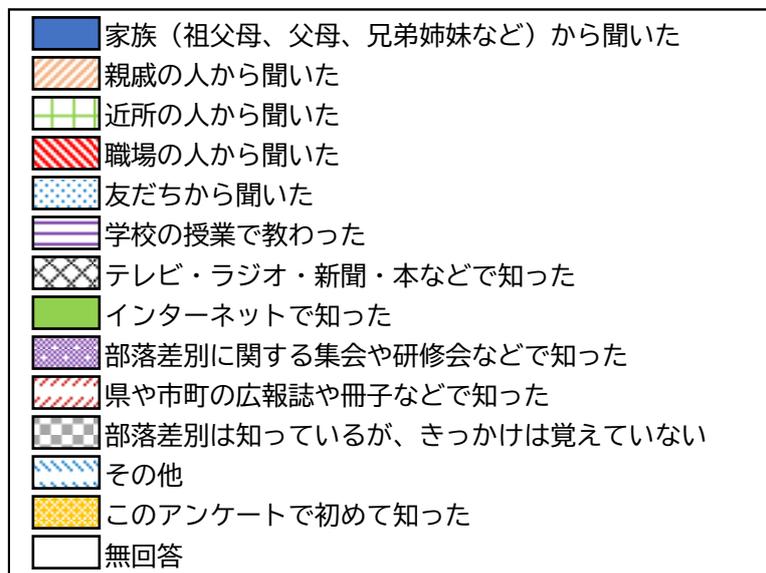
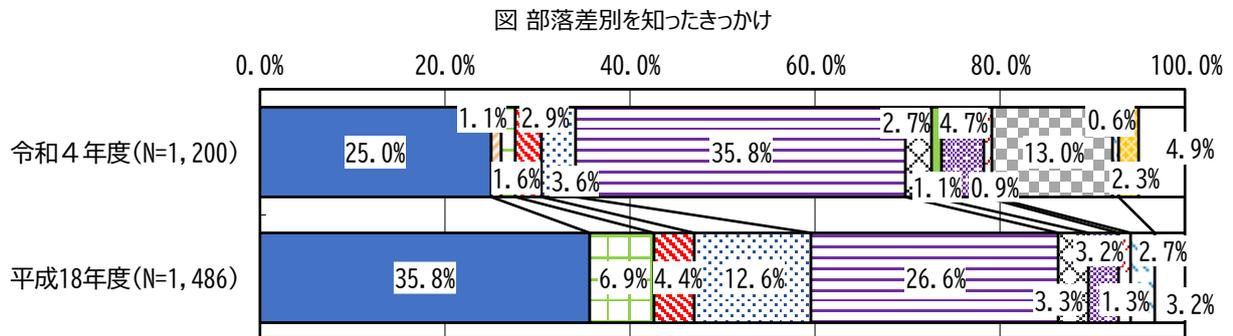


R 3 滋賀県調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような表現を用いた情報が掲載される」が 6.3 ポイント、「出会い系サイトなど犯罪を誘発する場となっている」が 5.1 ポイント低くなっている。

## 11 部落差別について

### (1) 部落差別を知ったきっかけ

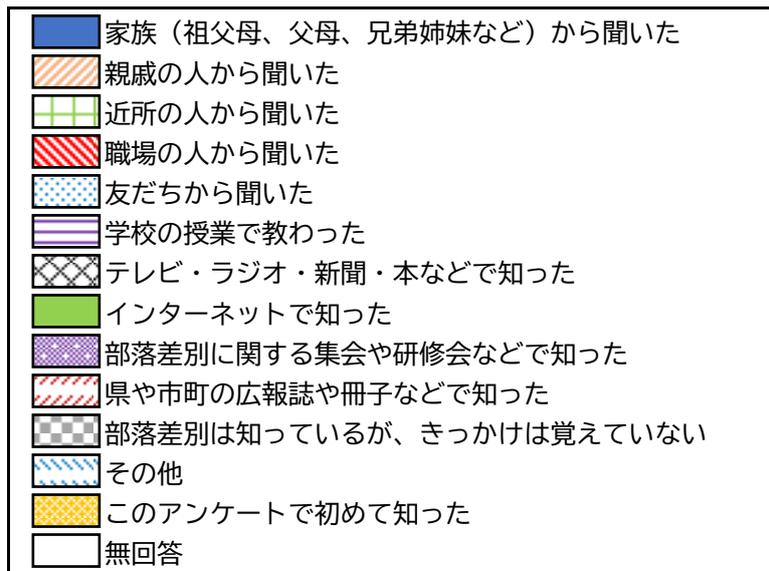
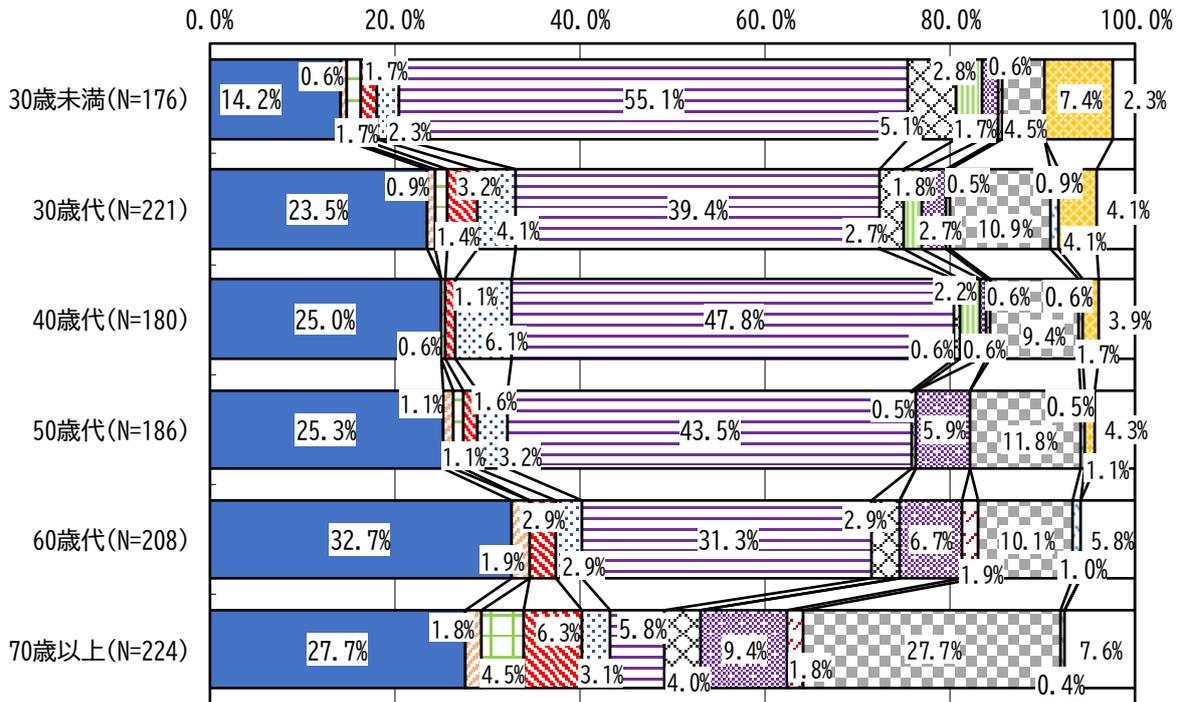
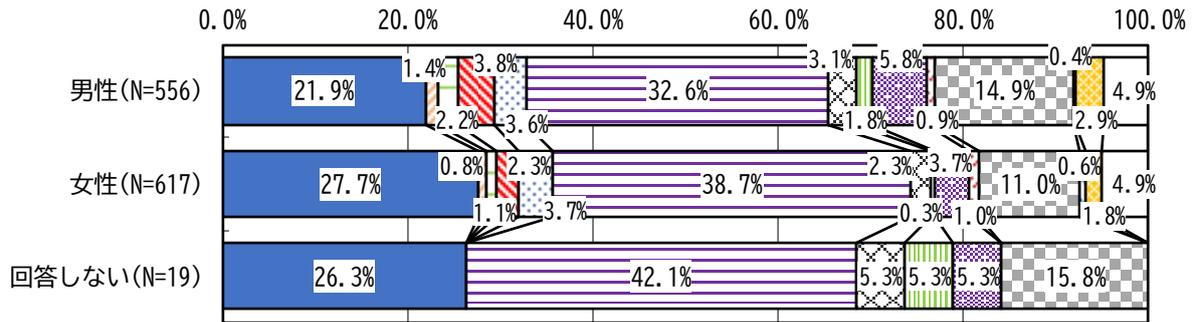
問 27 あなたが、部落差別を知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)



部落差別を知ったきっかけについてみると、「学校の授業で教わった」（35.8%）が最も多く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた」（25.0%）、「部落差別は知っているが、きっかけは覚えていない」（13.0%）となっている。

前回の調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「学校の授業で教わった」が9.2ポイント高く、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた」が10.8ポイント、「近所の人から聞いた」が5.3ポイント、「友だちから聞いた」が9.0ポイント低くなっている。

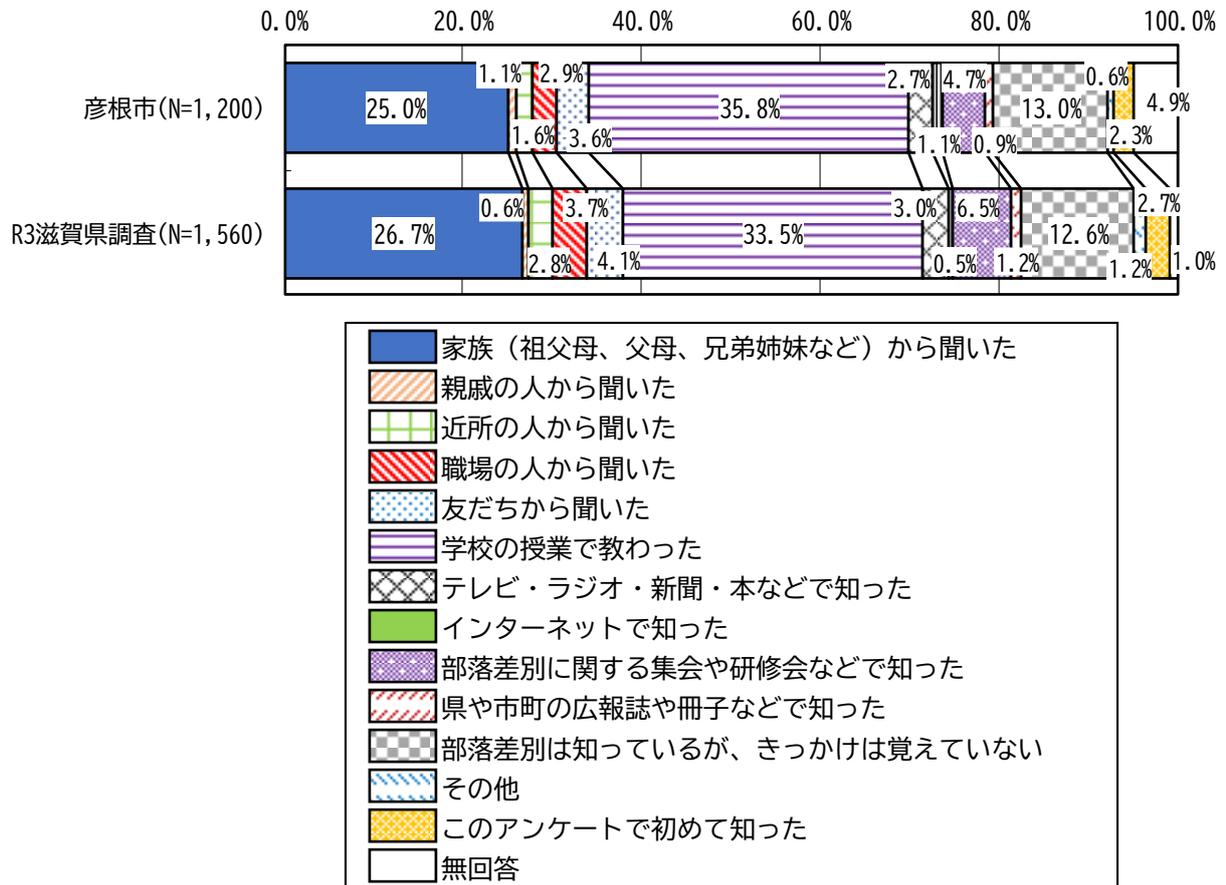
図 部落差別を知ったきっかけ—性別・年齢別



性別でみると、「学校の授業で教わった」は女性の方が 6.1 ポイント高くなっている。

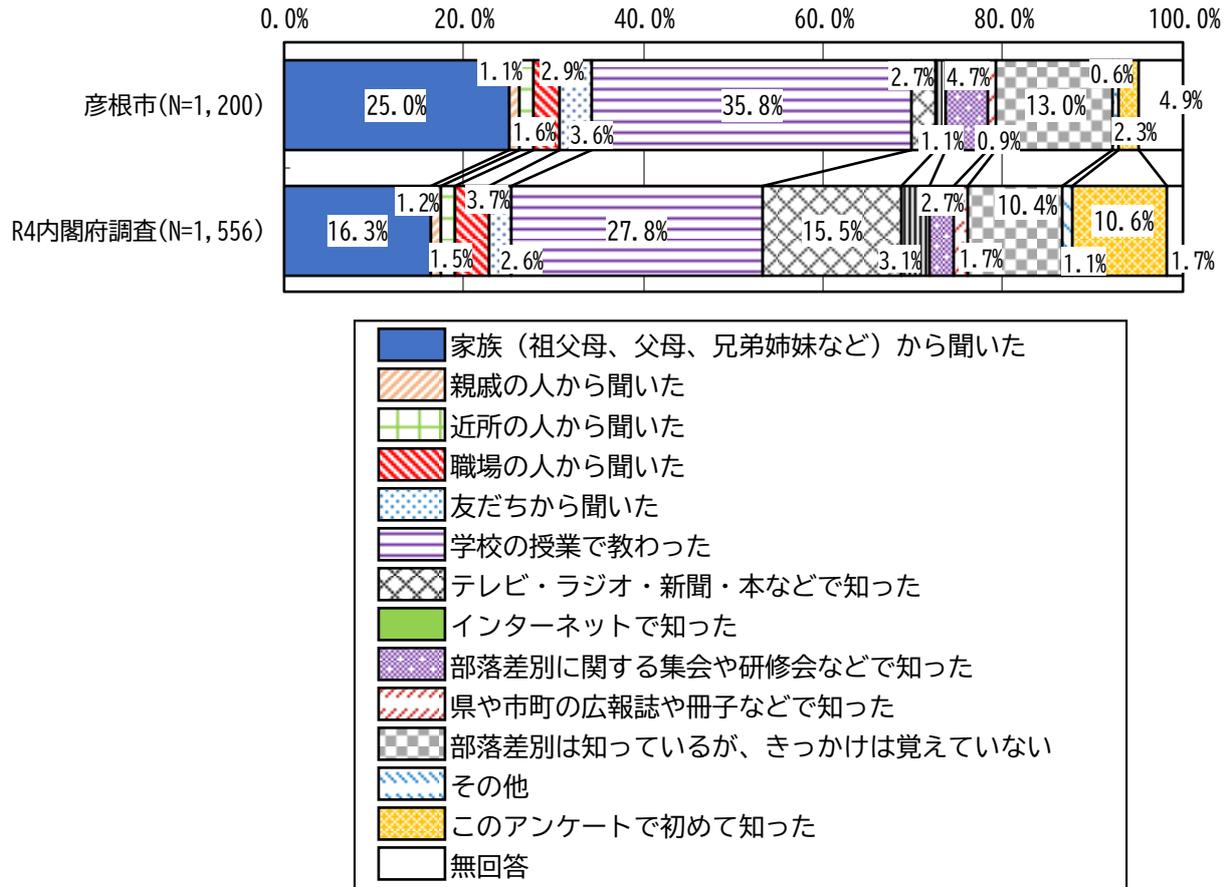
年齢別でみると、30 歳未満から 50 歳代は「学校の授業で教わった」、60 歳代から 70 歳以上は「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた」が最も多くなっている。また 70 歳以上は同率で「部落差別は知っているが、きっかけは覚えていない」も最も多くなっている。

図 部落差別を知ったきっかけ—滋賀県との比較



R 3 滋賀県調査結果と比べると、大きな差異は見られない。

図 部落差別を知ったきっかけ—内閣府調査との比較

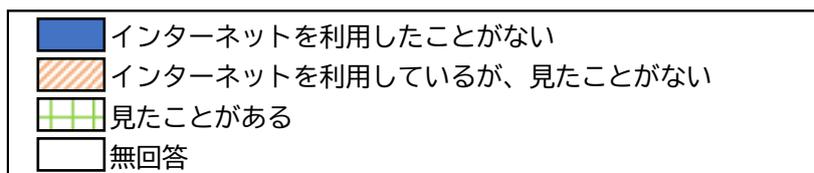
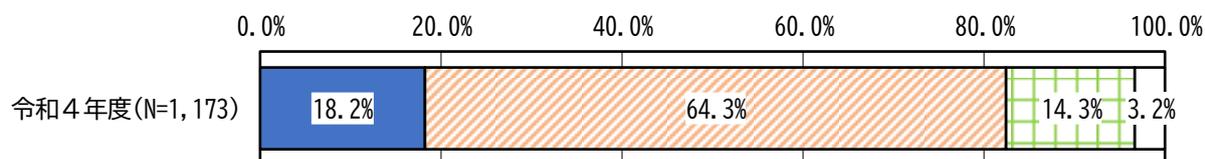


R 4 内閣府調査と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた」が 8.7 ポイント、「学校の授業で教わった」が 8.0 ポイント高く、「テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った」が 12.8 ポイント、「このアンケートで初めて知った」が 8.3 ポイント低くなっている。

## (2) インターネット上での部落差別について

問 28(1) あなたは、インターネット上で部落差別に関する人権侵害事例を見たことがありますか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)

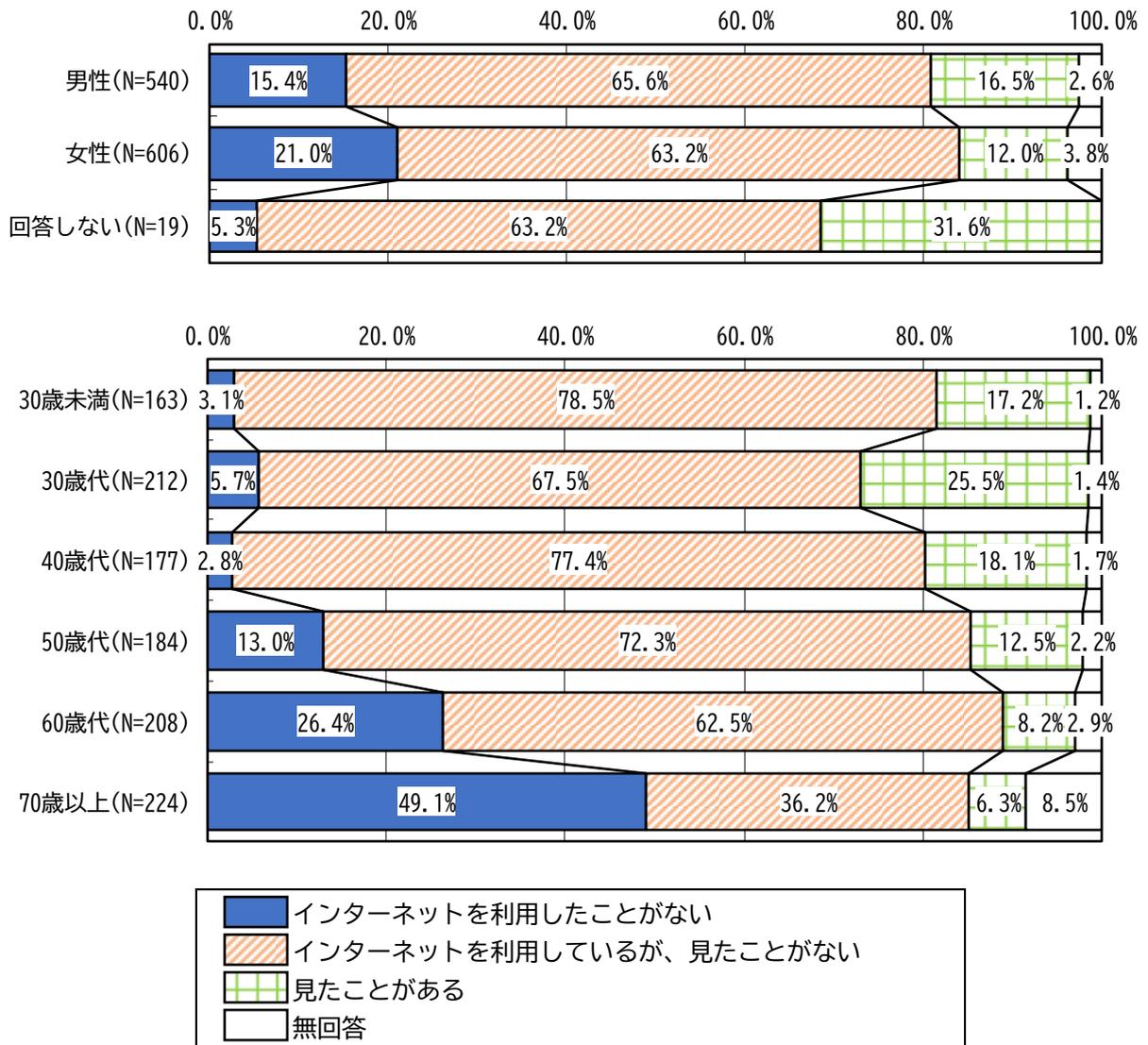
図 インターネット上での部落差別を見た経験



※問 27 で「このアンケートで初めて知った」を選んだ回答者には、問 28～31 に回答せずに、問 32(12(1)有効な啓発活動)に進んでもらった。そのため、この問 28(1)から問 31 までの調査結果の図表では、回答者数(N)の数値が、全回答者数より少ない。

インターネット上での部落差別に関する人権侵害事例の見聞きについてみると、「インターネットを利用しているが、見たことがない」(64.3%)が多く、次いで「インターネットを利用したことがない」(18.2%)、「見たことがある」(14.3%)となっている。

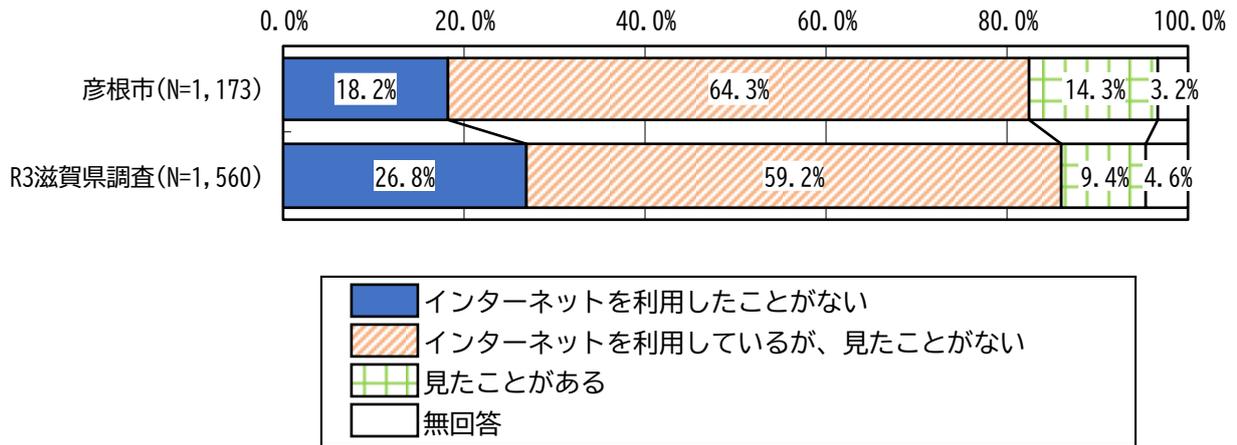
図 インターネット上での部落差別を見た経験—性別・年齢別



性別でみると、「インターネットを利用したことがない」は女性の方が 5.6 ポイント高くなっている。

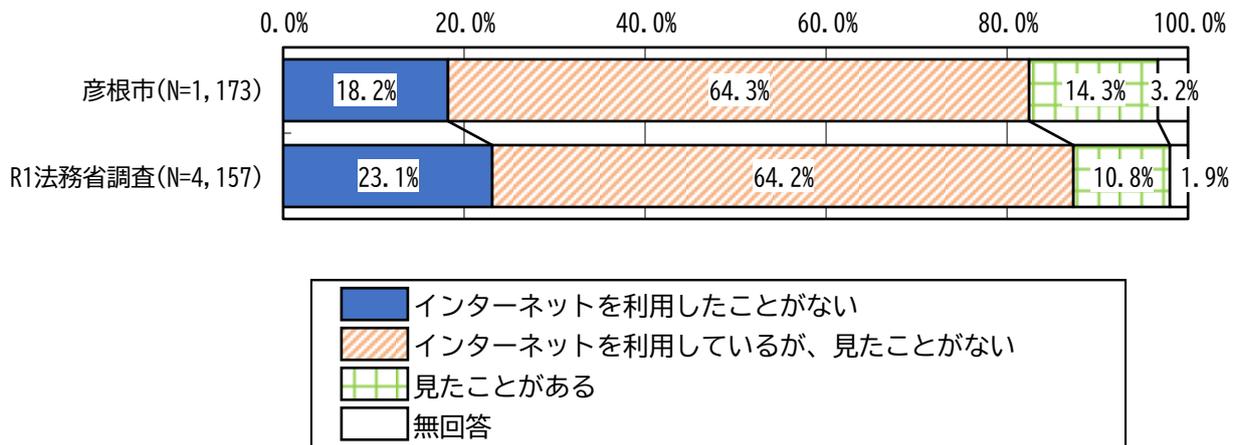
年齢別でみると、「見たことがある」は 30 歳代が 25.5%と最も高く、次いで 40 歳代（18.1%）、30 歳未満（17.2%）の順となっている。また、「インターネットを利用しているが、見たことがない」は 30 歳未満が 78.5%と最も多く、次いで 40 歳代（77.4%）、50 歳代（72.3%）の順となっている。

図 インターネット上での部落差別を見た経験—滋賀県との比較



R 3 滋賀県調査結果と比べると、「インターネットを利用しているが、見たことがない」が 5.1 ポイント高く、「インターネットを利用したことがない」が 8.6 ポイント低くなっている。

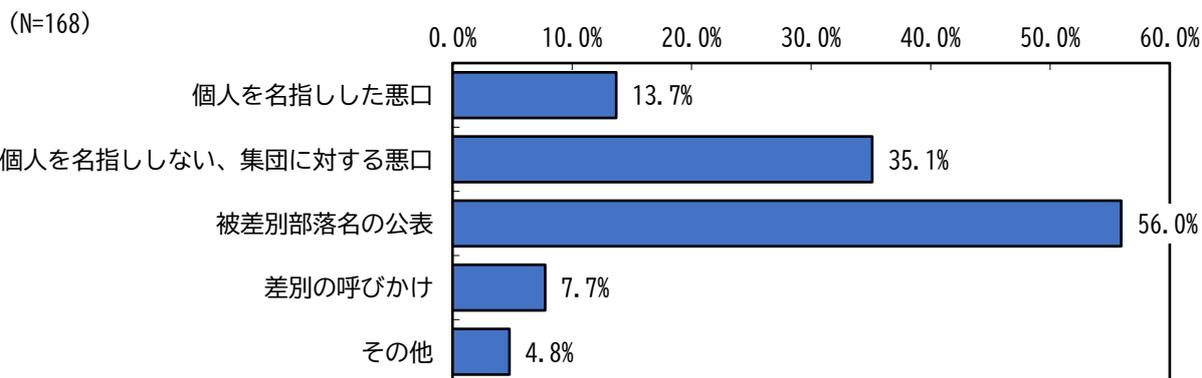
図 インターネット上での部落差別を見た経験—法務省調査との比較



R 1 法務省調査結果と比べると、大きな差異は見られない。

問 28(2)(1)で「3. 見たことがある」とお答えになった方におうかがいします。どのような内容のものを見ましたか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いくつでも)

図 インターネット上での部落差別の内容



インターネット上で見聞きした人権侵害の内容についてみると、「被差別部落名の公表」(56.0%)が最も多く、次いで「個人を名指ししない、集団に対する悪口」(35.1%)、「個人を名指した悪口」(13.7%)となっている。

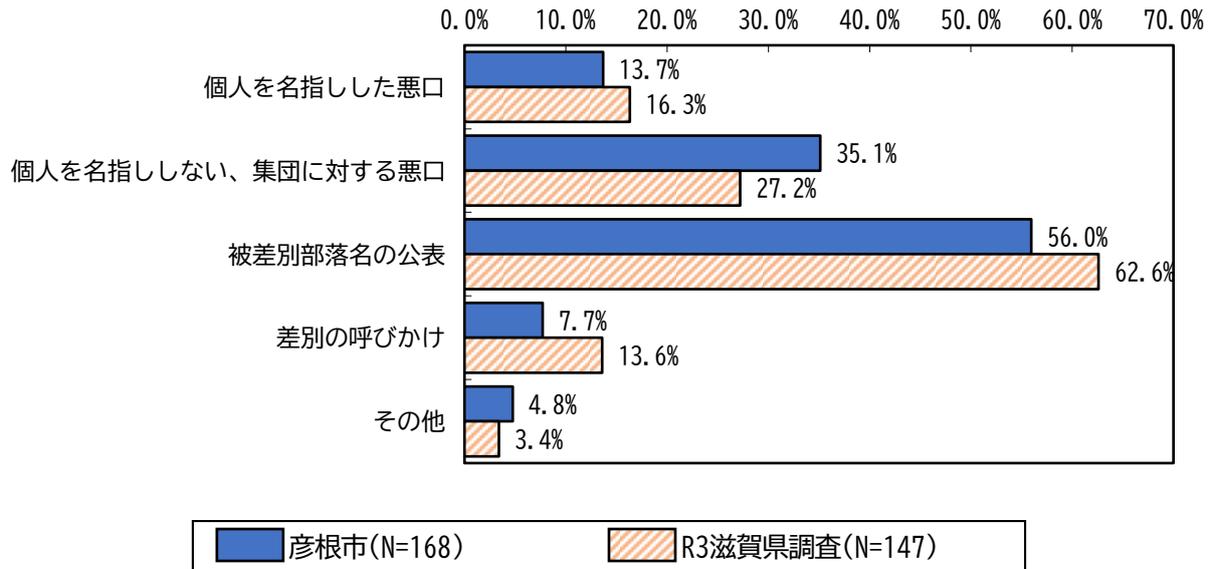
表 インターネット上での部落差別の内容—性別・年齢別

		有効回答数	個人を名指した悪口	個人を名指さない、集団に対する悪口	被差別部落名の公表	差別の呼びかけ	その他
全体		168	13.7%	35.1%	56.0%	7.7%	4.8%
性別	男性	89	15.7%	33.7%	55.1%	12.4%	3.4%
	女性	73	12.3%	38.4%	54.8%	2.7%	6.8%
	回答しない	6	0.0%	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%
年齢	30歳未満	28	17.9%	53.6%	25.0%	7.1%	10.7%
	30歳代	54	11.1%	38.9%	57.4%	7.4%	3.7%
	40歳代	32	12.5%	21.9%	78.1%	6.3%	0.0%
	50歳代	23	0.0%	21.7%	65.2%	0.0%	4.3%
	60歳代	17	29.4%	41.2%	58.8%	17.6%	11.8%
	70歳以上	14	21.4%	28.6%	42.9%	14.3%	0.0%

性別でみると、「差別の呼びかけ」は男性の方が9.7ポイント高くなっている。

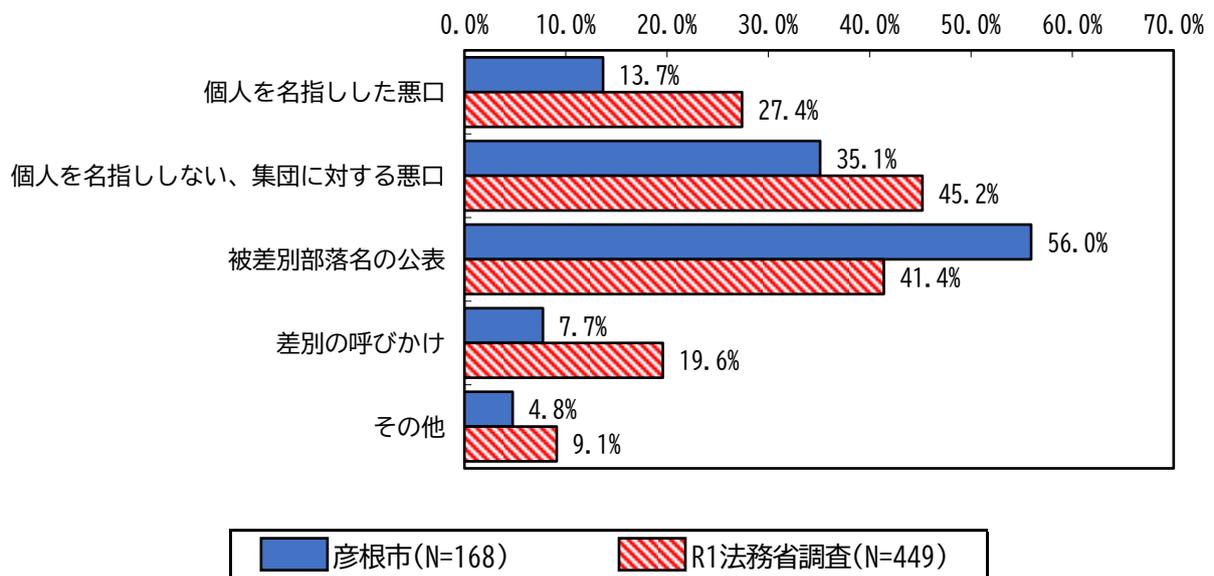
年齢別でみると、30歳未満は「個人を名指ししない、集団に対する悪口」、30歳代から70歳以上は「被差別部落名の公表」が最も多くなっている。

図 インターネット上での部落差別の内容—滋賀県との比較



R 3 滋賀県調査結果と比べると、「個人を名指ししない、集団に対する悪口」が 7.9 ポイント高く、「被差別部落名の公表」が 6.6 ポイント、「差別の呼びかけ」が 5.9 ポイント低くなっている。

図 インターネット上での部落差別の内容—法務省調査との比較

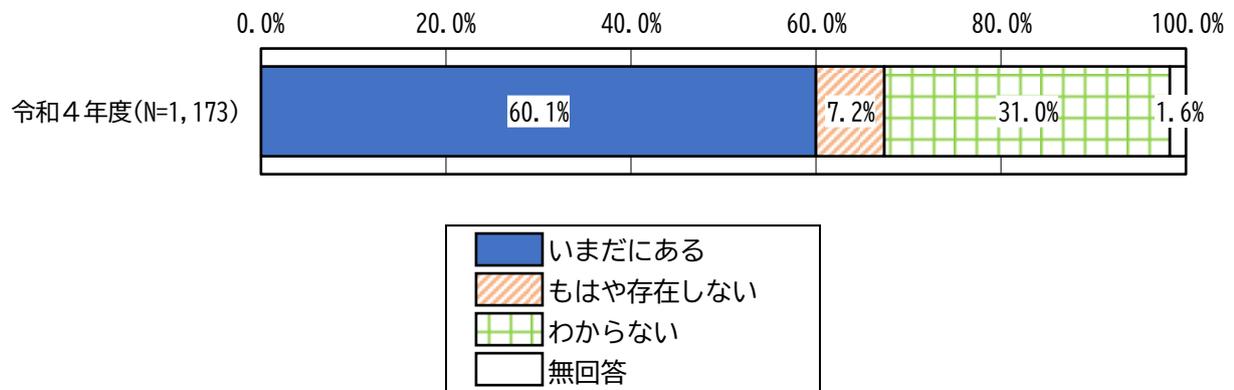


R 1 法務省調査結果と比べると、「被差別部落名の公表」が 14.6 ポイント高く、「個人を名指した悪口」が 13.7 ポイント、「個人を名指ししない、集団に対する悪口」が 10.1 ポイント、「差別の呼びかけ」が 11.9 ポイント低くなっている。

### (3) 部落差別の現状について

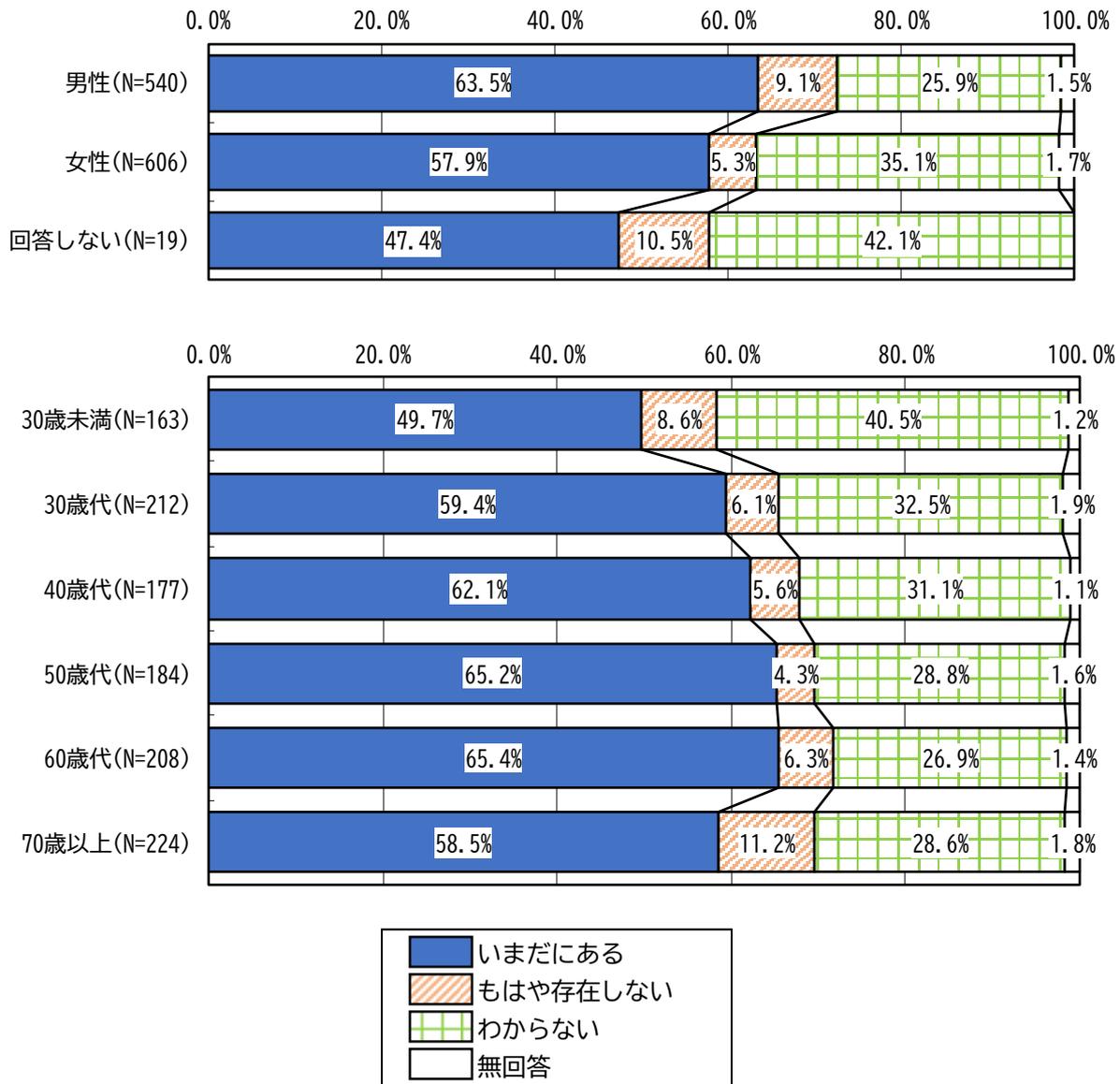
問 29 あなたは、現在でも部落差別があると思いますか。あてはまるものを選んで○をつけてください。  
(いずれか1つ)

図 部落差別の現状について



現在でも部落差別があると思うかについてみると、「いまだにある」(60.1%)が多く、次いで「わからない」(31.0%)、「もはや存在しない」(7.2%)となっている。

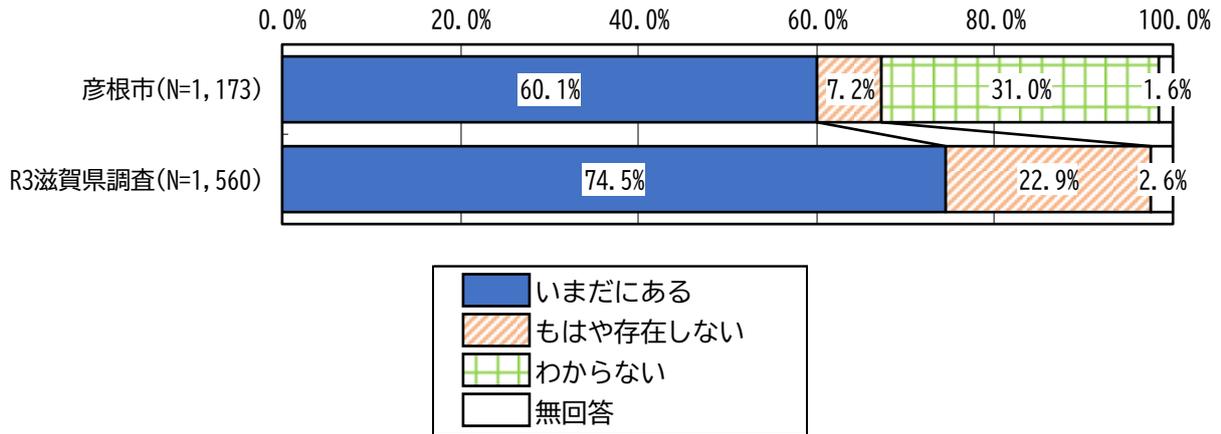
図 部落差別の現状について—性別・年齢別



性別で見ると、「いまだにある」は男性の方が 5.6 ポイント高くなっている。

年齢別で見ると、「いまだにある」は 60 歳代が 65.4%と最も多く、次いで 50 歳代 (65.2%)、40 歳代 (62.1%) の順となっている。また、「もはや存在しない」は 70 歳以上が 11.2%と最も多く、次いで 30 歳未満 (8.6%)、60 歳代 (6.3%) の順となっている。

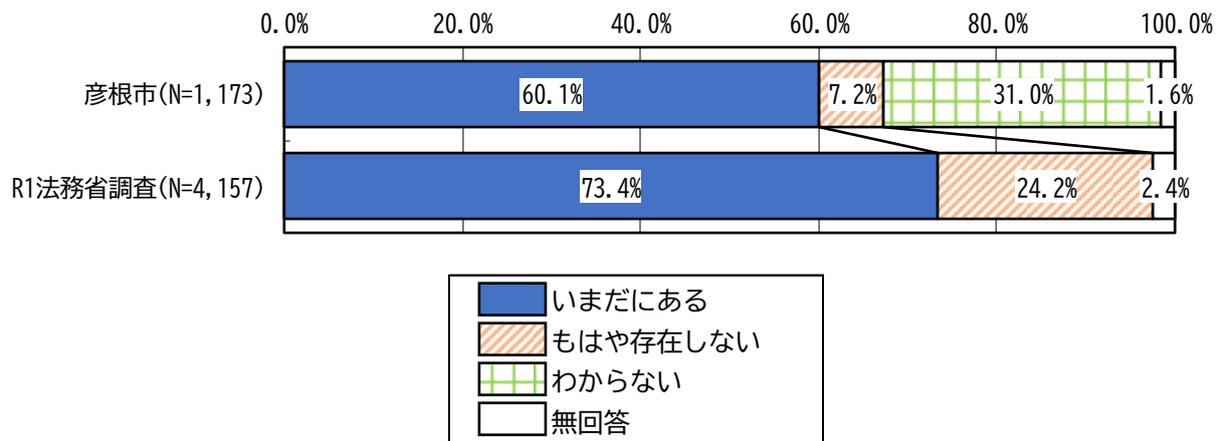
図 部落差別の現状について—滋賀県との比較



※R3滋賀県調査には選択肢「わからない」がないため、結果の傾向は異なる。

R 3 滋賀県調査結果と比べると、「いまだにある」が 14.4 ポイント、「もはや存在しない」が 15.7 ポイント低くなっている。

図 部落差別の現状について—法務省調査との比較

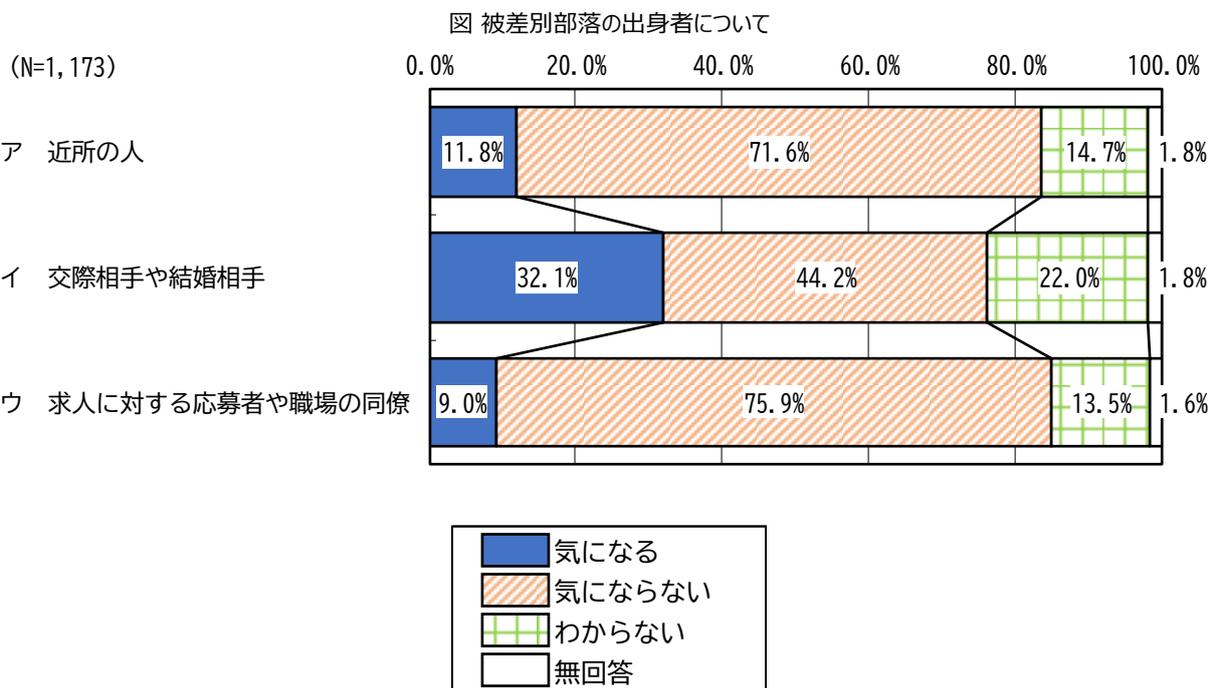


※R3滋賀県調査には選択肢「わからない」がないため、結果の傾向は異なる。

R 1 法務省調査結果と比べると、「いまだにある」が 13.3 ポイント、「もはや存在しない」が 17.0 ポイント低くなっている。

(4) 被差別部落の出身者について

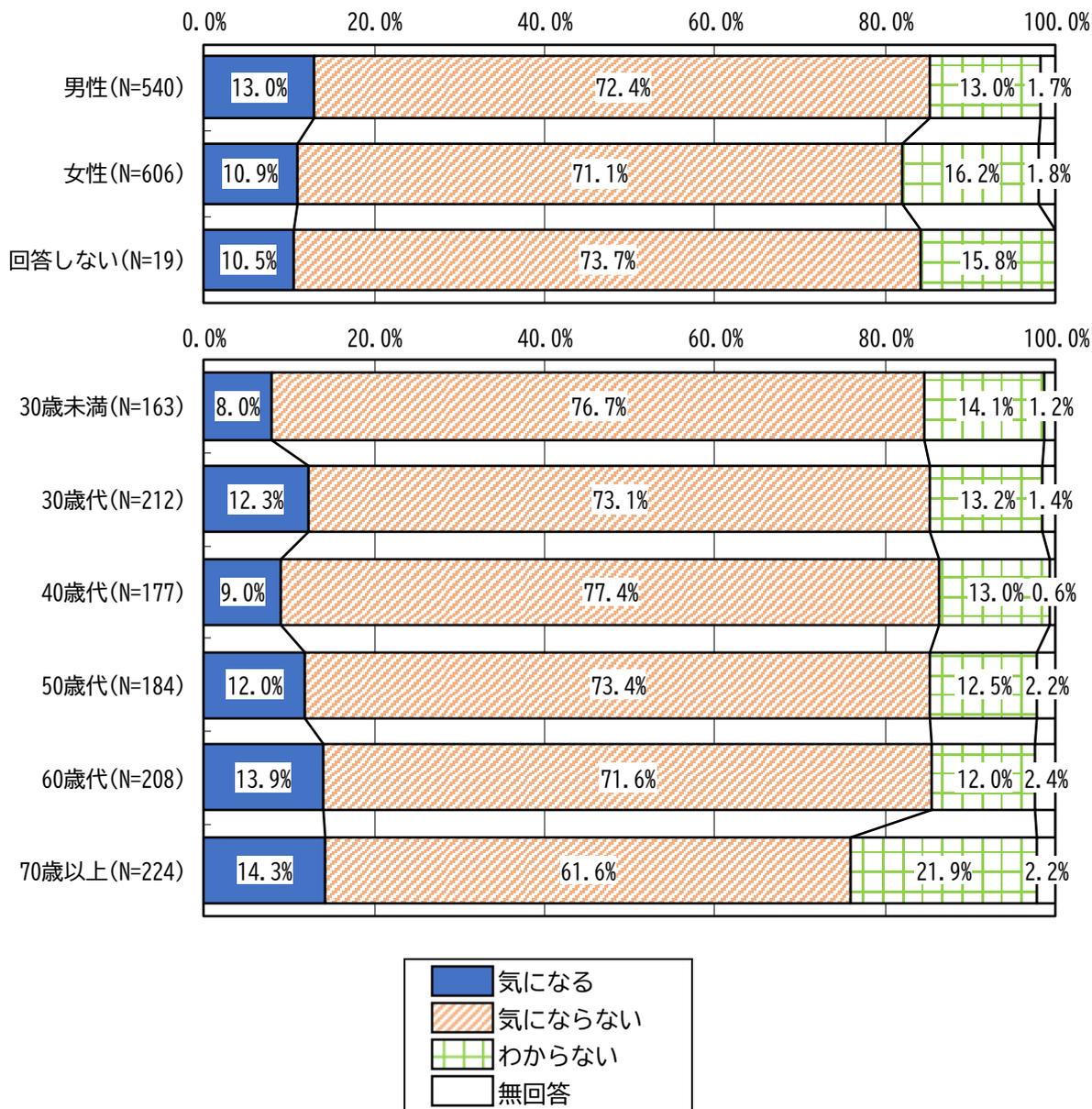
問 30 あなたは、次の人が被差別部落の出身者であるかどうか気になりますか。あてはまるものを選んで○をつけてください。



被差別部落の出身者についてみると、「気になる」は「交際相手や結婚相手が被差別部落の出身者であるかどうか気になるか」(32.1%)、「近所の人被差別部落の出身者であるかどうか気になるか」(11.8%)、「求人に対する応募者や職場の同僚が被差別部落の出身者であるかどうか気になるか」(9.0%)の順で多くなっている。

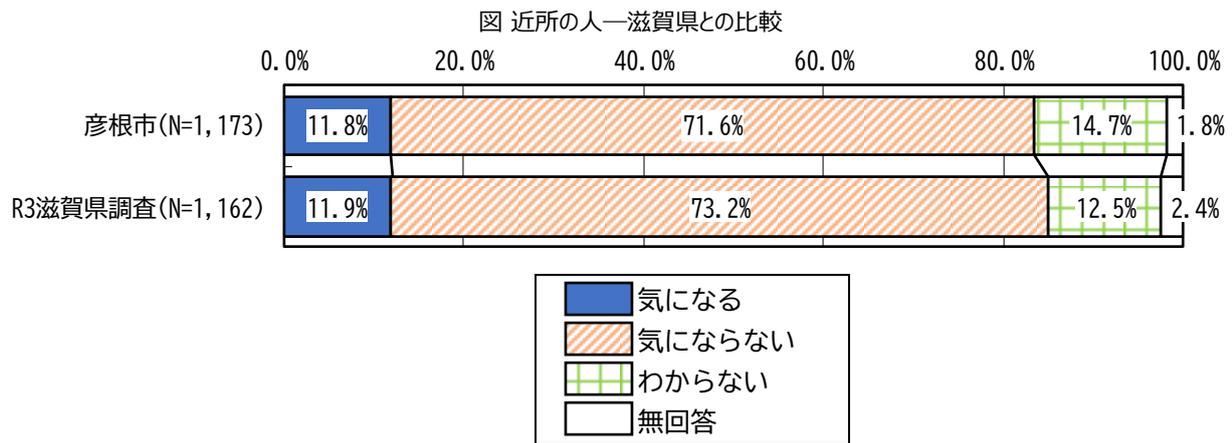
(ア) 近所の人

図 近所の人—性別・年齢別

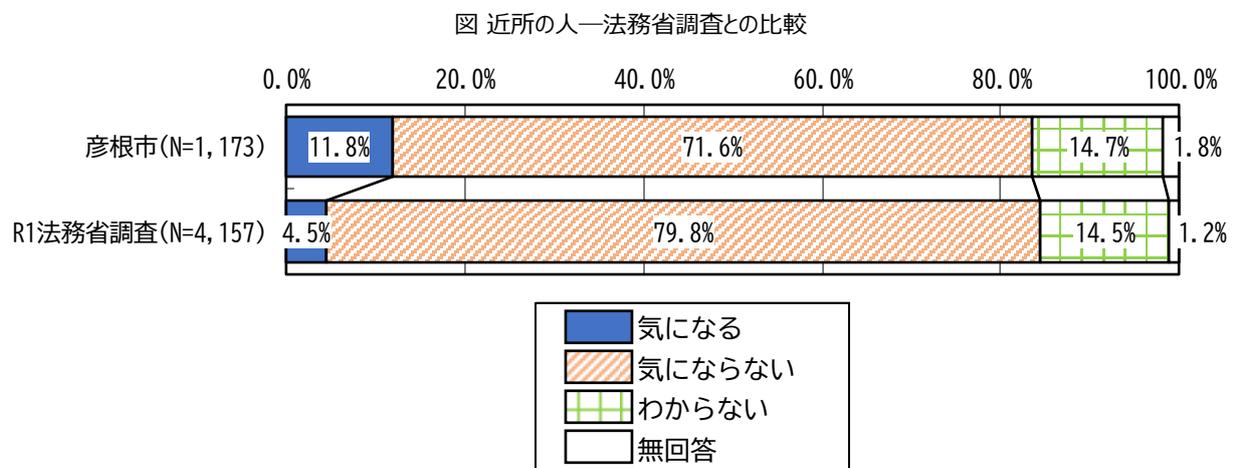


性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別でみると、すべての年代で「気にならない」は6割から7割で、その中でも40歳代が77.4%と最も多くなっている。



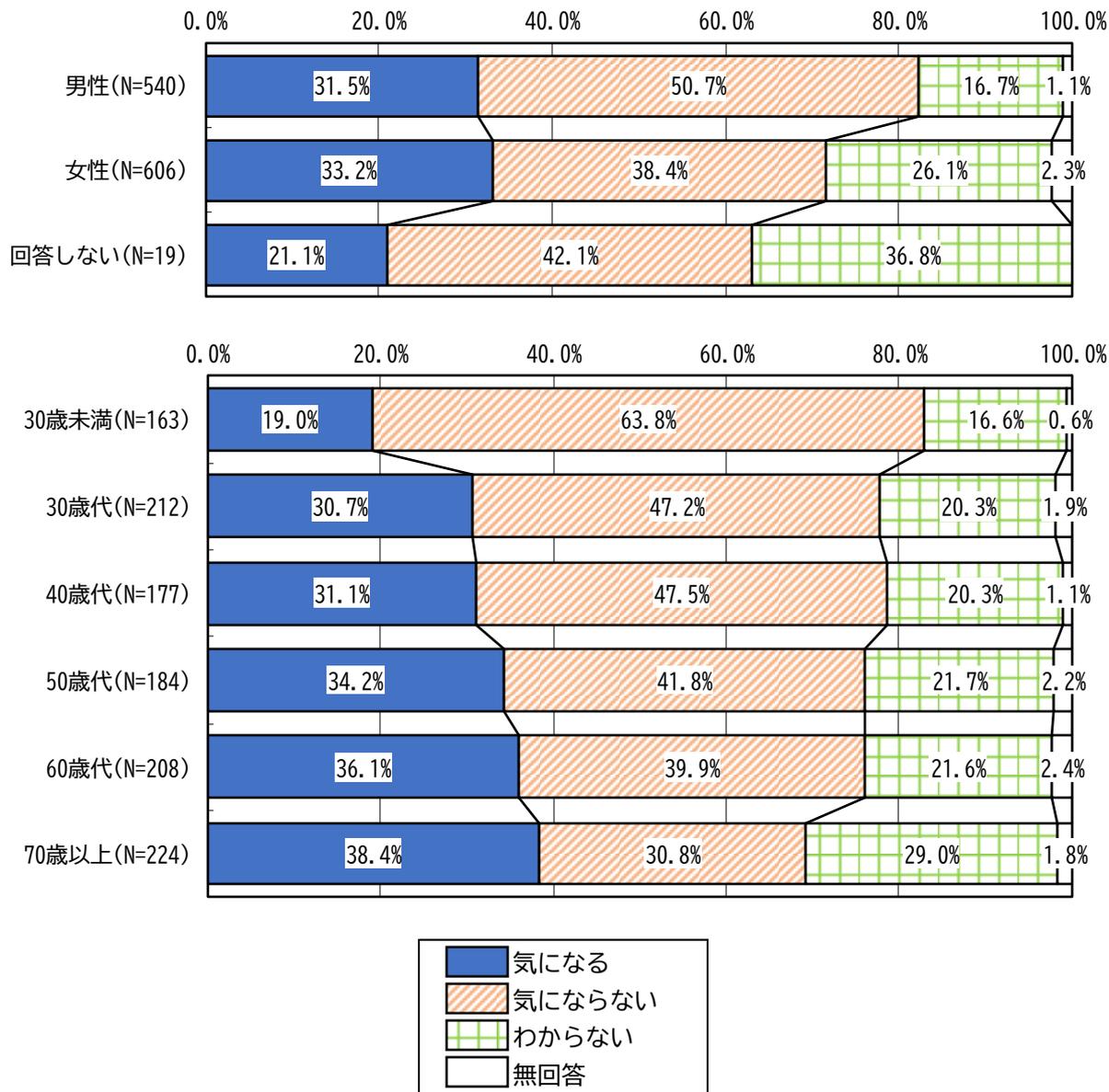
R 3 滋賀県調査結果と比べると、大きな差異は見られない。



R 1 法務省調査と比べると、「気になる」が 7.3 ポイント高く、「気にならない」が 8.2 ポイント低くなっている。

(イ) 交際相手や結婚相手

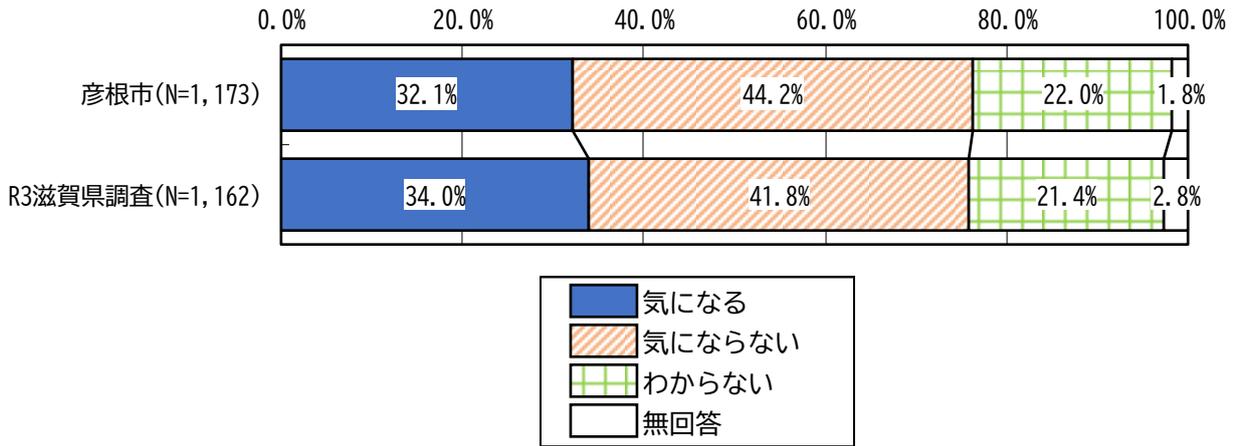
図 交際相手や結婚相手—性別・年齢別



性別で見ると、「気にならない」は男性の方が 12.3 ポイント高くなっている。

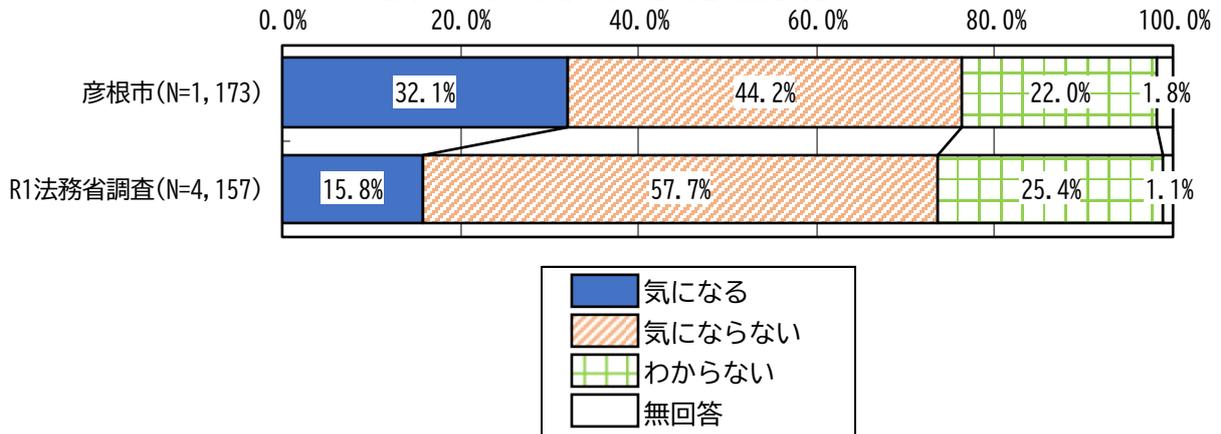
年齢別で見ると、「気になる」は 70 歳以上が 38.4%と最も多く、年代が高くなるほど多くなる傾向がある。

図 交際相手や結婚相手—滋賀県との比較



R 3 滋賀県調査結果と比べると、大きな差異は見られない。

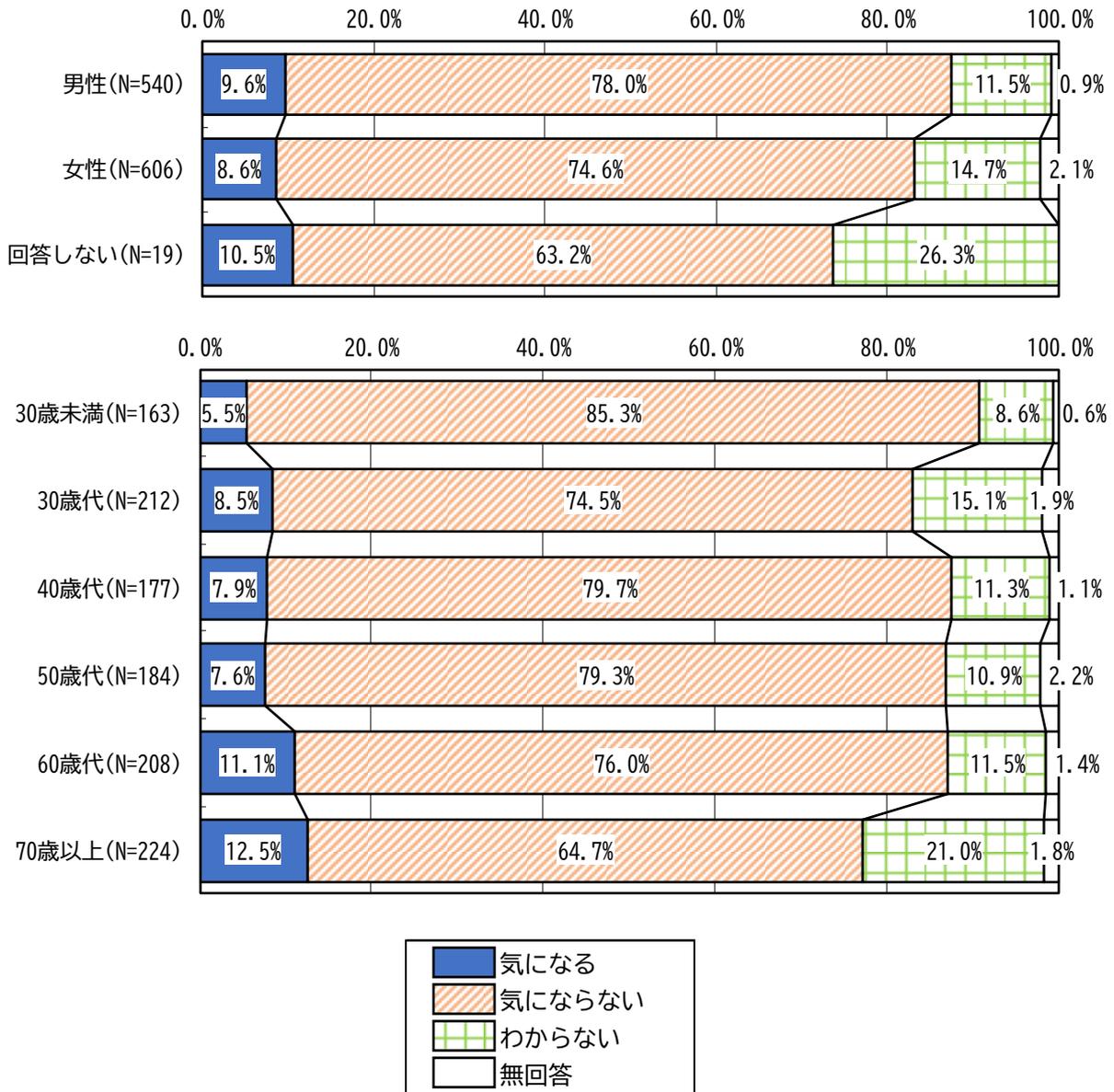
図 交際相手や結婚相手—法務省調査との比較



R 1 法務省調査と比べると、「気になる」が 16.3 ポイント高く、「気にならない」が 13.5 ポイント低くなっている。

(ウ) 求人に対する応募者や職場の同僚

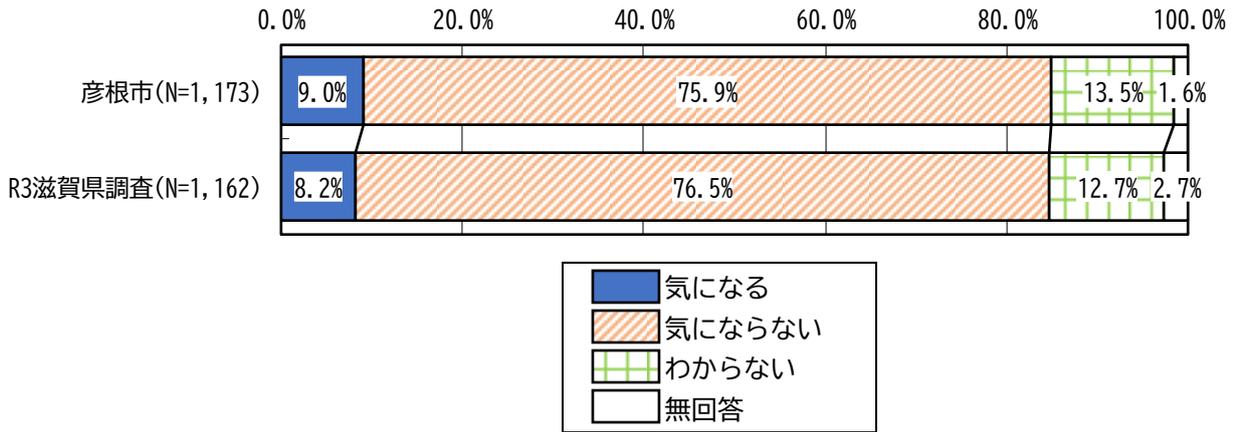
図 求人に対する応募者や職場の同僚—性別・年齢別



性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

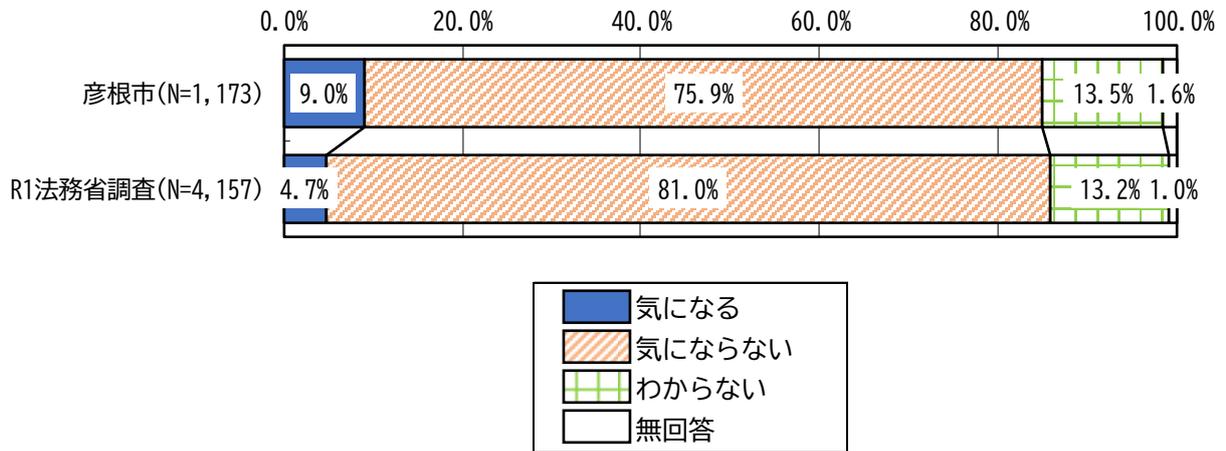
年齢別でみると、すべての年代で「気にならない」は6割から8割で、その中でも30歳未満が85.3%と最も多くなっている。

図 求人に対する応募者や職場の同僚—滋賀県との比較



R 3 滋賀県調査結果と比べると、大きな差異は見られない。

図 求人に対する応募者や職場の同僚—法務省調査との比較

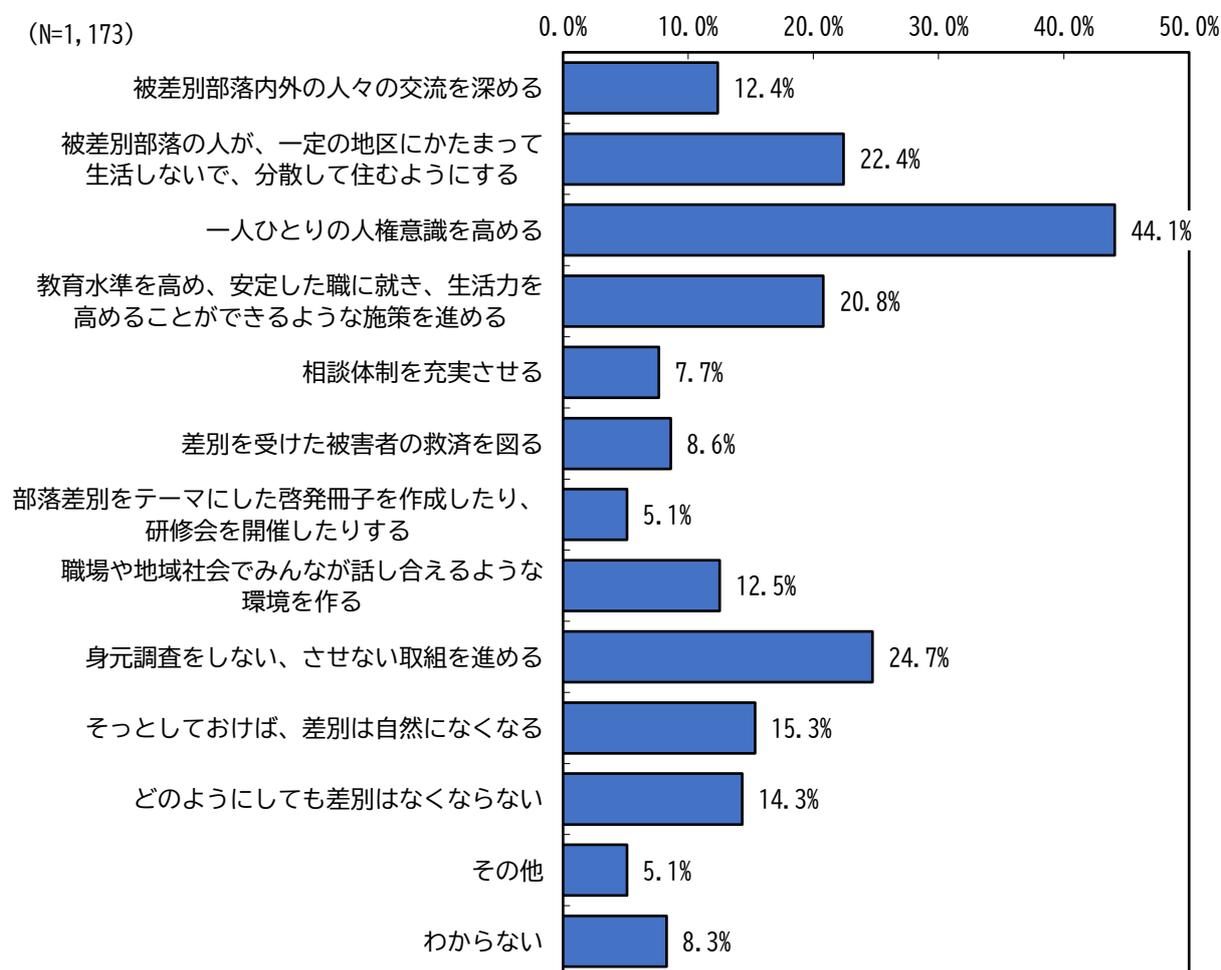


R 1 法務省調査と比べると、「気になる」が 4.3 ポイント高くなっている。

(5) 部落差別を解消するために必要なこと

問 31 部落差別に関する問題を解消するためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

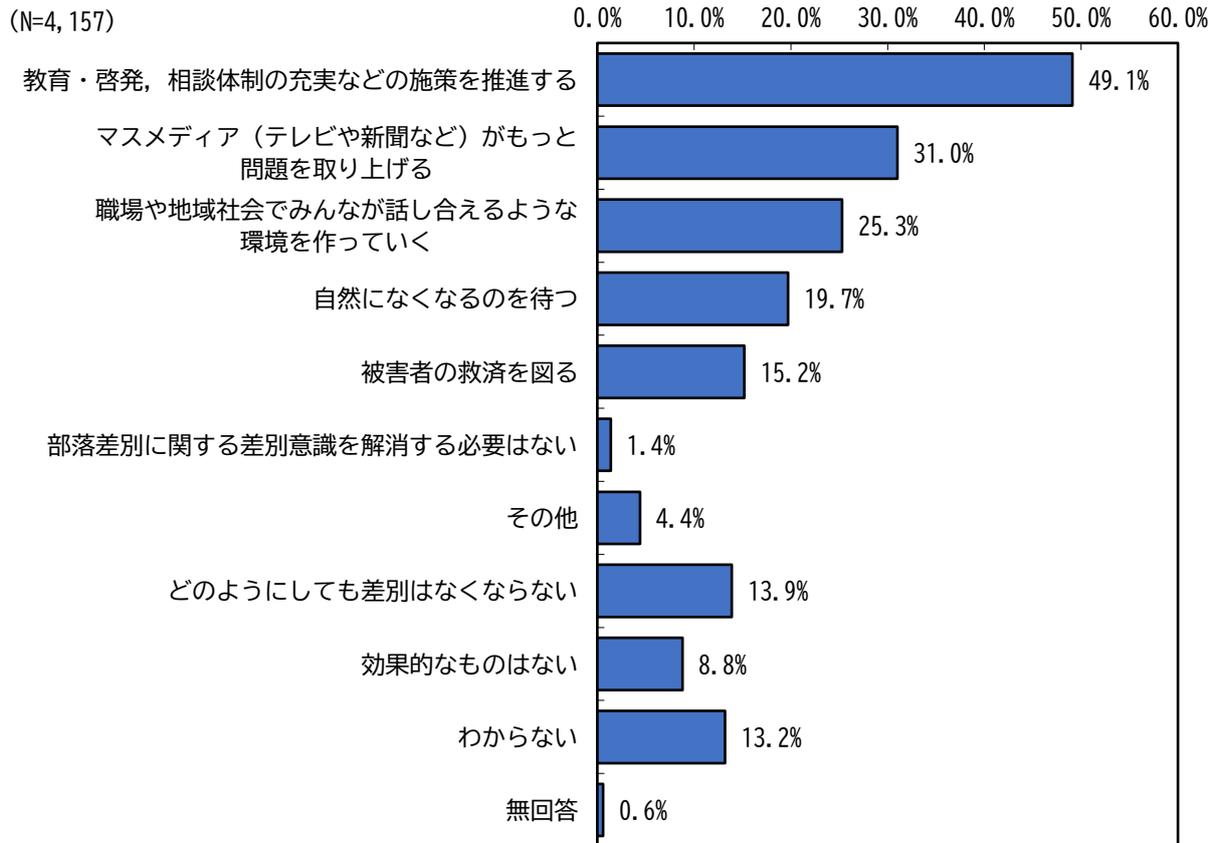
図 部落差別を解消するために必要なこと



部落差別に関する問題を解消するために必要なことについてみると、「一人ひとりの人権意識を高める」(44.1%)が最も多く、次いで「身元調査をしない、させない取組を進める」(24.7%)、「被差別部落の人が、一定の地区にかたまって生活しないで、分散して住むようにする」(22.4%)となっている。



図 (参考) 法務省調査「部落差別解消のための効果的な対策」

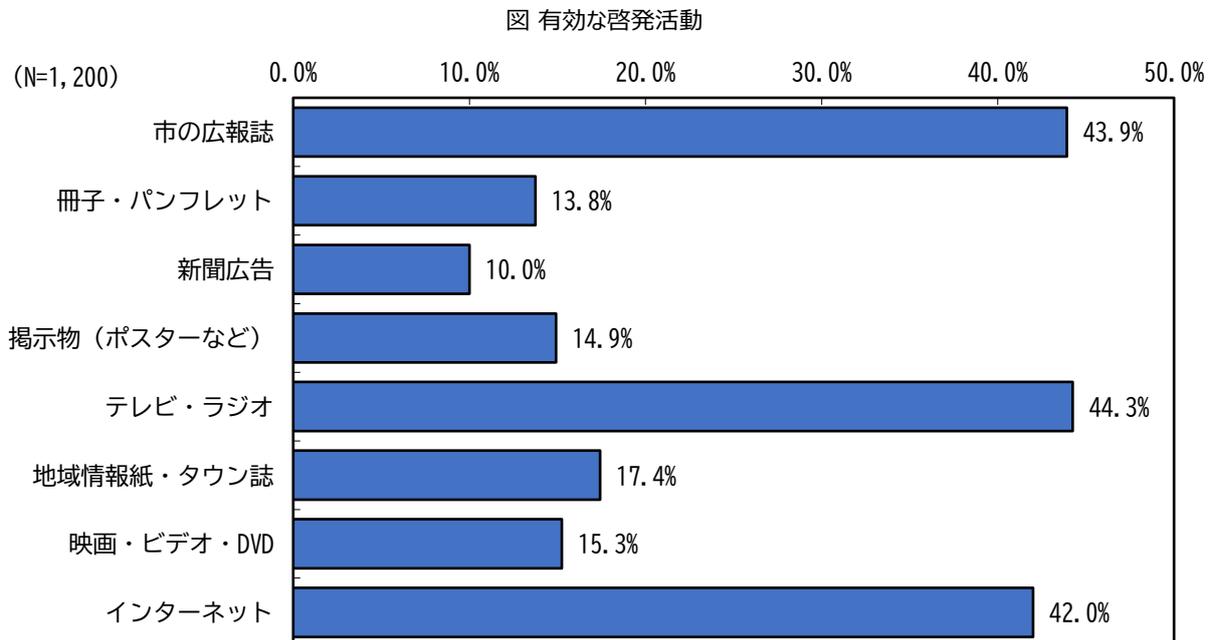


R 1 法務省調査結果では、部落差別解消のための効果的な対策について、「教育・啓発、相談体制の充実などの施策を推進する」（49.1%）が最も多く、次いで「マスメディア（テレビや新聞など）がもっと問題を取り上げる」（31.0%）、「職場や地域社会でみんなが話し合えるような環境を作っていく」（25.3%）となっている。

## 12 人権啓発・教育の取組について

### (1) 有効な啓発活動

問 32 さまざまな手段を使った啓発活動について、あなたが特に有効だと思うものを選んで○をつけてください。（3つまで）



有効だと思う啓発活動についてみると、「テレビ・ラジオ」（44.3%）が最も多く、次いで「市の広報誌」（43.9%）、「インターネット」（42.0%）となっている。

表 有効な啓発活動一性別・年齢別

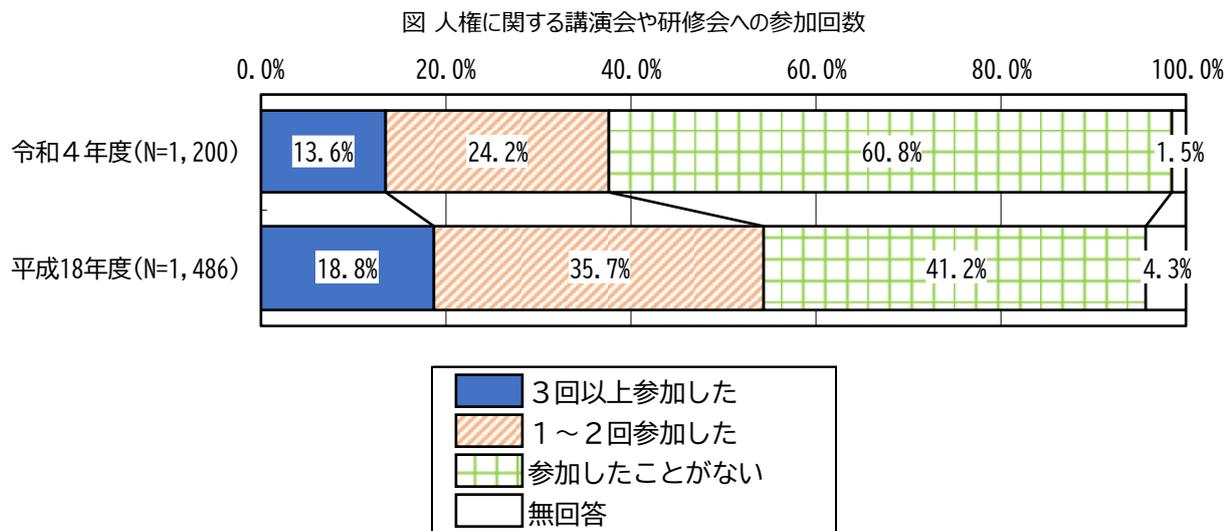
		有効回答数	市の広報誌	冊子・パンフレット	新聞広告	掲示物 (ポスターなど)	テレビ・ラジオ	地域情報紙・タウン誌	映画・ビデオ・DVD	インターネット
全体		1,200	43.9%	13.8%	10.0%	14.9%	44.3%	17.4%	15.3%	42.0%
性別	男性	556	42.6%	14.9%	9.9%	13.5%	42.4%	15.3%	14.9%	43.2%
	女性	617	45.2%	12.3%	10.4%	16.2%	46.0%	19.6%	15.4%	40.7%
	回答しない	19	42.1%	31.6%	5.3%	15.8%	26.3%	10.5%	21.1%	52.6%
年齢	30歳未満	176	26.1%	10.8%	8.5%	14.8%	43.2%	8.5%	17.6%	66.5%
	30歳代	221	33.5%	13.6%	9.0%	14.5%	42.5%	12.7%	15.8%	59.3%
	40歳代	180	41.7%	9.4%	4.4%	15.6%	43.9%	20.6%	12.8%	58.3%
	50歳代	186	46.8%	14.5%	9.1%	12.9%	47.3%	16.1%	17.2%	37.1%
	60歳代	208	49.0%	13.5%	16.3%	15.4%	46.6%	21.2%	17.8%	26.9%
	70歳以上	224	62.9%	19.6%	11.6%	16.5%	42.0%	24.1%	10.7%	11.2%

性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別でみると、30歳未満から40歳代は「インターネット」、50歳代は「テレビ・ラジオ」、60歳代から70歳以上は「市の広報誌」が最も多くなっている。

(2) 人権に関する講演会や研修会について

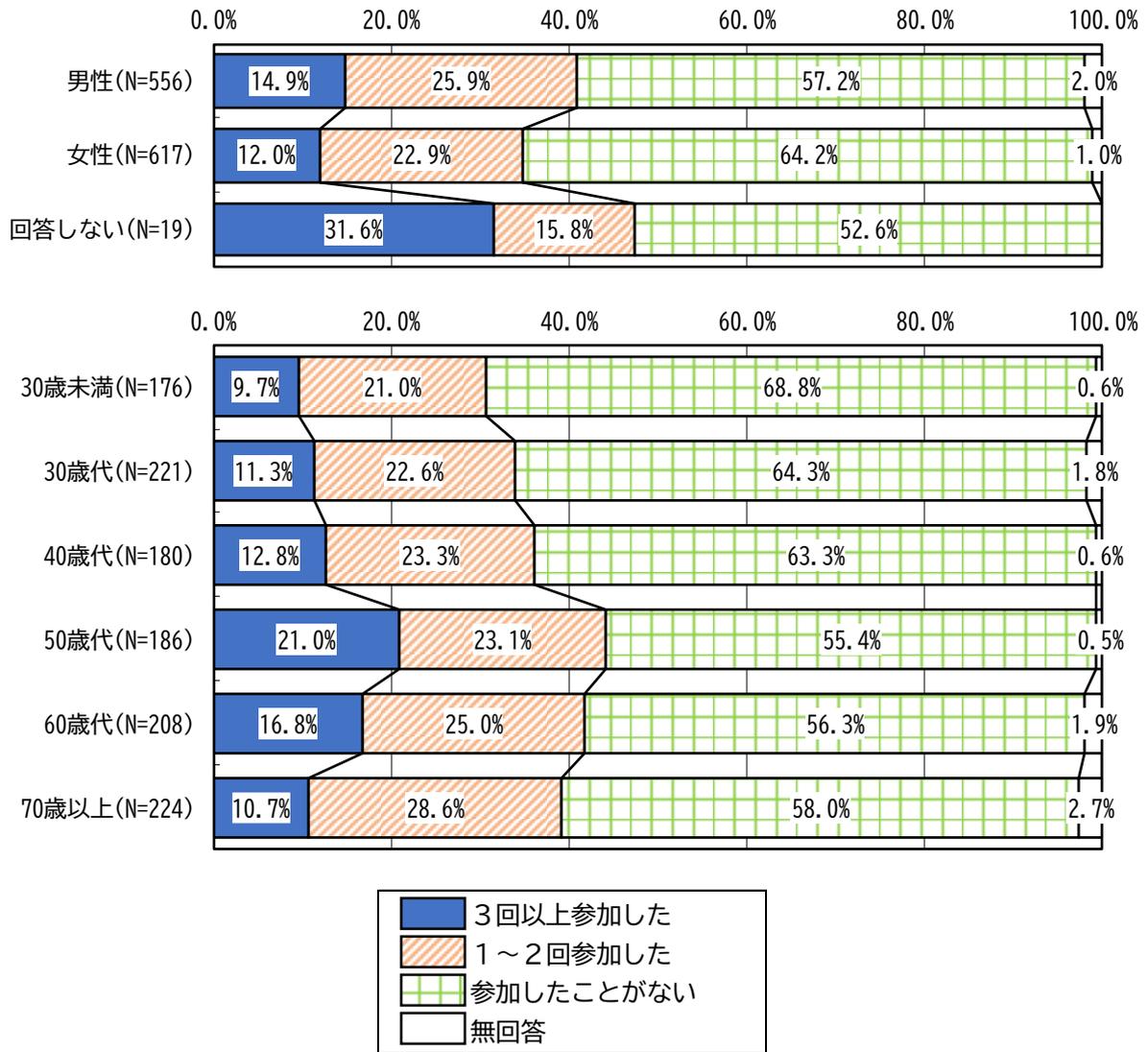
問 33(1) あなたは、過去5年の間に、人権に関する講演会や研修会などにどの程度参加しましたか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)



人権に関する講演会や研修会への参加状況についてみると、「参加したことがない」(60.8%)が多く、次いで「1～2回参加した」(24.2%)、「3回以上参加した」(13.6%)となっている。

前回の調査結果と比べると、「参加したことがない」が19.6ポイント高く、「3回以上参加した」と「1～2回参加した」を合わせた「参加した」が16.7ポイント低くなっている。

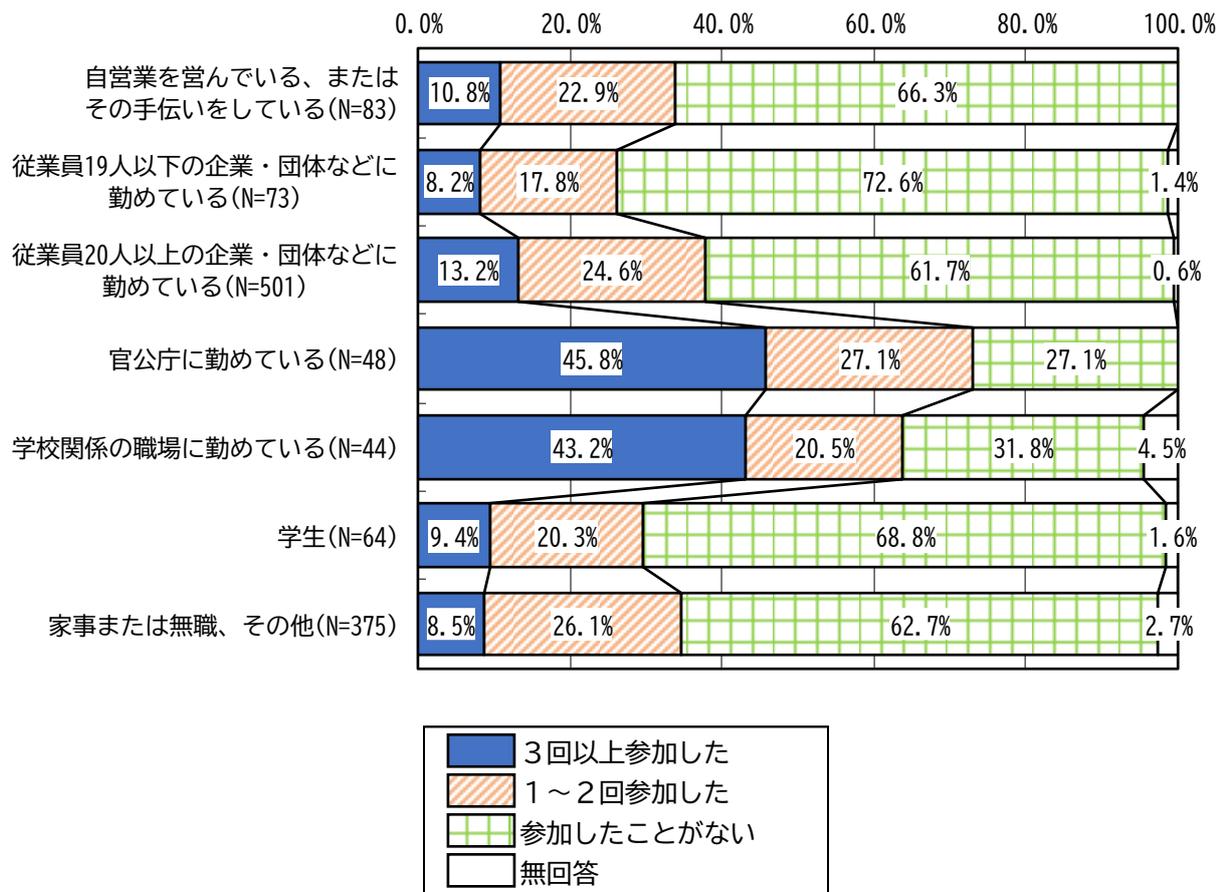
図 人権に関する講演会や研修会への参加回数—性別・年齢別



性別で見ると、「参加したことがない」は女性の方が7.0ポイント高くなっている。

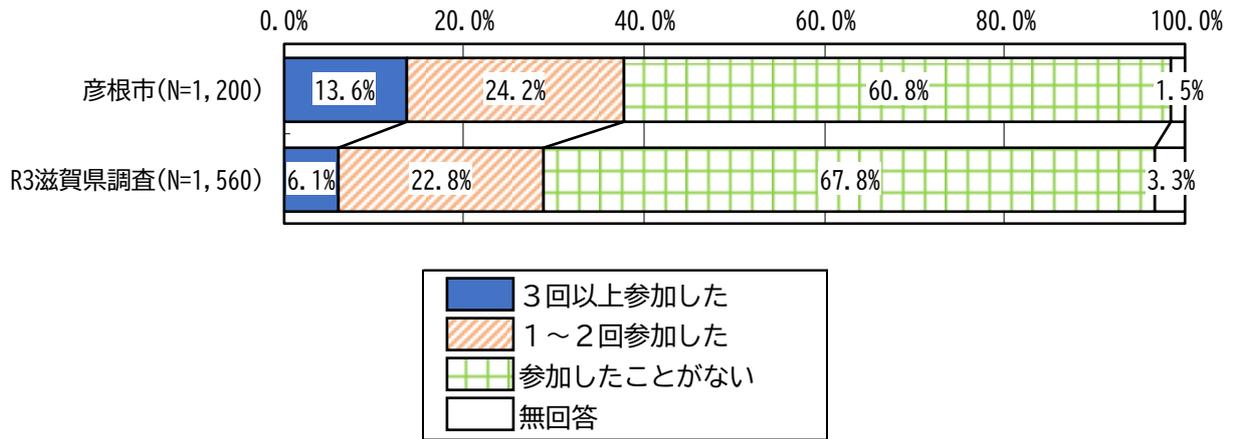
年齢別で見ると、すべての年代で「参加したことがない」が5割以上で、その中でも30歳未満が68.8%と最も多くなっている。

図 人権に関する講演会や研修会への参加回数—職業別



職業別でみると、“参加した”は公官庁に勤めているが72.9%と最も多く、従業員19人以下の企業・団体などに勤めているが26.0%と最も少なくなっている。

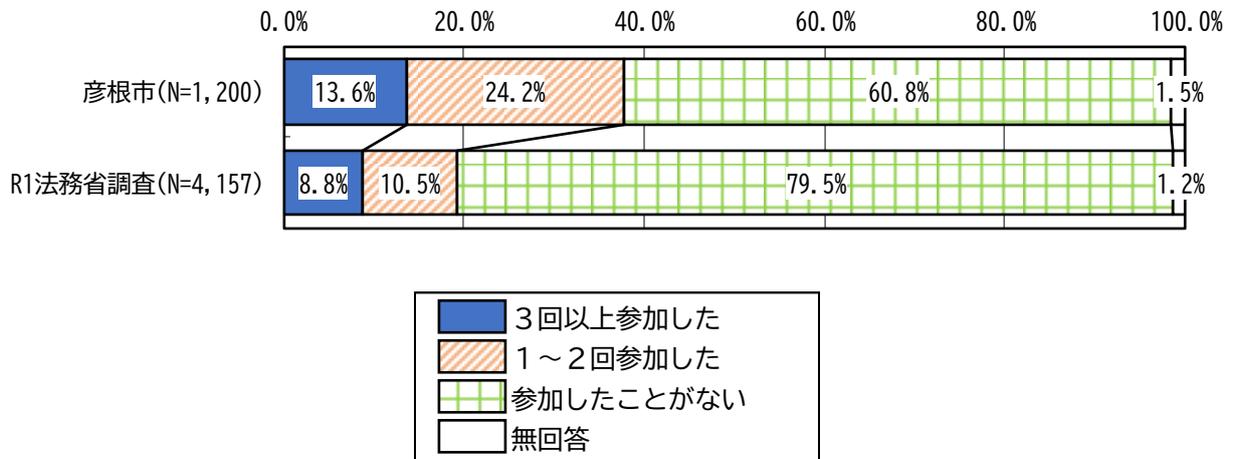
図 人権に関する講演会や研修会への参加回数—滋賀県との比較



※R3滋賀県調査では対象期間を「過去3年ぐらいの間」として質問されていたところ、当調査では「過去5年の間」としたため、結果の傾向が異なる場合がある。

R 3 滋賀県調査結果と比べると、“参加した”が 8.9 ポイント高く、“参加したことがない”が 7.0 ポイント低くなっている。

図 人権に関する講演会や研修会への参加回数—法務省調査との比較

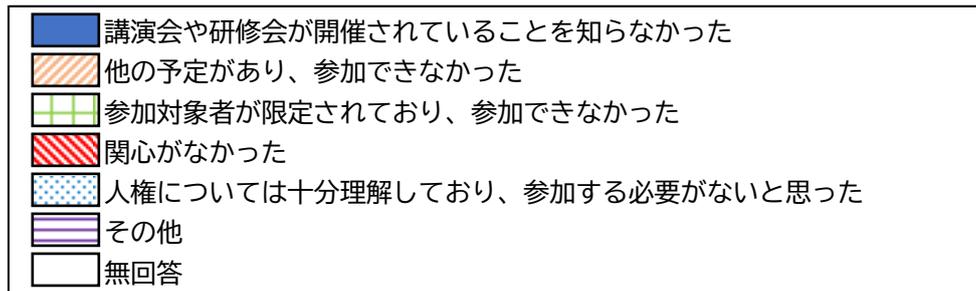
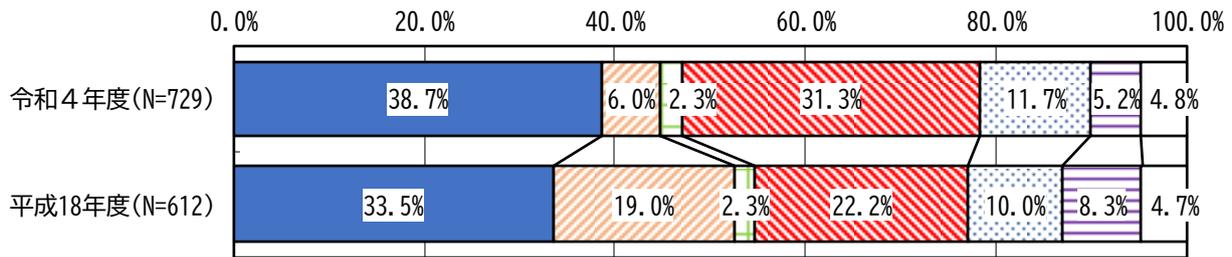


※R1法務省調査では対象講演会等を「部落差別の問題についての」講演会等に限定して質問されていたところ、当調査では「人権に関する」講演会等としたため、結果の傾向が異なる場合がある。

R 1 法務省調査結果と比べると、“参加した”が 18.5 ポイント高く、“参加したことがない”が 18.7 ポイント低くなっている。

問 33(2)(1)で「3. 参加したことがない」とお答えになった方におうかがいします。参加しなかったのはなぜですか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)

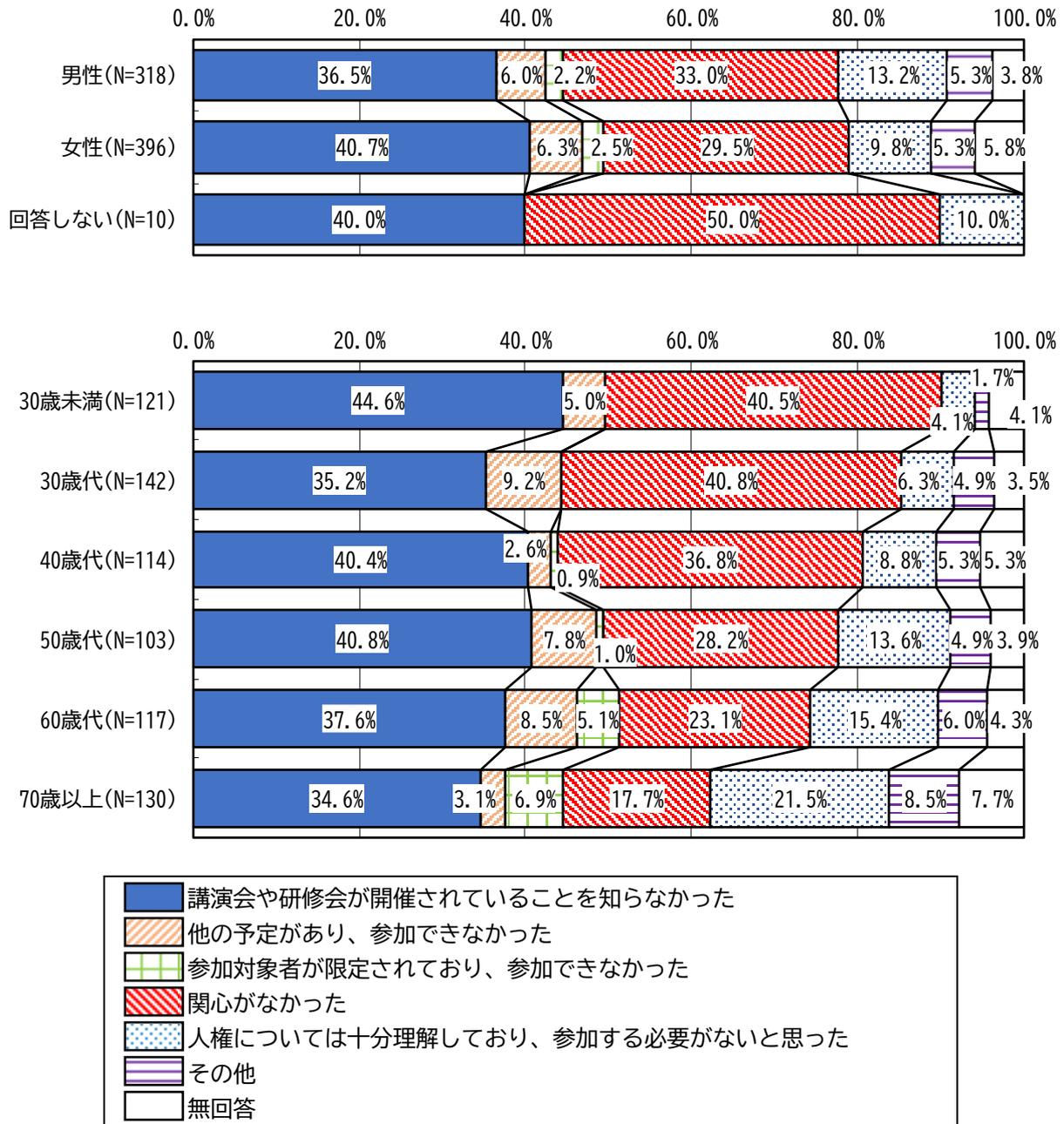
図 参加しなかった理由



人権に関する講演会や研修会に参加しなかった理由についてみると、「講演会や研修会が開催されていることを知らなかった」(38.7%)が最も多く、次いで「関心がなかった」(31.3%)、「人権については十分理解しており、参加する必要がないと思った」(11.7%)となっている。

前回の調査結果と比べると、「講演会や研修会が開催されていることを知らなかった」が5.2ポイント、「関心がなかった」が9.1ポイント高く、「他の予定があり、参加できなかった」が13.0ポイント低くなっている。

図 参加しなかった理由—性別・年齢別



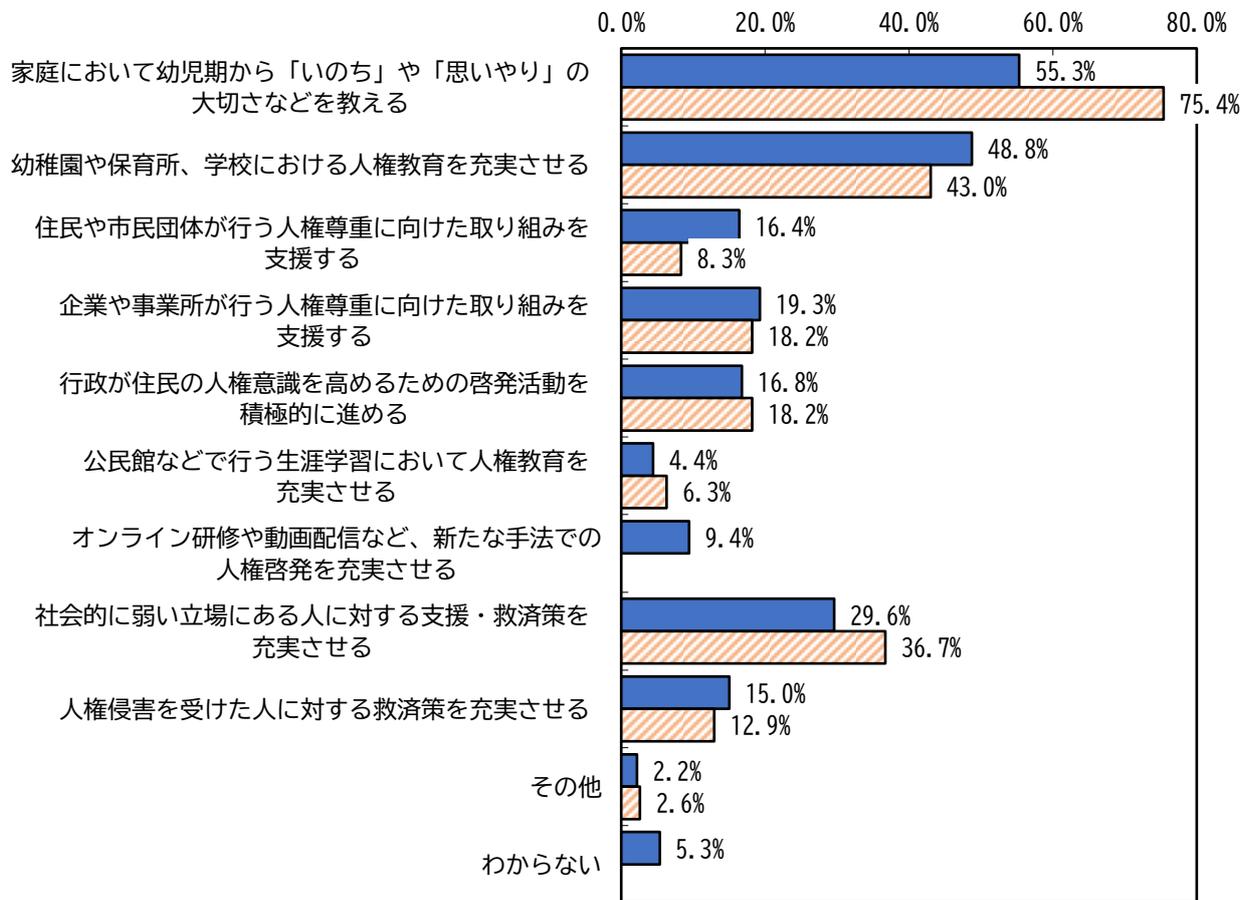
性別でみると、男女による大きな差異は見られない。

年齢別でみると、30歳未満と40歳代から70歳以上は「講演会や研修会が開催されていることを知らなかった」、30歳代は「関心がなかった」が最も多くなっている。

### (3) 人権が尊重されるまちをつくるために必要な取り組み

問 34 あなたは、人権が尊重されるまちをつくるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）

図 人権が尊重されるまちをつくるために必要な取り組み



■ 令和4年度(N=1,200)    ■ 平成18年度(N=1,486)

人権が尊重されるまちをつくるために必要な取り組みについてみると、「家庭において幼児期から『いのち』や『思いやり』の大切さなどを教える」（55.3%）が最も多く、次いで「幼稚園や保育所、学校における人権教育を充実させる」（48.8%）、「社会的に弱い立場にある人に対する支援・救済策を充実させる」（29.6%）となっている。

前回の調査結果と比べると、選択肢数等が異なるので単純に比較はできないが、上位3項目の順位は同じ結果となっている。

表 人権が尊重されるまちをつくるために必要な取り組み—性別・年齢別

	有効回答数	「家庭において『いのち』や『思いやり』の大切さを教える」	「幼稚園や保育所、学校における人権教育を充実させる」	「市民団体の活動や市民の啓発活動」	「市民の権利を尊重する」	「企業の事業所が取り組む」	「行政が住民の権利意識を高めるための啓発活動を積極的に進める」	「市民館などで行う公民館などでの教育を充実させる」
全体	1,200	55.3%	48.8%	16.4%	19.3%	16.8%	4.4%	
性別	男性	556	51.6%	46.4%	17.8%	21.4%	19.6%	3.8%
	女性	617	59.0%	51.5%	15.1%	17.8%	14.6%	5.0%
	回答しない	19	42.1%	31.6%	15.8%	5.3%	10.5%	5.3%
年齢	30歳未満	176	44.3%	54.5%	18.2%	21.0%	11.9%	4.0%
	30歳代	221	48.0%	52.0%	11.3%	16.3%	14.9%	2.3%
	40歳代	180	56.7%	52.2%	10.6%	22.8%	12.8%	2.2%
	50歳代	186	64.0%	46.2%	15.6%	22.0%	15.6%	3.2%
	60歳代	208	59.6%	47.6%	18.3%	20.2%	17.8%	4.8%
	70歳以上	224	58.9%	41.1%	23.2%	14.7%	25.9%	9.4%
	有効回答数	充手法で人の権利啓発を	オンライン研修や動画	社会弱者に立ち場	実に対策をた	その他	わからない	
全体	1,200	9.4%	29.6%	15.0%	2.2%	5.3%		
性別	男性	556	9.9%	26.6%	14.7%	2.7%	7.0%	
	女性	617	8.8%	31.9%	15.6%	1.6%	3.2%	
	回答しない	19	21.1%	31.6%	5.3%	5.3%	21.1%	
年齢	30歳未満	176	10.8%	30.1%	19.3%	1.7%	6.3%	
	30歳代	221	13.6%	31.7%	19.9%	5.4%	7.2%	
	40歳代	180	11.1%	27.2%	15.6%	1.7%	7.8%	
	50歳代	186	10.2%	28.5%	15.1%	1.1%	2.2%	
	60歳代	208	6.7%	28.4%	13.9%	1.9%	4.3%	
	70歳以上	224	4.9%	30.8%	7.6%	0.9%	4.5%	

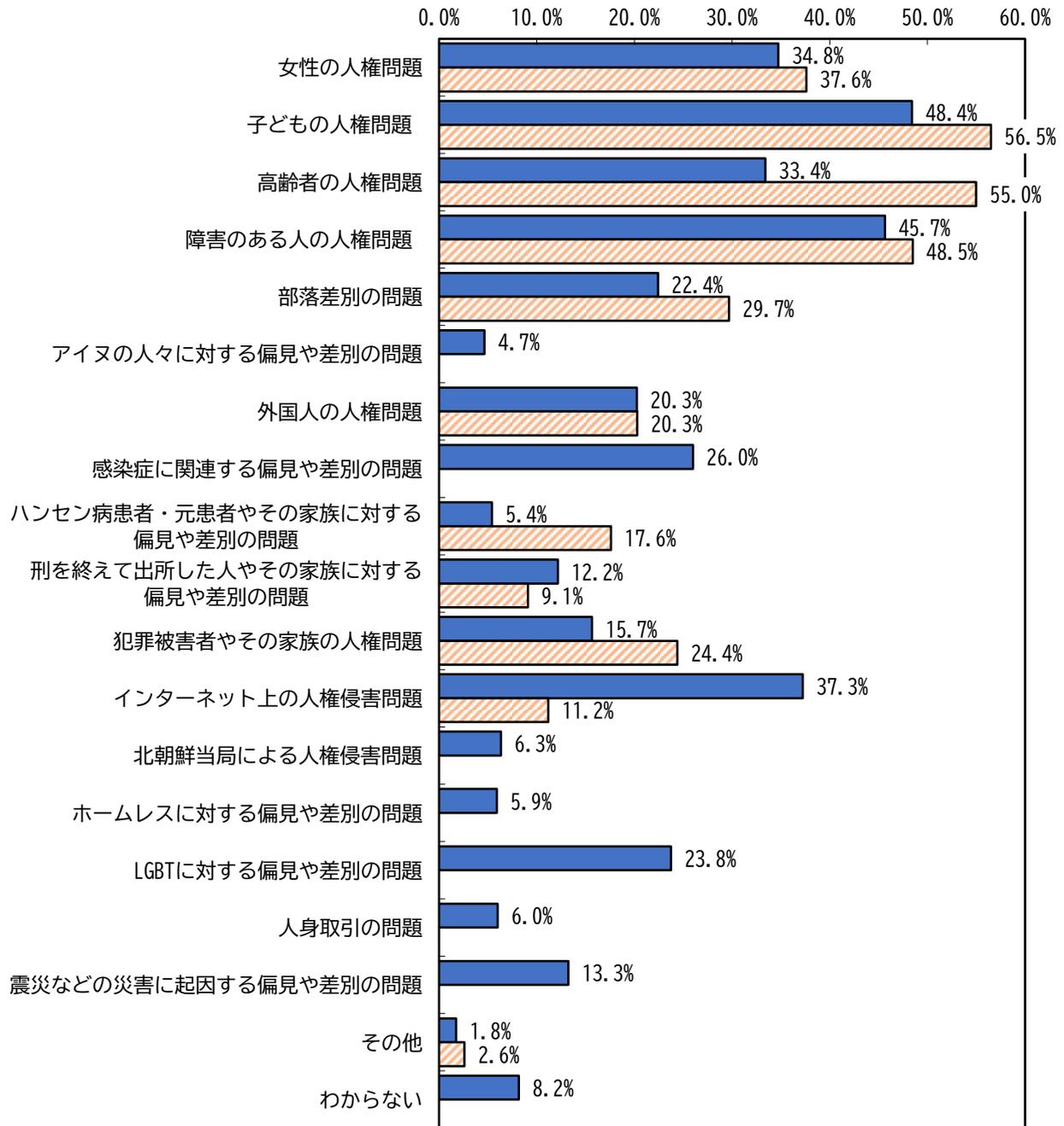
性別でみると、「家庭において幼児期から『いのち』や『思いやり』の大切さを教える」は女性の方が 7.4 ポイント高く、「行政が住民の人権意識を高めるための啓発活動を積極的に進める」は男性の方が 5.0 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、30 歳未満から 30 歳代は「幼稚園や保育所、学校における人権教育を充実させる」、40 歳代から 70 歳以上は「家庭において幼児期から『いのち』や『思いやり』の大切さを教える」が最も多くなっている。

(4) 今後特に取り組むべき人権問題

問 35 彦根市ではこれまでからさまざまな人権問題について、その解決のための教育や啓発に取り組んでいます。今後、どのような問題についてこれまで以上に教育や啓発をすべきだと思いますか。特に取り組むべきだと思うものに○をつけてください。(いくつでも)

図 今後特に取り組むべき人権問題



■ 令和4年度(N=1,200)    ■ 平成18年度(N=1,486)

彦根市が教育や啓発に取り組むべき問題についてみると、「子どもの人権問題」（48.4%）が最も多く、次いで「障害のある人の人権問題」（45.7%）、「インターネット上の人権侵害問題」（37.3%）となっている。

前回の調査結果と比べると、「インターネット上の人権侵害問題」が 26.1 ポイント高く、「高齢者の人権問題」が 21.6 ポイント、「ハンセン病患者・元患者やその家族に対する偏見や差別の問題」が 12.2 ポイント低くなっている。

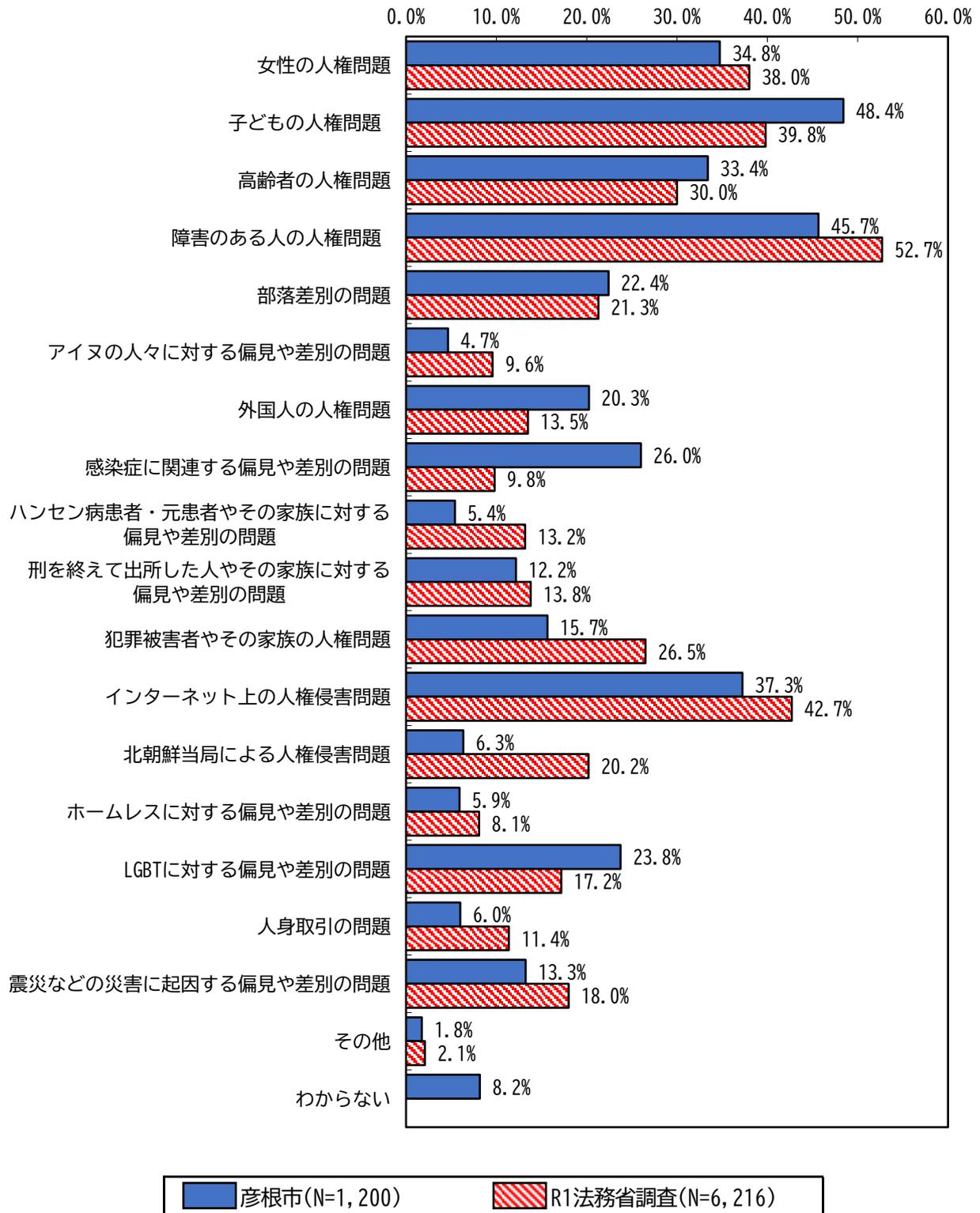
表 今後特に取り組むべき人権問題—性別・年齢別

		有効回答数	女性の人権問題	子どもの人権問題	高齢者の人権問題	障害のある人の人権問題	部落差別の問題	アイヌの差別の問題	外国人の人権問題	感染症に関する偏見	ハンセン病患者・元患者に対する偏見	見やその家族に対する偏見	刑を終えて出所した人
全体		1,200	34.8%	48.4%	33.4%	45.7%	22.4%	4.7%	20.3%	26.0%	5.4%	12.2%	
性別	男性	556	28.2%	45.3%	31.1%	44.6%	24.8%	4.9%	22.8%	21.9%	5.9%	9.9%	
	女性	617	40.2%	51.1%	36.0%	47.3%	20.4%	4.5%	17.8%	30.3%	5.2%	14.1%	
	回答しない	19	42.1%	47.4%	10.5%	26.3%	15.8%	5.3%	26.3%	15.8%	0.0%	15.8%	
年齢	30歳未満	176	35.2%	45.5%	21.6%	40.3%	23.9%	4.0%	22.7%	25.6%	5.7%	10.8%	
	30歳代	221	39.8%	58.4%	19.9%	34.8%	14.5%	3.6%	21.7%	26.2%	5.0%	10.0%	
	40歳代	180	33.3%	46.1%	28.9%	45.0%	20.0%	4.4%	20.0%	20.6%	4.4%	8.9%	
	50歳代	186	32.8%	46.2%	36.0%	42.5%	20.4%	4.8%	17.2%	24.2%	3.2%	10.8%	
	60歳代	208	35.1%	48.1%	40.9%	51.4%	26.4%	5.3%	23.1%	28.4%	6.3%	13.0%	
	70歳以上	224	31.3%	44.6%	50.4%	58.9%	29.0%	5.8%	17.4%	30.4%	7.6%	18.8%	
		有効回答数	題の犯 家罪被 族被害 の害者 や権問 そ	題上イン のンタ 権ーネ 害ツ 問ト	る北 人朝 権鮮 侵当 害局 問に 題よ	のすホ 問るー 題偏ム 見レ やス 差に 別対	問るL 題偏G 見B やT 差に 別の す	人身 取引 の問題	やに震 差起災 別因な のすの 問題偏 見書	そ の 他	わ か ら な い		
全体		1,200	15.7%	37.3%	6.3%	5.9%	23.8%	6.0%	13.3%	1.8%	8.2%		
性別	男性	556	15.1%	36.5%	6.7%	5.0%	22.1%	6.3%	11.5%	2.2%	9.4%		
	女性	617	16.7%	38.2%	6.0%	6.2%	25.1%	5.8%	14.6%	1.3%	6.8%		
	回答しない	19	5.3%	26.3%	5.3%	15.8%	36.8%	5.3%	21.1%	5.3%	15.8%		
年齢	30歳未満	176	15.3%	39.2%	4.0%	6.8%	32.4%	5.7%	12.5%	0.6%	6.8%		
	30歳代	221	11.8%	37.6%	5.0%	5.4%	25.3%	8.1%	11.8%	2.3%	7.7%		
	40歳代	180	12.8%	43.3%	5.0%	5.0%	22.2%	4.4%	10.6%	1.7%	11.1%		
	50歳代	186	19.4%	41.4%	5.9%	3.8%	21.5%	4.8%	10.8%	3.2%	7.5%		
	60歳代	208	18.3%	35.1%	7.2%	7.7%	26.0%	5.8%	12.5%	1.0%	9.6%		
	70歳以上	224	17.0%	29.0%	10.3%	6.3%	17.0%	6.7%	20.1%	1.8%	6.7%		

性別でみると、「女性の人権問題」は女性の方が 12.0 ポイント高くなっている。

年齢別でみると、30 歳未満から 50 歳代は「子どもの人権問題」、60 歳代は「障害のある人の人権問題」、70 歳以上は「高齢者の人権問題」が最も多くなっている。

図 今後特に取り組むべき人権問題—法務省調査との比較



R 1 法務省調査結果と比べると、「感染症に関連する偏見や差別の問題」が 16.2 ポイント高く、「犯罪被害者やその家族の人権問題」が 10.8 ポイント、「北朝鮮当局による人権侵害問題」が 13.9 ポイント低くなっている。

### 13 自由記述

人権に関する意見や要望について、自由記述として寄せられた意見や要望等は全体で319件となっており、その内容を、人権全般、性別、子ども、高齢者、障害者、外国人、新たな人権問題、部落差別、人権啓発・教育、行政への意見、アンケートについて分類した。件数が多い項目と、その意見を抜粋する。

分類	記述概要
人権全般	1-1 望む社会像
	より住みやすい人権尊重のまちになることを望む
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 平和でやさしい人、やさしい街になるよう市民が協力し彦根市を見守りたい。</li> <li>● 誰もが嫌な気持ちになることのない社会になるよう、一人ひとりが心がけられる彦根にしたい。</li> </ul>
	1-2 人権問題の解決に向けて必要なこと
	お互いを思いやり、尊重し合うことが重要である
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お互いに尊重し合えるようになってほしい。</li> <li>● 基本的人権は最も大切、重要で守らねばならないものです。相手を思いやる気持ちがあれば、人権の問題は良くなると思います。</li> <li>● 一人一人が自分たちの意見をしっかり発言できて、その意見が尊重されること。そうしたことが当たり前に見える社会にしていけないと思います。</li> <li>● 自分と違うもの・ことを受けとめ、認められる人間性を、それぞれの人が育つ環境の中で身につけることが大切だと思う。</li> <li>● 人権を侵害しないように、多様性を受け入れる気持ちを持てるように、啓発が活発に行われることは、効果があると思う。</li> </ul>
子ども	1-3 人権問題に対する考え
	人権問題は難しく、簡単には解決しないと思う
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● いろんな差別があるんだと、このアンケートで知りました。でも、そういう人が周りにいたり、当事者じゃないと、何が特に問題なのかすら分からないと実感しました。</li> <li>● 人は平等であってほしいが、昔からの根付いたものが消えるのは簡単ではないと思う。</li> <li>● 難しい問題です。なかなか解決しない。答えるのも難しかった。</li> <li>● 差別をなくすというのは、本当に難しいことです。でも、小さな取り組みをすること、続けていくことで少しずつ社会が良い方向へ進めば良いと思います。</li> <li>● 人権はとてもデリケートな問題だと思います。</li> </ul>
	子どもへの支援を増やし、子どもの人権問題にもっと取り組んでほしい
部落差別	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 子どもが気軽に相談できたり、子どもから相談できないから気にかけてあげられる取り組みが大事だと思います。</li> </ul>
	部落差別に関する教育が、かえって差別を引き起こしている（「寝た子を起こすな」）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 寝た子を起こすような教育はしない方が良いと思う。</li> <li>● 部落差別も知らなければ、気にせず人生を送っていたいのに、と思うことはある。</li> <li>● 被差別者たちの苦しみを理解することは大切だが、新たに被差別者を生むきっかけとなるような人権学習は、どうなのだろうか。</li> </ul>

分類	記述概要
人権啓発・教育	子どもの頃からの教育が一番重要であり、もっと力を入れるべき
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小さい頃からの教育は本当に大切だと思います。</li> <li>● 一人一人の個性を大切にするような子どもへの教育を充実させること。それが、人権が尊重される街づくりにつながるのではないのでしょうか。</li> <li>● 全ての人が人権をもっているということ、それに守られ、行使できるということを小さな時から教育として教える必要性を強く感じています。</li> </ul>
	学校での人権教育を強化してほしい
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校において、人権に関する学びをしっかりと身につけて欲しい。</li> <li>● 学校教育で人権について分かりやすく教えていくことと、市のネットワークで啓発運動を根気よく伝えてください。</li> </ul>
	子どもだけでなく、大人や教育者等すべての人に人権教育を行うべき
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育の中で本当の幸せは物、金、地位ではなく心の豊かさであることを教えていく必要があります。大人がそのような社会を作ってしまったことを反省し、まず自分たちがしっかり対応していくことが大切です。</li> <li>● 子どもの頃からの教育は大切だと思うが、既に大人になった者へは職場でさまざまな人権に関する研修を行うべき。</li> <li>● 人権啓発は誰もが学ぶべき問題。どの年代の人も、必ず参加できる研修があればいいと思います。</li> </ul>
行政への意見	市民の誰もが実感できる取組を行ってほしい
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 一部の人の参加ではなく、市民の誰もが具体的に目に見えて知れたり、変わってきたなと感じる取り組みがあれば一番良いと思うが、それが何か難しい。市民全員の課題だと思う。</li> <li>● 彦根市が人権問題に対して、どのような取り組みをしているかについて知らないことが多い。市民に対して、説明やどのような取り組みをして、どのような結果が得られたのかを示して欲しい。</li> </ul>

# III 調査票

## 人権に関する市民意識調査について

### ご協力をお願い



市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、彦根市では、人権が尊重される住みよいまちづくりを進めるための基本となる「彦根市人権施策基本方針」を見直すことにしました。見直すにあたっては、市民の皆様の人権に関する考えや思いを参考にさせていただきたいと考えております。

つきましては、何かとお忙しいところ申し訳ございませんが、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

- ・あなたは、市内在住の18歳以上の方の中から無作為に選ばれた3,000人のうちのお一人です。
- ・回答は無記名でご返送いただきますので、個別の回答内容が公表されることは決してありません。日頃のお考えをそのままお答えください。

令和4年（2022年）11月

彦 根 市

#### 【ご回答にあたってのお願い】

1. 封筒のあて名のご本人が記入してください。ご本人による記入が難しい場合は、ご家族の方などがご本人から聞き取って代筆してください。
2. 特にことわり書きがない限り、すべての質問にお答えください。
3. 回答は、該当する番号に○をつけてください。質問によって、1つだけ選んでいただく場合と複数選んでいただく場合がございます。各質問に従ってお答えください。  
なお、「その他」を選ばれた場合は、（ ）に具体的な内容をご記入ください。
4. ご記入いただきましたら、同封の封筒で11月30日（水）までにご返送ください。

#### 【調査に関するお問い合わせ先】

この調査について、ご不明な点・疑問などがございましたら、下記までご連絡ください。

彦根市企画振興部 人権政策課  
〒522-8501 彦根市元町4番2号  
電話 30-6115 FAX 24-8577

**あなたご自身のことについておたずねします。**

**問1 あなたの性別は**

1. 男性
2. 女性
3. 回答しない

**問2 あなたの年齢は**

1. 18～19歳
2. 20～24歳
3. 25～29歳
4. 30～34歳
5. 35～39歳
6. 40～44歳
7. 45～49歳
8. 50～54歳
9. 55～59歳
10. 60～64歳
11. 65～69歳
12. 70～74歳
13. 75歳以上

**問3 あなたのお仕事は**

1. 自営業を営んでいる、またはその手伝いをしている
2. 従業員19人以下の企業・団体などに勤めている
3. 従業員20人以上の企業・団体などに勤めている
4. 官公庁に勤めている
5. 学校関係の職場に勤めている
6. 学生
7. 家事または無職、その他

**問4 あなたのお住まいの学区※は**

1. 城東学区
2. 城西学区
3. 城南学区
4. 平田学区
5. 城北学区
6. 佐和山学区
7. 旭森学区
8. 城陽学区
9. 若葉学区
10. 金城学区
11. 鳥居本学区
12. 河瀬学区
13. 亀山学区
14. 高宮学区
15. 稲枝東学区
16. 稲枝西学区
17. 稲枝北学区
18. わからない

※学区：ここでは小学校区を指します。彦根市では17の公立小学校があり、お住まいの地域によって子どもが通う小学校が異なります。

**人権全般についておたずねします。**

**問5 「人権」は、あなたにとってどのようなものですか。あなたの思いに最も近いものを選んで○をつけてください。**

**ア 重要であるか、ないか（いずれか1つ）**

- |                  |                  |          |
|------------------|------------------|----------|
| 1. 重要である         | 2. どちらかといえば重要である |          |
| 3. どちらかといえば重要でない | 4. 重要でない         | 5. わからない |

**イ 自分に関係があるか、ないか（いずれか1つ）**

- |                  |                  |          |
|------------------|------------------|----------|
| 1. 関係がある         | 2. どちらかといえば関係がある |          |
| 3. どちらかといえば関係がない | 4. 関係がない         | 5. わからない |

**問6 今の彦根市は「人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。あなたの思いに最も近いものを選んで○をつけてください。（いずれか1つ）**

- |                   |                 |          |
|-------------------|-----------------|----------|
| 1. そう思う           | 2. どちらかといえばそう思う |          |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そう思わない       | 5. わからない |

**問7 あなたは、次の人権に関する重要な法律を知っていますか。あてはまるものを選んで○をつけてください。（それぞれ1つ）**

**ア 部落差別※の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）**

- |          |                           |         |
|----------|---------------------------|---------|
| 1. 知っている | 2. 名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない | 3. 知らない |
|----------|---------------------------|---------|

※部落差別（同和問題）

被差別部落・同和地区などと呼ばれる地域の出身であることやそこに住んでいることを理由に、結婚を反対されたり、就職や日常生活の上でさまざまな差別を受けたりするという日本固有の人権問題です。

**イ 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）**

- |          |                           |         |
|----------|---------------------------|---------|
| 1. 知っている | 2. 名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない | 3. 知らない |
|----------|---------------------------|---------|

**ウ 本邦外出身者※に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（ハイトスピーチ解消法）**

- |          |                           |         |
|----------|---------------------------|---------|
| 1. 知っている | 2. 名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない | 3. 知らない |
|----------|---------------------------|---------|

※本邦外出身者：日本で暮らす外国人や外国にルーツをもつ人たちのこと

**人権侵害を受けた経験についておたずねします。**

**問8**

(1) あなたは、ここ5年以内で差別や人権侵害を受けたことがありますか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)

1. ある  [(2)・(3)・(4)へ]  
2. ない  [問9へ]

(2) (1)で、「1. ある」とお答えになった方におうかがいします。それは、どのような場面でしたか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いくつでも)

1. 家庭生活で  
2. 地域社会や公共の場で  
3. 学校で  
4. 職場で  
5. 行政手続きや行政の対応で  
6. 福祉・医療サービスで  
7. インターネット上で  
8. その他(具体的に: )

(3) (1)で、「1. ある」とお答えになった方におうかがいします。それは、どのような内容でしたか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いくつでも)

1. あらぬうわさ、悪口で傷つけられた  
2. 暴力をふるわれた  
3. 本来義務のないことを無理にやらされたり、やりたかったことを妨げられたりした  
4. 人種・性別など何らかの理由で差別された  
5. 仲間はずれ、いじめ、嫌がらせを受けた  
6. 家族や親せきの態度、発言で傷つけられた  
7. 行政や医療機関で不当な扱いを受けた  
8. プライバシーを侵害された  
9. セクシュアル・ハラスメント(性的な嫌がらせ)を受けた  
10. その他(具体的に: )

(4) (1)で、「1. ある」とお答えになった方におうかがいします。差別や人権侵害を受けたときに、どのような対応をされましたか。あてはまるものを選んで○をつけてください。  
(いくつでも)

- |                              |
|------------------------------|
| 1. 相手に抗議した                   |
| 2. 身近な人に相談した                 |
| 3. 弁護士に相談した                  |
| 4. 警察に相談した                   |
| 5. 法務局や人権擁護委員に相談した           |
| 6. 県や市の窓口で相談した               |
| 7. 職場や学校の相談窓口で相談した           |
| 8. 滋賀県人権センターやNPOなどの民間団体に相談した |
| 9. 何もなかった                    |
| 10. その他（具体的に： _____ )        |

問9 あなたは、家やマンションを購入したり借りたりするなど住宅を選ぶ際に、価格や立地などが希望にあっても、次のような条件の物件の場合、避けると思いますか。あてはまるものを選んで○をつけてください。（「ア～エ」それぞれ1つ）

	避けると思う	どちらかといえば避けると思う	どちらかといえば避けないと思う	避けないと思う
ア 近隣に被差別部落（同和地区）がある	1	2	3	4
イ 近隣に低所得者など、生活が困難な人が多く住んでいる	1	2	3	4
ウ 近隣に外国人が多く住んでいる	1	2	3	4
エ 近くに精神科病院や障害者施設がある	1	2	3	4

**性別に関する人権問題についておたずねします。**

**問10 男女ともに性別で固定化する考え方は依然として根強く、真の男女平等の達成には引き続きの努力が必要です。性別に関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）**

1. 「男は仕事、女は家事・育児」という男女の固定的な役割分担意識がある
2. 採用・昇進・給与などで男女の待遇に違いがある
3. ドメスティック・バイオレンス（配偶者や恋人などからの暴力・暴言など）がある
4. セクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）がある
5. マタニティー・ハラスメント（妊娠・出産した女性に対する職場での嫌がらせ）がある
6. ストーカー行為や痴漢行為がある
7. 「援助交際」を含む買春や売春がある
8. テレビやインターネットなどで、わいせつな情報が氾らんしている
9. 商品の広告などで、内容に関係なく水着姿・裸体などを使用している
10. 地域の慣習やしきたりに女性の参加制限がある
11. 社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていない
12. 女性は男性に比べて、議員や会社の役員・管理職、自治会長など決定権を持つ立場につくことが少ない
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
14. わからない

**問11 性別に関する人権問題を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）**

1. 性差別のない地域づくり（男女共同参画）を進めるための広報や啓発を充実する
2. 政策、方針を決める審議会などの委員にクォータ制※を導入し、女性を積極的に登用する
3. 学校で、男女平等教育、性教育を進める
4. 職場で、育児・介護休業制度などを充実させ、性別にかかわらず誰もが働きやすい環境を整えるよう、事業所に対し指導する
5. 職場で、男女の採用や賃金、昇格での格差や、性別による仕事の役割分担などを改めるよう、事業所に対し指導する
6. 性別にかかわらず誰もが仕事と家庭生活を両立できるよう、家事、保育、介護に対する支援を充実する
7. 女性が自ら能力を発揮できるような学習や研修の機会を増やす
8. 女性のための各種相談事業を実施する
9. 性犯罪の取締りや罰則を強化する
10. 紙面や広告などで情報を発信する際に内容に配慮する
11. 地域における男女不平等だと考えられる慣習やしきたりの見直しを行う
12. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
13. わからない

※クォータ制：この調査では、「全委員数のうち一定数をあらかじめ女性に割り当てること」をいいます。

**子どもの人権についておたずねします。**

**問12 子どもに関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）**

1. 親（保護者・養育者）が子どもに暴力をふるったり、子育てを放棄したりする
2. 学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視する
3. 子ども間での暴力や仲間はずれ、悪口や無視などのいじめがある
4. 「子どもだから」という理由で、大人が子どものプライバシーを尊重しない
5. 成績や学歴だけで子どもを判断する
6. 教師による体罰や言葉の暴力がある
7. テレビやインターネットなどで、子どもにとって有害な情報が氾らんしている
8. 児童買春や児童ポルノが横行している
9. 家庭の経済的事情により、子どもの教育環境に格差が生じている
10. 子どもが、大人に代わって家族などの介護や世話をしていることで、学校生活や自らの成長などに影響を受ける
11. LGBT※を始めとする性の多様性についての教育が十分でない
12. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
13. わからない

※LGBT：レズビアン（Lesbian、女性で女性が好きな人）、ゲイ（Gay、男性で男性が好きな人）、バイセクシュアル（Bisexual、同性も異性も好きになる人）およびトランスジェンダー（Transgender、身体の性と心の性が一致せず、身体の性に違和感をもつ人）の頭文字を組み合わせたもので、性的少数者（セクシュアル・マイノリティ）を表す言葉の一つとして使われています。  
これら以外にも性的指向・性自認のあり方は多様であり、LGBTQ、LGBT+といった表現も用いられることがあります。この調査では、LGBTという表現を用いることとしています。

**問13 子どもの人権が尊重されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）**

1. 子どものための各種相談事業を充実する
2. 児童虐待の防止や予防策を充実する
3. 大人に対し、子どもが独立した人格を持っているという理解が深まるような啓発をする
4. 他人に対する思いやりの心をはぐくむ教育を行う
5. 子どもが安心してくつろげる家庭や居場所をつくる
6. 子どもの個性を尊重した教育を行う
7. 教員の人権意識を高める
8. 子育てについての情報提供や電話相談などの支援策を充実する
9. 紙面や広告などで情報を発信する際に内容に配慮する

※次ページに、選択肢「10～13」が続いています。

10. 児童虐待や性犯罪など、子どもが被害者となる犯罪の取り締まりや罰則を強化する
11. LGBTを始めとする性の多様性についての教育を進める
12. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
13. わからない

**問14 児童虐待をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）**

1. 児童虐待に関する広報や啓発活動を充実する
2. 早期発見を行うための乳幼児健診や訪問指導を徹底する
3. 保育サービスや子育て支援サービスを充実する
4. 児童虐待を防ぐための機関や組織の充実を図り、それぞれの協力や連携を強める
5. 地域で子どもを見守る活動を充実する
6. 親同士が相談し合える場所を充実する
7. 専門的な相談ができる窓口を充実する
8. 被害を受けた子どもを保護する場所を充実する
9. 虐待した保護者への指導や回復への支援を充実する
10. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
11. わからない

**問15 いじめの予防・早期発見・早期対応のためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）**

1. 家庭において善悪の判断や正義感、思いやりや他人を助ける勇気などを身に付ける教育を行う
2. 子どもの心の居場所となる家庭をつくるため、家族みんなが子育てに参加し、また、十分にコミュニケーションをとるようにする
3. 住民の連帯意識を高め、地域の教育力を高める
4. 学校において、子ども一人ひとりの個性、特性を伸ばす教育を推進する
5. 幼児期から、命の大切さや生きることの素晴らしさ、喜びなどをはぐくむ心の教育を推進する
6. 社会全体に「いじめは絶対許されない」という意識の徹底を図る
7. 異質なものを排除する社会の考え方を改める
8. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
9. わからない

**高齢者の人権についておたずねします。**

**問16 高齢者に関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)**

1. 経済的に自立が難しい
2. 働ける場所や働く能力を発揮する機会が少ない
3. 悪質商法や財産侵害などの犯罪が起こっている
4. 保健や福祉、医療などのサービスが十分でない
5. 高齢者の意見や行動を尊重しない
6. 高齢者に対する虐待がある
7. 道路の段差や駅の階段など、外出時に不便を伴う
8. 利用できる移動手段が少ない
9. 情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りない
10. 社会参加のためのボランティア活動や地域活動などを通じて能力を発揮する機会が少ない
11. アパートなどへの入居を拒否される
12. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
13. わからない

**問17 高齢者の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)**

1. 保健、医療サービスを充実する
2. 在宅の福祉サービスや利用施設を充実する
3. 建物や公共交通機関のバリアフリーを進める
4. 余暇を楽しめる地域環境を整備する
5. 働く場を確保する
6. 高齢者が被害者となる犯罪の取り締まりや罰則を強化する
7. 高齢者を思いやる意識を高める教育、啓発を行う
8. 高齢者和其他の世代との交流を進める
9. 高齢者を対象とした各種相談、情報提供事業を進める
10. 判断能力の低下した場合に備えて、後見人が財産や身上を守るなどのサービスを充実する
11. 高齢者の介護を地域全体で支える気運を一層高める
12. 運転免許返納後の移動手段を確保する
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
14. わからない

**障害者の人権についておたずねします。**

**問18 障害のある人に関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）**

1. 障害のある人をじろじろ見たり、避けたりする
2. 障害のある人の意見や行動を尊重しない
3. 障害のある人に対して差別的な発言や行動をする
4. 障害のある人を受け入れるための教育体制が十分でない
5. 結婚について周囲が反対する
6. 働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇が十分でない
7. 経済的に自立が難しい
8. 道路の段差や駅の階段など、外出時に不便を伴う
9. 利用できる移動手段が少ない
10. スポーツや文化活動、地域活動に気軽に参加できない
11. アパートなどへの入居を拒否される
12. 障害のある人の生活を支援する福祉サービスが十分でない
13. 情報を障害のある人にわかりやすく伝えるための配慮が足りない
14. 悪質商法や財産侵害などの犯罪が起きている
15. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
16. わからない

**問19 障害のある人の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）**

1. 収入の安定、向上を図る
2. 医療やリハビリテーションを充実する
3. 障害のある人の教育を充実する
4. 企業での雇用など働く場を広げる
5. 在宅の福祉サービスや利用施設を充実する
6. 建物や公共交通機関のバリアフリーを進める
7. 移動手段を確保する
8. スポーツや文化活動、地域活動に参加しやすくする
9. 障害のある人もない人も、互いに交流できる機会を積極的に設ける
10. 必要な情報を簡単に入手し、本人の意思に基づいて生活できるよう支援する
11. 財産管理も含めた障害のある人に対する各種相談事業を充実する
12. 障害のある人に対する正しい理解と認識が深められるよう、啓発活動を進める
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）
14. わからない

**外国人の人権についておたずねします。**

**問20 外国人に関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)**

1. 外国人をじろじろ見たり、避けたりする
2. 外国人に対して差別的な発言や行動がある
3. 情報を外国人にわかりやすく伝えるための配慮が足りない
4. 働ける場所や働く能力を発揮する機会が少ない
5. 就職や仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれている
6. 技能実習生に対して、暴行やパワー・ハラスメントといった問題が生じている
7. 外国人の子どもに対して、その子に応じた十分な教育が行われていない
8. 職場や学校で、嫌がらせやいじめがある
9. 外国人の意見を聞く場など行政への参画機会が少ない
10. アパートなどへの入居を拒否される
11. 地域社会の受け入れが十分でない
12. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設の利用を拒否される
13. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
14. わからない

**問21 外国人の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)**

1. 外国人のための各種相談事業を推進する
2. 日常生活に必要な情報を外国語により提供する
3. 情報誌やインターネットなど、さまざまな手段で情報を提供する
4. 日本語教室などにより、日本の言葉や習慣に対する外国人の理解を深める
5. 公共機関における通訳の配置など、通訳制度を充実する
6. 外国の文化や習慣、伝統についての理解を深めるための教育や啓発を進める
7. 外国人の子どもがきちんとした教育を受けられるよう体制を整える
8. 地域活動やイベントを開催し、外国人との交流を図る
9. 外国人の地方参政権や行政への参画を促進する
10. 紙面や広告などで情報を発信する際に内容に配慮する
11. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
12. わからない

**問22** あなたは、ヘイトスピーチ※についてどう思いますか。あなたの思いに最も近いものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)

1. 許してはいけないことだと思う
2. よくないことだと思う
3. 特に何とも思わない
4. 理解できるところもある
5. その他(具体的に: )
6. わからない

※ヘイトスピーチ：日本以外の特定の国の出身者であることまたはその子孫であることのみを理由として、日本社会から排除しようとする不当な差別的言動のことを指します。(ヘイトスピーチ解消法第2条参照)

**LGBT※に関する人権問題についておたずねします。**

**問23** LGBTの方に関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

1. さまざまな性のあり方に関する理解や認識が十分でない
2. 職場や学校などで嫌がらせやいじめがある
3. 就職・職場で不利な扱いをされる
4. 差別的な言動をされる
5. じろじろ見られたり、避けられたりする
6. 宿泊施設、店舗などへの入店や施設の利用を拒否される
7. アパートなどへの入居を拒否される
8. 本人の了解を得ず、その人の性的指向や性自認を第三者に明らかにする行為(アウティング)が行われる
9. その他(具体的に: )
10. わからない

※LGBT：6ページ参照

**問24 LGBTの方の人権が尊重されるためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）**

1. 彦根市パートナーシップ宣誓制度※で利用できるサービスを拡充する
2. LGBTのための相談事業を推進する
3. LGBTに関する正しい理解を促すための講座や研修会を開催する
4. 啓発資料を作成する
5. ホームページや広報などで情報発信する
6. 行政や企業で窓口対応する職員に対して研修・教育をする
7. LGBTに対する不当な差別を禁止する規定（条例など）を整備する
8. トランスジェンダーに配慮した設備（トイレ・更衣室など）の設置を進める
9. 福利厚生などの適用を認めるよう事業所に求める
10. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
11. わからない

※彦根市パートナーシップ宣誓制度：

戸籍上の性別にとらわれず、一方または双方が性的少数者（セクシャル・マイリティ）である二人が、日常生活においてお互いを人生のパートナーとして、相互に責任を持って協力し合い、継続的に共同生活を行っている、または継続的に共同生活を行う約束をした関係であることを宣誓した事実に対して、市が証明する制度です。

**感染症患者に関する人権問題についておたずねします。**

**問25 近年、新型コロナウイルス感染症をめぐる人権侵害が問題となりましたが、感染症に関することで、人権上問題があるのはどのようなことだと思いますか。特に問題と思われるものを選んで○をつけてください。（3つまで）**

1. 感染者やその家族などに対して差別的な言動・いじめなどが行われる
2. 治療に当たる医療従事者に対して差別的な言動が行われる
3. 社会生活の維持に欠かせない、いわゆる「エッセンシャルワーカー」の人に対して差別的な言動が行われる
4. 集団感染が発生した施設などに対して誹謗中傷が行われる
5. インターネットやSNS上で、誹謗中傷やデマが流される
6. 学校や職場、地域などの中で悪質なうわさやデマが流される
7. 感染者やその家族などの個人情報インターネット上に流される
8. 行政からの外出や営業自粛の呼びかけに応じない個人や店舗などに対して嫌がらせが行われる
9. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
10. わからない



**部落差別※についておたずねします。**

**問27 あなたが、部落差別を知ったきっかけは何ですか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)**

1. 家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた
2. 親戚の人から聞いた
3. 近所の人から聞いた
4. 職場の人から聞いた
5. 友だちから聞いた
6. 学校の授業で教わった
7. テレビ・ラジオ・新聞・本などで知った
8. インターネットで知った
9. 部落差別に関する集会や研修会などで知った
10. 県や市町の広報誌や冊子などで知った
11. 部落差別は知っているが、きっかけは覚えていない
12. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
13. このアンケートで初めて知った—————☞〔問32へ〕

※部落差別：2ページ参照

**問28**

**(1) あなたは、インターネット上で部落差別に関する人権侵害事例を見たことがありますか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)**

1. インターネットを利用したことがない
  2. インターネットを利用しているが、見たことがない
  3. 見たことがある—————☞〔(2)へ〕
- } —————☞〔問29へ〕

**(2) (1)で「3. 見たことがある」とお答えになった方におうかがいします。どのような内容のものを見ましたか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いくつでも)**

1. 個人を名指した悪口
2. 個人を名指ししない、集団に対する悪口
3. 被差別部落名の公表
4. 差別の呼びかけ
5. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )

**問29** あなたは、現在でも部落差別があると思いますか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)

- |           |             |          |
|-----------|-------------|----------|
| 1. いまだにある | 2. もはや存在しない | 3. わからない |
|-----------|-------------|----------|

**問30** あなたは、次の人が被差別部落の出身者であるかどうか気になりますか。あてはまるものを選んで○をつけてください。

**ア 近所の人 (いずれか1つ)**

- |         |           |          |
|---------|-----------|----------|
| 1. 気になる | 2. 気にならない | 3. わからない |
|---------|-----------|----------|

**イ 交際相手や結婚相手 (いずれか1つ)**

- |         |           |          |
|---------|-----------|----------|
| 1. 気になる | 2. 気にならない | 3. わからない |
|---------|-----------|----------|

**ウ 求人に対する応募者や職場の同僚 (いずれか1つ)**

- |         |           |          |
|---------|-----------|----------|
| 1. 気になる | 2. 気にならない | 3. わからない |
|---------|-----------|----------|

**問31** 部落差別に関する問題を解消するためには、どのようなことが必要だと思いますか。特に重要と思われるものを選んで○をつけてください。(3つまで)

- |  |
|--|
| 1. 被差別部落内外の人々の交流を深める                       |
| 2. 被差別部落の人が、一定の地区にかたまっ生活しないで、分散して住むようにする   |
| 3. 一人ひとりの人権意識を高める                          |
| 4. 教育水準を高め、安定した職に就き、生活力を高めることができるような施策を進める |
| 5. 相談体制を充実させる                              |
| 6. 差別を受けた被害者の救済を図る                         |
| 7. 部落差別をテーマにした啓発冊子を作成したり、研修会を開催したりする       |
| 8. 職場や地域社会でみんなが話し合えるような環境を作る               |
| 9. 身元調査をしない、させない取組を進める                     |
| 10. そっとしておけば、差別は自然になくなる                    |
| 11. どのようにしても差別はなくなる                        |
| 12. その他 (具体的に： )                           |
| 13. わからない                                  |

**人権啓発・教育の取組についておたずねします。**

**問32** さまざまな手段を使った啓発活動について、あなたが特に有効だと思うものを選んで○をつけてください。(3つまで)

1. 市の広報誌
2. 冊子・パンフレット
3. 新聞広告
4. 掲示物 (ポスターなど)
5. テレビ・ラジオ
6. 地域情報紙・タウン誌
7. 映画・ビデオ・DVD
8. インターネット

**問33**

**(1)** あなたは、過去5年の間に、人権に関する講演会や研修会などにどの程度参加しましたか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1. 3回以上参加した  | } _____ (問34へ) |
| 2. 1～2回参加した  |                |
| 3. 参加したことがない |                |

**(2)** (1)で「3. 参加したことがない」とお答えになった方におうかがいします。参加しなかったのはなぜですか。あてはまるものを選んで○をつけてください。(いずれか1つ)

1. 講演会や研修会が開催されていることを知らなかった
2. 他の予定があり、参加できなかった
3. 参加対象者が限定されており、参加できなかった
4. 関心がなかった
5. 人権については十分理解しており、参加する必要がないと思った
6. その他 (具体的に: \_\_\_\_\_ )





**自由記述でお答えください。**

人権に関して、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。


ご協力ありがとうございました。

ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて11月30日(水)までにご返信ください。

※オンラインで回答していただいた方は、返信の必要はありません。

人権に関する市民意識調査報告書

令和5年（2023年）3月

発行 彦根市（企画振興部人権政策課）

〒522-8501 滋賀県彦根市元町4番2号

TEL (0749)30-6115 / FAX (0749)24-8577





